

オイノ抑留……………一三八

第一款 第四戦隊ノ上海派遣……………一三八

第二款 第四戦隊ノ行動……………一四三

第五目 西貢ニ於ル「ダイヤー」ノ抑留……………一五九

備考文書

明治三十七八年海戦史

第一部 戦紀(第一期)

第二篇 旅順口及ヒ仁川ノ敵艦隊ニ對スル作戰

第十四章 黄海海戦

第一節 戦闘

第一目 戦闘概要

我カ聯合艦隊ハ明治三十七年二月九日最初ノ打撃ヲ旅順口ノ敵艦隊ニ加ヘ、以來前後八回ノ砲撃ヲ試ミ、三回ノ港口閉塞ヲ企テ、又屢機械水雷ヲ敵ノ港口附近ニ敷設スル等連續不斷ノ攻勢ヲ取リテ、以テ敵ヲ壓迫シ、加之陸軍モ亦漸次旅順口ノ背面ニ逼リタルヲ以テ、敵艦隊臨時司令長官海軍少將伊并リガリ、カ港内ニ弗ツチ、ウ并ホガフトハ極東太守ノ命ヲ受テ、極力損傷艦ヲ修理シ、六月二十三日在力ヲ舉ゲ、一度港外ニ出動シ、カ我カ艦隊ノ優勢ナルヲ見テ、空シク港内ニ引返シ、爾後其ノ主力ノ出動ヲ見サルニ至レ

リ、然レトモ我カ第三軍ノ作戰進行スルニ從ヒ、彼カ更ニ脱出ヲ試ミシトスルハ、殆ト疑ヲ容レサルヲ以テ、聯合艦隊司令長官海軍大將東郷平八郎ハ前章記載ノ如ク、益、銳意之ニ對スル諸般ノ計畫ヲ考案シ、特ニ戰策ヲ定メ、驅逐隊艇隊ノ哨區ヲ改正シ、遂ニ七月二十四日、各部隊ノ敵艦監視位地ヲ定メ、翌日ヨリ其ノ配置ニ就カシメ、以テ嚴ニ敵ヲ監視シツ、八月十日朝ニ至レリ、時ニ我カ諸隊ノ所在左ノ如シ、

第一戰隊三笠(東郷聯合艦隊司令長官旗艦)朝日、富士、敷島(第一艦隊司令官海軍少將梨羽時起旗艦)、四隻及ヒ第五

戰隊ノ八重山ハ圓島ノ北方ニアリ、

第一戰隊ニ加ヘラレタル日進(第三艦隊司令長官海軍中將片岡七郎旗艦)春日ノ二隻ハ帽島ノ南方

一海里ノ所ニアリ、

第三戰隊八雲(第一艦隊司令官海軍中將出羽重遠旗艦)笠置、千歲、高砂ノ四隻(淺間ハ炭水補充ノ爲メ昨九日裏長山列島ノ根據地ニアリ)

ハ老鐵山ノ南方約十五海里ニアリ、

第五戰隊橋立(第三艦隊司令官海軍少將山田彦八旗艦)松島ノ二隻(鎮遠ハ大岡口ニ赴キ嚴島ハ修理ノ爲メ裏長山列島ノ根據地ニアリ)ハ

小平島附近ニアリ、

第六戰隊明石(第三艦隊司令官海軍少將東郷正路旗艦)須磨、秋津洲ノ三隻(千代田ハ修理ノ爲メ青泥窪メ昨九日裏長山列島ノ根據地ニ赴ケリ)ハ遇岩附近ニアリ、

第一驅逐隊朝潮(司令海軍中佐藤本秀四郎乘艦)霞、白雲ノ三隻ハ旅順港口附近ニアリ、

第三驅逐隊雷(司令海軍中佐石田一郎乘艦)電、隴、曙ノ四隻ハ旅順口ノ南十海里ニアリ、

第三驅逐隊薄雲(司令海軍中佐土屋光金乘艦)東雲、漣ノ三隻ハ老鐵山ノ約西南方(D哨)ニアリ、

第一艇隊第六十九號(司令海軍少佐關重孝乘艇)第六十八號、第七十號、第六十七號、第六十七號ノ四隻ハ

鮮生角ノ約東南方(B哨)ニアリ、

第十六艇隊白鷹(司令海軍少佐若林欽乘艇)第三十九號、第七十一號、第六十六號ノ四隻ハ

旅順口ノ約南方(E哨)ニアリ、

第二艇隊第三十八號(司令海軍少佐宮司純清乘艇)第三十七號、第四十六

號、第四十五號艇ノ四隻

第二十二艇隊第四十七號(司令海軍少佐江副武晴乘艇)第四十四號、第四十

九號ノ三隻

ハ小平島ニアリ、

第四驅逐隊速鳥(司令海軍大佐長井群吉乘艦)春雨、朝霧、村雨、四隻

第五驅逐隊陽炎(司令海軍中佐具野巖次郎乘艦)夕霧、不知火、叢雲、四隻

第六艇隊第五十六號(司令海軍少佐内田良隆乘艦)第五十九號、第五十八號

第五十七號、四隻

第十艇隊第四十三號(司令海軍少佐大瀧道助乘艦)第四十二號、第四十號、第八青泥窪ニアリ、

四十一號、四隻

第十四艇隊千鳥(司令海軍少佐櫻井吉丸乘艦)鵜隼、真鶴、四隻

第二十艇隊第六十二號(司令海軍少佐荒川仲吾乘艦)第六十四號、第六十三

號、第六十五號、四隻

此ノ日朝來敵ハ港外ノ掃海ヲ急行セシカ、午前七時三十分頃ヨリ戰艦ツエザレウヰナ同、レトウヰナ同、ベレスウエー同、ボペー同、ボルター同、セワストーポリ巡洋艦、バルラーダ同、アスコリド同、ヂイヤーナ同、ノウヰナ同、及ヒ驅逐艦八隻、病院船一隻相前後シテ港外ニ出テ、先ツ蠻子營砲臺下ニ集合シ、數多ノ掃海船舶及ヒ、ノウヰナ同、ヲ先頭トシ、主力之ニ從ヒ、自己ノ敷

設水雷ヲ避クルカ爲メ、暫ク西方ニ航シ、更ニ針路ヲ南東ニ變セリ、是ヨリ先キ敵艦ノ出港ヲ見ルヤ、我カ哨艦艇ハ刻々報告ヲ旗艦三笠ニ發シタルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ乃チ八時五十分第一戰隊及ヒ八重山ヲ率非テ、先ツ西進シ、裏長山、列島ニアル淺間、竝ニ青泥窪ニアル驅逐隊艇隊ニモ、至急出港スヘキヲ命シ、十一時更ニ南シテ遇岩ノ南方ニ向ヒ、同四十二分同航シ、ツ、アル八重山ヲシテ、大連灣ノ方向ニ急航シ、青泥窪ヨリ出發シ來ル驅逐隊艇隊ヲ本隊ノ所在地ニ嚮導シ來ラシメ、帽島ノ南方ニアリシ日進、春日ヲ合同セシメ、午後零時九分遇岩ノ南東微南三海里ニ達シ、又他ノ諸隊モ既ニ豫定計畫ニ基キ、各其ノ配備ニ就ケリ、時ニ天晴レテ風力一乃至ニナル南風アリ、淡霧海上ヲ罩メ、七八海里以上ヲ望見スルコト能ハサルモ、波穩ニシテ海戰ニ適セル良天候タリ、既ニシテ第一戰隊ハ更ニ西南西ニ向針セシカ、時ニ敵艦隊既ニ遇岩ノ西北西約十海里ノ所ニ現レタリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ先ツ第一戰隊ヲシテ、左八點ニ一齊回頭ヲナシ、横陣ヲ制リテ南々東ニ航セシメ、以テ敵ヲ成ルヘク洋中ニ誘致セント欲セシニ、彼ハ南東

方ニ向ヒ、一意逸走セント欲スルモノ、如クナルヲ以テ、更ニ同戰隊ヲシテ左八點ニ一齊回頭ヲナシ、逆番號單縱陣トナシテ敵ノ先頭ヲ壓シ、同隊各艦ヲシテ徐ニ遠距離射撃ヲ開始セシム。敵モ亦直ニ之ニ應戰セリ、而テ我ハ漸次左方ニ轉首セシニ、敵ハ其ノ針路ヲ南方ニ變シタルヲ以テ、午後一時三十六分ニ至リ、東郷司令長官ハ同戰隊ヲシテ右十六點ニ一齊回頭ヲナシメ、速力ヲ十四海里トナシテ敵ノ航路ヲ壓迫セシニ、敵ハ再左方ニ轉シ、南東ニ向ヒタルヲ以テ、東郷司令長官ハ同五十七分第三戰隊ニ向ヒ、敵ノ巡洋艦ヲ攻撃セヨト命シ、第一戰隊ヲシテ右ニ轉回シ、敵ト並行ノ航路ヲ取ラシメ、又八雲ニ向ヒ、敵ノ巡洋艦先ツ遁逃スルヲ以テ、之ヲ追撃セヨト命ス、既ニシテ敵ハ漸次其ノ針路ヲ左方ニ變シ、彼我ノ距離相遠サカリタルヲ以テ、三時二十分射撃ヲ中止シ、第一戰隊ノ速力ヲ十五海里ニ増加シ、同四十三分驅逐隊ニ向ヒ、敵ノ驅逐隊ハ遙ニ前方ニ進ミツ、アリ、注意セヨ、或ハ我カ隊ニ反抗シ來ルヤモ計ラレスト注意セリ、時ニ第三戰隊ハ敵ノ後方約八海里ニアリテ、其ノ退路ヲ扼シ、第六戰隊ハ第一戰隊ノ右後方約五海里ニ占位ス、既ニシ

テ四時六分驅逐隊ヲシテ第六戰隊ノ附近ニ居ル驅逐隊ニ向ヒ、本隊ノ非戰側彈著距離外ノ位置ニ於テ、其ノ隊ト共ニ居レト傳命セシム、射撃ヲ中止シテヨリ、殆ト二時間敵ヲ追ヒ、第一戰隊ハ徐々ニ左方ニ向首シテ、五時三十分山東角ノ北方約四十五海里ノ地點ニ至リ、敵ノ先頭ト七千米突内外ニ近ツギタルヲ以テ、再戰闘ヲ開始シ、愈敵ニ接近シテ、其ノ先頭ヲ壓迫シ、戰闘激烈ヲ極メシカ、六時四十分頃ニ至リ、敵ノ先頭艦ツエザレウ井チ遽ニ左轉シテ自己ノ列中ニ突入シ、是ヨリ敵陣亂レテ陣形崩レ、各艦或ハ右シ、或ハ左ス、仍テ我カ第一戰隊之ニ乘シ、偶來リ合セル第三戰隊ノ八雲ト共ニ、漸次北方ニ彎航シテ敵ノ前路ヲ遮リ、三千五百乃至五千米突ノ距離ニ於テ、之ヲ掩撃シタルヲ以テ、敵潰亂シ概ネ西方ニ逃レントセシカ、此ノ時恰モ第五戰隊ノ一部及ヒ淺間來會シテ北西方ヨリ、第三戰隊ハ南東方ヨリ、第一戰隊ハ左四點ニ回頭シテ東方ヨリ、各敵ヲ包圍砲撃シタルヲ以テ、敵艦隊ハ全ク四分五裂ノ状態ニ陥リ、先ツアスコリトラレウ井チ及ヒ數隻ノ驅逐艦ハ南方ニ遁レントセシカハ、斯クト見タル第三戰隊ハ轉シテ之ヲ追撃シ、又遙ニ第一戰隊

ソ約南々東方ニアリテ警戒シ居タル第六戦隊ハ其ノ前路ヲ遮リ其ノ他ノ諸隊モ益々激戦ヲ續ケントセシニ此ノ際日全ク没シ彼我ノ艦影ヲ識別スル能ハサルニ至リタルヲ以テ我カ各隊ハ戦闘ヲ止メ東郷聯合艦隊司令長官ハ同八時驅逐隊艇隊ニ向ヒ敵艦隊ヲ襲撃セヨト命セリ是ヨリ先キ驅逐隊艇隊ハ戦場外ニアリテ戦況ヲ注視セシカ日没比ヨリ漸次敵艦隊ト觸接ヲ保チテ晝間最後ノ戦場ト遇岩トノ間ニ於テ各隊個々ニ敵ヲ索メテ襲撃ヲ試ミタリ是ニ於テ敵艦隊愈々亂レ暗ニ乘シテ西道南竄シツエザレウ井チノ一ウ井ク及ヒ驅逐艦三隻ハ膠州灣ニ走り驅逐艦ノ一隻ハ芝罘ニ逃ケ又其ノ一隻ハ山東角附近ニ擱岸シアスコリド及ヒ驅逐艦一隻ハ上海ニ遁レ巡洋艦「ダイヤモンド」ハ柴棍ニ逸シ其ノ他ノ戰鬥艦五隻巡洋艦一隻ハ旅順口ニ退却シ又一旦膠州灣ニ入りタルノ一ウ井クハ更ニ浦鹽斯德港ニ至ラントシテ太平洋ヲ旋リ宗谷海峡附近ニ至リテ我カ千歲對馬ノ爲メニ撃破セラレタリ

八月十二日東郷聯合艦隊司令長官ニ左ノ勅語ヲ賜フ

聯合艦隊ハ敵ノ艦隊主力ヲ旅順口沖ニ邀撃シ大ニ之ヲ敗リ多大ノ損害ヲ與ヘタリ

朕深ク其ノ武勇ヲ嘉尚ス

翌十三日皇后宮大夫子爵香川敬三ハ左ノ皇后陛下ノ令旨ヲ傳フ

聯合艦隊ハ旅順口外ニ逸走シタル敵ノ艦隊ヲ邀撃シテ潰亂ニ至ラシメタル趣

皇后陛下ノ懿聞ニ達シ我カ將校下士卒ノ忠勇毎戦善ク其ノ功ヲ奏シタルヲ深ク御感賞アラセラル

又同日皇太子殿下ヨリ左ノ令旨ヲ賜フ

聯合艦隊ハ脱出ヲ圖リタル敵ノ艦隊ヲ大ニ撃破シ遂ニ之ヲ潰走セシメタルノ報ニ接シ將卒ノ忠勇ヲ欣尚ス

同十二日聯合艦隊司令長官海軍大將東郷平八郎ハ勅語ニ對シ左ノ奉答文ヲ奉ル

旅順ノ敵艦隊ニ對スル戦捷ニ對シ茲ニ復々優渥ナル勅語ヲ賜ハリ臣等

感激ニ堪ヘス敗殘ノ敵ノ主力ハ再ヒ旅順ニ遁入シタルモ各方面ニ於ケル作戦尙ホ進行中ニ在リ臣等奮勉有終ノ戦果ヲ收メシコトヲ期ス
右謹テ奏ス

又同十三日 皇后陛下ノ令旨ニ對シ、左ノ奉答文ヲ奉ル、

旅順ノ敵艦隊ニ對スル戦捷ニ付茲ニ又優渥ナル 令旨ヲ賜ハリ感激ニ堪ヘス益奮勵有終ノ戦果ヲ收メシコトヲ期ス

右謹テ奉答ス

又同日 皇太子殿下ノ令旨ニ對シ、左ノ奉答文ヲ奉ル、

旅順ノ敵艦隊ニ對スル戦捷ニ付茲ニ又優渥ナル 令旨ヲ賜ハリ感激ニ堪ヘス益奮勵有終ノ戦果ヲ收メシコトヲ期ス

右謹テ奉答ス

以上ハ海戦ノ概要ナリ、尙各戦隊ニ分チテ之ヲ左ニ詳記ス、

第二目 第一戦隊ノ戦況

東郷聯合艦隊司令長官ノ直率セル第一戦隊三笠(同司令長官旗艦)朝日富士敷島(梨

第一艦隊司令官旗艦)及ヒ通報艦八重山ハ八月十日早朝圓島ノ北方ニアリシカ、午前六時三十五分頃ヨリ漸次敵艦脱出ノ報ニ接シタルヲ以テ、八時五十分十海里ノ速力ニテ先ツ遇岩附近ニ向ヒ航進セシカ、九時三十八分頃ニ至リ、青泥窪ニアル扶桑ヨリ、午前九時十分敵ノ戦艦五隻、巡洋艦三隻、砲艦三隻、驅逐艦十隻、四隻港外ニアリ、敵ノ戦艦ハ蠻子營砲臺下ニ假泊ス、旗艦ハ「レトウ井ザン」ナルカ如シ(編者曰ク敵ノ旗艦ハ「ツエザレウ井チナリシ」トノ報アリタルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ裏長山列島ノ根據地ニアル淺間、及ヒ青泥窪ニアル驅逐隊艇隊ノ全部ニ向ヒ、至急出航ヲ命シ、愈進航ヲ續ケ、同五十五分ニ至リシニ、小平島附近ニアル橋立ヨリ、敵ノ主力艦隊見ユ、敵ハ南東方ニ進ムトノ報告ヲ得、次テ十時五十分ニ至リ、敵ハ渤海灣ノ方向ニ向フト報セリ、既ニシテ東郷聯合艦隊司令長官ハ十一時五分帽島附近ニアル日進(片岡第三艦隊司令長官旗艦)春日ニ合同ヲ命シ、又青泥窪ヲ出港スヘキ驅逐隊艇隊ヲ第一戦隊所在地ニ招カント欲シ、八重山ニ其ノ意ヲ傳ヘテ、十一時四十二分大連灣ノ方向ニ急航セシメシカ、同三十分日進春日來會シ、日進ヨリ東郷聯合艦隊司令長官ニ向ヒ、敵ハ「バヤーン」ノ外

皆出テ、渤海灣ノ方ニ向ヘリ、我カ驅逐隊艇隊ニハ皆出航ヲ命シ置ケリ、敵ハ驅逐艦十四隻ヲ備フト報セリ、是ヨリ先キ日進、春日ハ午前八時二十分頃帽島附近ニアリテ、不定ノ運動ヲ取リ、以テ敵艦ノ鮮生角東灣ニ來ルニ備ヘツ、アリシニ、旅順港外ニ於テ二三隻ノ敵艦漂泊シアルヲ見、速力ヲ増加シテ九時二十分小平島ノ望樓下ニ達ス、此ノ時既ニ敵ノ主力艦隊ハ「バヤーン」ヲ除クノ外總テ港外ニアルヲ望ミ、次テ十時其ノ漸次西航スルヲ認メタルヲ以テ、片岡第三艦隊司令長官ハ小平頭望樓ヲシテ、驅逐隊艇隊ハ敵艦隊南下ニ對スル配備ニ就クヘキ旨ヲ傳ヘシメ、速力ヲ十四海里トナシ、第一戰隊所在地ニ向ヒ、途中ニ於テ合同ノ命ヲ受ケ、終ニ之ト會セルニ至レルナリ、

日進、春日既ニ合ス、是ニ於テ第一戰隊ハ十一時三十分三笠朝日、富士、敷島、春日、日進ノ順序ニテ單縱陣ヲ制リ、午後零時九分遇岩ノ南東微東三海里ノ所ニ達シ、夫ヨリ十二海里ノ速力ヲ以テ西南西ニ航シ、漸次速力ヲ増加シテ十四海里トナシ、以テ恰モ南下シツ、アル敵艦隊ノ前路ヲ遮ラントセシカ、同

三十分頃ニハ既ニ約十海里ヲ距テ、敵艦隊ト相對スルニ至リタルヲ以テ、同三十五分左四點ニ一齊回頭ヲ爲シ、右先鋒單梯陣ニ變シテ、南々西ニ航行スルコト十餘分、右四點ニ一齊回頭シテ單縱陣ニ復シ、同五十五分各艦戰闘旗ヲ掲ク、時ニ敵ハ「ツエザレウ非チ」「レトウ非ザン」「ポベード」「ベレスウエート」「セロストーポリ」「ホルターワ」「アスコリド」「バルラーダ」「ダイヤモンド」ノ順序ニテ單縱陣トナリ、別ニ「ノーウ非ク」及ヒ驅逐艦八隻其ノ左側ニ占位シ、病院船一隻後方ニ從ヒタリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ成ルヘク敵ヲ外方ニ誘致セント欲シ、同五十八分左八點ニ一齊回頭ヲ爲シ、橫陣ニ變シ、南々東ニ航セシニ、敵ハ專ヲ逸走ヲ企テ、南東方ニ變針スルノ狀アリタルヲ以テ、第一戰隊ハ一時八分更ニ左八點ニ一齊回頭ヲ爲シ、逆番號單縱陣トナリ、日進ヲ嚮導トシテ東北東ニ航シ、各艦相前後シテ徐々ニ遠距離射撃ヲ始メ、敵モ亦直ニ之ニ應戰シ、爰ニ第一合戰開始セラレタリ、而テ同二十五分ニ至リ、第一戰隊ハ左二點ノ正面變換ヲ爲シテ北東ニ向ヒ、以テ敵ノ先頭ヲ壓スルノ運動ヲ取リシニ、敵ハ其ノ針路ヲ右轉シテ南方ニ向ヒ、第一戰隊ノ後方ニ遁レ

ント企テタルモノ、如クナルヲ以テ、同隊ハ同三十六分右十六點ノ一齊回頭ヲ爲シテ、順番號ノ單縱陣ニ復シ、速カヲ十四海里トナシテ南西ニ航シ、以テ豫定ノ戰策ニ據リ、敵ノ陣列ニ對シ、丁字ヲ畫キ、敵ノ先頭ニ集彈セシニ、敵ハ再左方ニ轉シ、南東ニ向ヒ、爲メニ其ノ陣形ハ波狀ヲ呈シテ艦々重疊セシ姿トナレリ、我カ第一戰隊之ニ乘シ、漸次北方ニ右轉シツ、彼ヲ掩撃セシカハ、其ノ後列ニ占位セル巡洋艦ハ皆遠ニ戰艦ノ非戰側ニ轉シ、自然ニ不規則ナル二列縱陣ノ如キ觀ヲ呈シ、專ラ戰鬪ヲ避ケ南東ニ向ヒ逸走セリ、是ニ於テ第一戰隊ハ右ニ轉回シ敵ノ前路ヲ遮ラントセシモ、時機少シク遅レテ之ヲ遂行スル能ハサリシヲ以テ、已ムヲ得ス敵ト並行ノ航路ヲ取レリ、當時敵ハ我ヨリ少シク前方ニアリテ、我カ先頭タル三笠ハ恰モ敵陣列ノ中央ト相對シツ、追撃ヲ加ヘシカ、敵ハ漸次其ノ針路ヲ左方ニ變シ、爲メニ彼我ノ距離相遠サカリタルヲ以テ、三時二十分頃一旦射撃ヲ中止スルニ至レリ、此ノ第一戰ニ於ル各艦ノ戰況ヲ列記スレハ、一番艦タル旗艦三笠ハ午後一時十五分敵ノ嚮導艦タルツエザレウ非チニ對シ、一萬米突ノ距離ヲ測リテ十二

尹砲ノ發射ヲ始メシカ、同三十三分敵彈其ノ無線電信機ノ一部ヲ破碎シ、次テ同三十六分頃十二尹ノ敵彈一發後部シニ「エルターデツキ」ニ來リ、大橋ノ根元ヲ大破シ、下士卒四名ヲ斃シ、海軍大尉市川節太郎以下八名ヲ傷ケタリ、同四十四分敵艦ツエザレウ非チニ二發命中シテ黒烟盛ニ上騰セルヲ認メタリト云フ、同四十六分ヨリ同艦ノ距離八千米突ナルヲ測リテ六尹砲ノ發射ヲ始メシカ、同四十九分頃恰モ反航シツ、アル敵ノ一二番艦ニ砲彈命中シ、火災ヲ起セルヲ認メタリト云フ、次テ同五十四分距離六千八百米突ヲ測リテ、敵ノ三番艦ヨリ順次四番艦ニ對シ、同五十六分距離七千三百米突ナル四番艦ニ命中セルヲ認メタリト云フ、同五十八分七千五百米突ヲ測リテ「アスコリ」ニ對シ、二時之ニ命中セルヲ認メタリト云フ、既ニシテ我ハ右方ニ回頭シ、敵ト併行ノ姿勢トナリ、同四十五分頃ヨリ鍛鋼徹甲兩榴彈ヲ交互ニ發射セシカ、三時一分敵彈六番六尹砲ノ下水準邊ニ中レリ、同二分ニハ八千五百米突ノ距離ヲ測リテ、其ノ砲彈敵ノ殿艦ニ命中セルヲ認メタリト云フ、同五分敵彈復我カ後甲板ノ下ニ中レリ、同九分ニハ再「ボルター」ニ命中シ、橋

頭ノ軍艦旗飛散スルヲ認メタリト云フ、次テ又敵ノ跳弾來リテ其ノ後部煙突ニ中レリ、既ニシテ同二十一分ニ至リ距離遠サカリタルヲ以テ射撃ヲ中止セリ、

二番艦朝日ハ午後一時二十八分先ツ敵ノ殿艦ニ對シ、距離一万四千米突ヲ測リテ、十二尹砲ノ發射ヲ開始シ、次テ同三十一分頃ヨリハ其ノ先頭艦ヲ射撃シ、同四十六分七千乃至六千米突ノ距離ヲ測ルニ至リタルヲ以テ、六尹砲ヲモ發射シ、二時頃ヨリハ之ヲ用ヒテ「アスコリド」ヲ射撃セリ、次テ同五十分敵彈左舷「ホールブレース」ヲ破損ス、既ニシテ三時二十一分ニ至リ、彼我ノ距離遠サカリタルヲ以テ射撃ヲ中止セリ、此ノ合戦ニ於テ卒一名彈片ニテ負傷ス、

三番艦富士ハ午後一時十七分先ツ敵ノ先頭艦ニ對シ、一万二千米突ノ距離ヲ測リテ、十二尹砲ノ發射ヲ開始シ、同四十九分距離六千五百米突ヲ測ルニ至リタルヲ以テ、六尹砲ヲモ發射セリ、時ニ彼我艦隊反航シ、距離急變セシヲ以テ、漸次照準ヲ敵ノ後續艦ニ變更シ、同五十一分一時發射ヲ中止シ、艦長ハ

砲員ニ向ヒ、沈著發射スヘキコトヲ諭シテ、直ニ復之ヲ開始ス、同五十二分敵ノ六番艦ニ對シ、距離七千二百米突タリ、同五十四分ニハ距離七千米突タリ、同五十六分ニハ距離六千八百米突タリ、同五十七分約七千三百五十米突ナル「アスコリド」ヲ撃チ、其ノ火災ヲ起セルモノ、如クナルヲ認メタリト云フ、二時一分又轉シテ距離七千米突ヲ測リテ敵ノ殿艦ニ對シ、同二分ニハ距離七千七百米突ヲ測リシカ、幾モナク彼我ノ距離遠サカリタルヲ以テ、暫ク六尹砲ノ發射ヲ中止シ、次テ十二尹砲ヲモ中止セリ、是ヨリ先キ我ハ漸次右方ニ回頭シ、二時九分敵殿艦ノ距離一万米突ナルヲ測リ得タルヲ以テ、發射ヲ開始シ、五分時ヲ經テ復中止シ、同二十分更ニ敵殿艦ノ距離一万二千米突ヲ測リテ之ヲ撃チ、同三十分頃ニ至リ、明ニ敵ヲ照準シ能ハサル場合ト爲リタルヲ以テ、之ヲ止ムルコト十六分間、即チ二時四十六分復照準シ得ルニ至リテ之ヲ續行シ、一万一千米突ノ距離ヲ測リテ六番艦ヲ撃チ、同五十四分ニハ九千五百米突ヲ測リ、三時一分ニハ九千米突ヲ測リ、同二分ニハ其ノ火災ヲ起シタル如キヲ認メタリト云フ、同六分距離一万五千米突ヲ測リテ四番艦

ニ對シ、同七分其ノ火災ヲ起シタル如キヲ認メツ、同十一分二万一千米突
ノ距離トナリ、敵ト並行セシカ、同十九分彼我ノ距離遠サカリタルヲ以テ、砲
撃ヲ中止セリ、

四番艦敷島ハ午後一時二十七分一万二千米突ノ距離ヲ測リテ一敵艦ニ向
ヒ、十二尹砲ノ發射ヲ開始シ、同四十七八分ノ頃ニハ漸次接近シテ、約八千米
突ニ至リシヲ以テ、同時ニ六尹砲ヲモ發射シ、二時ニ至ルマテ、八千百乃至七
千米突ノ距離ヲ測リテ之ヲ續行セシカ、其ノ砲彈「アスコリド」ニ命中シ、白煙
上騰シ、敵ノ巡洋艦隊蒼皇陣形ヲ變シ、位置ヲ戰艦ノ非戰側ニ變セルヲ認メ
タリト云フ、既ニシテ同十五分敵艦トノ距離過遠ナルニ至リタルヲ以テ、一
時發射ヲ中止シ、尋テ他艦ト共ニ、漸次右方ニ回頭シテ敵ト並行シ、同五十分
一万三千米突ノ距離ヲ測リ得タルヲ以テ、再砲撃ヲ開始シテ鍛鋼、徹甲兩榴
彈ヲ交互ニ發射シ、同二十五分ニハ距離一万五百米突、三時十分及ヒ十五分
ニハ一万一千五百米突ノ距離ニテ、各「ボルター」ニ命中シタルヲ認メタリ
ト云フ、次テ同二十二分三十秒ニ至リ、彼我ノ距離相遠サカリタルヲ以テ、遂

ニ射撃ヲ中止セリ、

五番艦春日ハ午後一時六分頃一万三千米突ノ距離ヲ測リテ、敵ノ先頭艦ニ
向ヒ、八尹砲ノ發射ヲ開始セシカ、其ノ第二彈ハ敵艦ノ中央部ニ命中セルモ
ノ、如シ、是ヨリ十尹砲及ヒ八尹砲ヲ以テ砲撃ヲ續行セリ、既ニシテ同五十
分ニ至リ、七千二百米突ノ距離ヲ測リ得タルヲ以テ、六尹砲ヲモ發射シ、其ノ
命中彈ノ炸裂スル爲メ屢敵ノ艦影ヲ沒スルヲ認メシト云フ、幾モナクシテ
敵ノ巡洋艦ハ戰艦ノ非戰側ニ出テ、二時十分頃敵艦ノ距離過遠ナルヲ以テ、
一時發射ヲ中止シ、次テ先頭艦ニ隨ヒテ右方ニ回轉シ、敵ト並航シ、同五十二
分ニ至リ距離一万米突ヲ測リテ敵ノ殿艦ニ對シ、再十尹砲及ヒ八尹砲ヲ發
射シ、一彈ハ其ノ前艦橋附近ニ命中シ、三時十分ニハ其ノ後部煙突上部ニ命
中シタルヲ認メタリト云フ、既ニシテ同十五分ニ至リ、彼我ノ距離遠サカリ
タルヲ以テ射撃ヲ中止セリ、

六番艦日進ハ午後一時十四分一万三千米突ノ距離ヲ測リテ、敵ノ先頭艦ニ
向ヒ、八尹砲ノ發射ヲ開始シ、同三十七分九千米突ヲ測リ得タルヲ以テ、六尹

砲ヲモ發射シ、同四十五分八千五百米突ノ距離ニテ一彈之ニ命中セシモノ
ノ如シ、漸次接近シテ六千七百米突ヲ測ルニ至リシカ、二時敵彈右舷、子ツチ
シグ「ヨリ大櫓ヲ貫通シ、卒一名ヲ斃シ、下士卒七名ヲ傷ケタリ、同一分七千五
百米突ノ距離ニテ一彈、アスコリドニ命中セル如シ、同十分ニハ一万米突ニ
離レタルヲ以テ、八尹砲ノミヲ發セシカ、同時敵彈前部艦橋ニ命中シ、海軍大
主計倉田順及ヒ下士一名ヲ斃シ、海軍少尉村松定矩以下五名ヲ傷ケタリ、同
四十九分一万二千米突ヲ測リタル一彈敵ノ殿艦ニ命中シタル如クナリシ
カ、三時八分先頭艦ニ從ヒテ右ニ迴轉シツ、暫時發射ヲ中止シ、敵ト並航ス
ルニ及ヒテ、同十八分一万四千米突ヲ測リテ再發射ヲ始メ、同五十七分ニ至
リ、彼我ノ距離相遠サカリタルヲ以テ之ヲ中止セリ、

以上列記ノ如ク、第一戰隊ノ各艦ハ敵ト砲撃ヲ交ヘテ、第一合戰ヲ了リ、此ト
並行シテ之ヲ追ヒツ、三時三十二分ヨリ速力ヲ十五海里ニ増加シ、同五十
分南東微東ニ變針シ、四時三十分又東南東ニ變針シ、五時頃ヨリ彼我ノ距離
始テ接近シ、同二十七分益、相近ツキ、同三十分山東角ノ北方約四十五海里ノ

地點ニ於テ、彼我ノ先頭距離約七千米突以內ニ入りタル頃ヨリ第二合戰ヲ
開始シ、砲戰漸時猛烈トナリ、我ハ敵ノ先頭ヲ壓迫シ、砲擊顯著ナル効果ヲ奏
シ、激戰約一時間ノ後、敵ノ砲火較ヤ衰ヘタル如クナリシカ、六時三十七分我
カ十二尹砲彈敵ノ先頭艦タル「ツエザレウ非チ」ノ司令塔附近ニ爆裂スルト
見ルヤ、同艦ハ遽ニ左舷ニ一迴轉シテ、自己ノ列中ニ突入セリ、是蓋其ノ舵機
ヲ損シ、操舵意ノ如クナラサルカ爲メニシテ、敵ノ陣形是ヨリ亂レ、各艦或ハ
右シ或ハ左シ、殆ト一所ニ群集セルモノ、如キ觀ヲ呈セリ、是ニ於テ第一戰
隊ハ七時ヨリ取舵ヲ以テ北方ニ彎航シツ、敵ヲ包圍シ、以テ同三十七分ニ
至リ、一齊ニ左二點ニ回頭セシカ、偶敵ノ驅逐艦ニ接近シ、危險ノ慮アリタル
ヲ以テ、同四十一分一齊ニ右二點ニ回頭シテ之ヲ避ケ、七時四十八分更ニ一
齊左四點ニ回頭シテ敵艦隊ニ迫レリ、是ヨリ先キ敵ハ彌潰亂シテ、各艦各自
ニ西方ニ逃レントスルモノ、如クナリシガ、恰モ好シ、淺間及ヒ第五戰隊ノ
一部并ニ第三戰隊等諸方ヨリ攻撃セシヲ以テ、今ヤ全ク四分五裂ノ状態ト
ナリ、第一戰隊ハ同五十四分再一齊ニ右四點ニ回頭セシモ、八時二分日沒シ

タルヲ以テ戰鬪ヲ止メタリ、
 此ノ第二戰ニ於ル、各艦ノ戰況ヲ列記スレハ、一番艦三笠ハ午後五時三十七分敵艦「ボルター」ノ發砲ニ應戰シテ、十二尹及ヒ六尹砲ノ射撃ヲ開始シ、同三十八分七千三百米突ノ距離ヲ測リテ、先ツ敵ノ先頭艦「ツエザレウ」ヲ集彈シ、同四十七分頃ニハ七千五百米突ニテ二番艦ニ、同五十五分頃ニハ八千二百米突ニテ三番艦ニ、六時三十七分頃ヨリ七時六分頃ニ互リ、敵陣形ノ散亂セルニ乘シ、三千七百米突マテ接近シテ、「ペレスウエ」トニ、七時六分頃ヨリ同二十五分ニ互リ、三千六百五十米突マテ接近シテ、「レトウ」ヲ非ザンニ、同三十六分頃ニハ三千二百米突ニテ、「ポペーダ」型ニ、各集彈シテ屢命中爆裂スルヲ認メタリト云フ、殊ニ六時四十一分頃ヨリハ十二斤砲ヲモ發射シ、又七時三十九分左舷艦首ニ當リ、五千二百米突ノ距離ニ於テ、敵ノ驅逐艦二隻ヲ見テ、之ヲ撃チシカ、八時二分日没ト相前後シテ發射ヲ止メタリ、然ルニ敵モ亦專ラ三笠ニ集彈シタルヲ以テ、敵彈ノ命中セル主ナルモノ、ミニテモ二十餘發ニ及ヒタリ、其ノ死傷者ヲ出セシハ、五時五十八分頃敵彈我カ後部十

二尹砲ノ附近ニ爆裂シ、之ト同時ニ十二尹砲一門破損シテ、卒一名戰死シ、分隊長海軍大尉博恭王殿下及上等兵曹以下十三名負傷セルヲ始トシテ、引續キ七時四十分ニ至ルマテ、前後十發ニ及ヒ、少尉候補生以上ノ戰死者四名、負傷者九名、兵曹長ノ負傷者一名、上等兵曹以下ノ戰死者十九名、負傷者七十九名ヲ出セリ、就中六時三十分前艦橋ニ爆裂セル一彈ノ如キハ、海軍中尉藤瀬眞二郎及ヒ下士卒四名ヲ斃シ、艦長海軍大佐伊地知彦次郎、聯合艦隊參謀海軍少佐殖田謙吉、同小倉寬一郎及ヒ准士官以下十五名ヲ傷ケタリ、
 二番艦朝日ハ午後五時四十分、先ツ九千五百米突ノ距離ヲ測リテ、敵ノ殿艦ニ向ヒ、十二尹砲ノ射撃ヲ開始シ、尋テ六時十二分ヨリ六尹砲ヲモ發射セシカ、同三十分ニ至リ、殿艦漸次其ノ隊ヨリ後レタルヲ以テ、乃チ目標ヲ變シ、八千五百乃至七千三百米突ヲ測リテ、前砲臺ハ先頭艦ヲ射撃シ、後砲臺ハ五番艦ヲ射撃セリ、既ニシテ敵陣大ニ混亂スルニ及ヒ、同五十五分孤立セル「レトウ」ヲ非ザンヲ撃チ距離短縮セルヲ以テ、七時十二分ヨリ凡七分間十二斤砲ヲ

モ發シ、其ノ間約三千八百米突マテ接近セリ、次テ同五十分彼我ノ距離遠ク
 カリタルヲ以テ、先ツ六尹砲ノ發射ヲ止メ、八時六分ニ至リ、十二尹砲ノ發射
 ヲモ止メタリ、而テ敵彈ヲ受ケシハ、僅ニ左舷後部水線下ニ命中セル一發ニ
 シテ、又他ノ彈片ニ依リ將校一名負傷セルノミ、
 三番艦富士ハ午後五時三十六分七千八百米突ノ距離ヲ測リテ、敵ノ先頭艦
 ニ向ヒ、十二尹砲及ヒ六尹砲ノ發射ヲ開始シ、之ヲ續行スルコト八分間、同四
 十六分ヨリ、凡八千四百乃至八千八百米突ヲ測リテ、二番艦ヲ撃チ、同五十三
 分ヨリ復轉シテ、九千米突ヲ測リテ、四番艦ヲ撃チ、次テ六時頃ヨリハ、更ニ八
 千九百米突乃至七千三百米突ヲ測リテ、三番艦ヲ撃チ、同三十一分七千八百
 五十米突ヲ測リテ、再四番艦ヲ撃チ、以テ同四十七分ニ至リシニ、彼發砲セサ
 ルニ至リシヲ以テ轉シテ七時頃マテ六千乃至五千二百米突ヲ測リテ、五番
 艦ヲ撃チツ、アリシニ、七時二分頃、レトウ非ザン^レノツエザレウ非チ^レニ代リ
 テ先頭ニ立ツヲ認メ、同五分五千四百米突ヲ測リテ之ヲ撃チ、他艦ト共ニ漸
 次之ヲ包圍シテ、約四千百米突マテ接近シ、尋テ八千乃至一萬米突ニテ、ボベ

「ダ」ツエザレウ非チヲ撃チタル後、八時五分發射ヲ止メタリ、而テ損害及ヒ
 死傷者ナシ、

四番艦敷島ハ午後五時三十八分一敵艦ニ向ヒ、八千五百米突ノ距離ヲ測リ
 テ、十二尹砲ノ發射ヲ開始シ、同四十五分ニハ、約八千米突マテ接近シタルヲ
 以テ、同四十七分三十秒ヨリ六尹砲ヲモ發射シ、八時十分ニ至ルマテ、一萬乃
 至四千六百米突ノ距離ヲ測リテ之ヲ續行シ、ボルター^レ「セワストーポリ」ツ
 エザレウ非チ^レ「レトウ非ザン」等ヲ撃チ、屢命中シタルヲ認メタリト云フ、而テ
 敵彈ヲ受ケタルハ六時三十分ニシテ、將官公室ノ左舷側ニ命中セル一發ノ
 ミ、固ヨリ死傷者ナシ、

五番艦春日ハ午後五時三十七分敵艦ノ發砲ニ應戰シテ、十尹砲及ヒ八尹砲
 ノ發射ヲ開始シ、約七千米突ノ距離ヲ測リ、主トシテ敵ノ殿艦ヲ撃チ、次テ五
 番艦ヲ撃チ、六時十分頃ヨリ他艦ト共ニ益敵ヲ壓迫シテ、激烈ナル砲戰ヲ續
 ケシカ、同二十五分頃約七千三百米突ニ接近シタルヲ以テ、六尹砲ヲモ發射
 シ、其ノ一部ヲ以テ先頭艦ヲ撃テリ、既ニシテ敵陣大ニ亂レ、我ハ愈之ニ迫リ、

「レトウ非ザン」ノ如キ、七時十分頃ニハ約四千四百米突ノ距離トナリタルヲ以テ、之ニ集弾セシカ、尋テ敵艦交、敗走シ、距離漸ク遠サカリタルヲ以テ、同二十分頃發射ヲ止メタリ、而テ敵彈ヲ受ケタルハ、後甲板、二番六尹砲、信號旗格納室等ノ三發ニシテ、卒及ヒ傭人十一名負傷セリ、

六番艦日進ハ、午後五時二十分一万二千五百米突ノ距離ヲ測リテ、敵ノ殿艦ニ向ヒ、八尹砲ノ發射ヲ開始シ、尋テ同三十六分八千五百米突ノ距離ヲ測ルニ及ヒテ、六尹砲ヲモ發射セリ、六時四十分頃ニ至リ、敵陣大ニ亂ル、ニ乗シ、三番艦ヲ撃チ、同五十分ニハ距離約六千八百米突トナリシカ、七時敵彈後艦橋ニ爆裂シ、第三艦隊機關長海軍機關大監齋藤利昌、參謀海軍少佐松本直吉、同大尉横山傳、副官海軍少佐高橋雄一及ヒ筆記長一名、准士官、下士卒六名ヲ斃セリ、其ノ内九名ハ全ク遺體ヲ留メサルノ慘狀ヲ呈シ、尙下士卒二名ヲ傷ケタリ（編者曰ク、他ニ死傷者ヲ生セサル命）同八分頃敵ノ三番艦突進シ來ルカ如キ狀アルヲ見テ、五千米突ヲ測リテ之ニ集弾シ、同十六分其ノ左舷ニ回頭逃去スルヲ認メタリト云フ、既ニシテ「アスコリド」ノ南方ニ逃走セントスルヲ

見同五十四分一万二千米突ヲ測リテ之ヲ撃チ、八時ニ至リテ射撃ヲ止メタリ、

以上列記ノ如ク、各艦ハ第二合戦ニ於テ、奮戦シテ遂ニ敵ヲ敗走セシメシカ、戦未タ終ラサルニ日全ク没シタルヲ以テ、乃チ之ヲ驅逐隊、艇隊ニ讓リテ、午後八時二分戦闘ヲ止ム、其ノ位地ハ東經百二十二度四十分、北緯三十八度ニシテ、夫ヨリ東經百二十四度十一分、北緯三十五度三十分ニ向ヒ、更ニ翌朝ヲ待チテ、敵ノ南下ヲ防遏セントス、

第三目 第三戰隊ノ戰況

第一艦隊司令官海軍中將出羽重遠ノ率非ル、第三戰隊八雲（同司令官旗艦）笠置、千歲高砂ノ四隻ハ、八月十日ノ天明老鐵山ノ南方約十五海里ノ地點ニ至リテ敵ヲ監視シ、淺間ハ炭水補充ノ爲メ其ノ隊ト離レテ、前日裏長山列島ノ根據地ニ赴ケリ、然ルニ午前六時三十五分出羽司令官ハ先ツ扶桑ヨリ三笠ニ發セル無線電信ニ依リテ、敵艦ノ「ウヰク」ノ出港ヲ覺リシカ、次テ八時三十分頃第二驅逐隊旅順口外ヨリ急航シ來リ、敵艦隊出港ノ疑アルヲ告ケ、其ノ他引

續キ頻々敵艦脱出ノ警報ニ接シ、愈其ノ確實ナルヲ知りタルヲ以テ、十時二十一分十海里ノ速力ヲ以テ、二分間程西行セル後、右十六點ノ正面變換ヲ爲シテ、東ニ向ヒ航行セリ、是敵艦隊ハ南東方ニ向フカ如キノ報アリタルヲ以テナリ、然ルニ十一時ニ至リ、第三十九號艇來リテ、敵艦隊ハ渤海灣ノ方ニ向フモノ、如キヲ報セシヲ以テ、第三戰隊ハ同十三分左十六點ノ正面變換ヲ爲シテ、再西行シ、同三十六分西微北ニ變針シテ、同四十分ヨリ速力ヲ十二海里トナシ、正午老鐵山ノ北二分ノ一西十八海里ノ地點ニ達シ、始テ敵艦隊ノ東航シツ、アルヲ確認セリ、是ニ於テ同十分各艦戰鬥旗ヲ掲ケ、八雲、笠置、高砂、千歳ノ順序ナル單縱陣ニテ適宜ノ針路ヲ取り、敵艦隊ヲ我カ左舷正横後ニ見ル如ク速力ヲ加減シ、遂ニ十海里トナシテ彼ト併行シ、第三驅逐隊、第六艇隊其ノ他附近ニアル驅逐隊、艇隊ヲシテ非戰側タル右方ニ位置セシメタリ、而テ敵ノ先頭ニアル「ノールウヰク」ト八雲トハ相距ル約二万米突ナリ、是ノ如クニシテ敵ヲ我カ主力艦隊ノ所在ニ誘致スルヲ目的トナシ、以テ時機ノ至ルヲ待チシニ、同二十五分第一戰隊ノ東微北ヨリ來航シツ、アルヲ認

メシカ、同五十分八雲ヨリ約一万六千米突ノ距離トナリシ時、ノールウヰクハ左舷ニ回頭シテ一旦殿艦トナリ、更ニ「アスコリド」ノ次位ニ入り、同五十分嚮導艦タル「ツエザレウヰチ」ヲ、北五度西約一万三千米突ノ距離ニ望ミシモ、敵艦隊未タ遇岩附近水雷布設面ヲ航過シツ、アルヲ以テ、出羽司令官ハ尙交戦スルノ時機ニアラスト爲シ、砲火ヲ交ヘスシテ彼我相對峙セリ、既ニシテ午後一時ニ至ルヤ、第一戰隊ハ敵ノ前面ニ達シ、之ヲ沖合ニ誘致セントシテ、左八點ニ一齊回頭ヲナシテ、横陣ヲ制リ南々東ニ進ミ、再之ヲ行ヒテ逆番號單縱陣トナリシカ、同七分八雲ヨリ之ニ向ヒ、敵ノ速力ハ十海里ト測定セラ、コトヲ信號シ、同八分ヨリ第一戰隊ハ第一合戦ヲ開始セリ、是ニ於テ第三戰隊ハ敵ノ後尾ヲ横過シテ、其ノ殿艦ヲ攻撃セント欲シ、同二十三分約左八點ニ正面變換ヲナシ、速力ヲ十二海里ニ復シテ進航セシニ、偶第一戰隊ハ右十六點ニ一齊回頭ヲナシ、爲メニ其ノ針路ト交叉スルノ狀況ト爲リタルヲ以テ、之ヲ避ケンカ爲メ、又左ニ轉針シテ南西ノ針路ト爲セシカ、第一戰隊ニ向ヒテ發セル敵ノ流彈、我カ附近ニ落下スルモノ多カリシヲ以テ、更ニ同

四十二分左八點ノ一齊回頭ヲ爲シテ、彈著距離外ニ出テタル後、同五十分右八點ノ一齊回頭ヲナシテ舊針路ニ復シ、次テ同五十三分十八海里ノ戰鬪速カト爲シ、第一戰隊ノ西方ヲ航過シテ敵隊後部ニ向ヒシニ、二時三十五分左舷艦首ニ方ル老鐵山ノ東ヨリ、一水雷艇ノ我ニ向ヒ轟進シ來ルアリ、其ノ狀頗ル怪ムヘキヲ以テ、八雲ハ少シク之ヲ避ケテ、六尹彈一發ヲ放チ、又之ニ向ヒ左四點ノ一齊回頭ニテ邀撃セントシ、第四驅逐隊ニモ攻撃ヲ命セシニ、其ノ水雷艇ハ味方信號ヲ掲ケ、且橋頭ニ我カ軍艦旗ヲ掲ケタルヲ以テ、乃チ之ニ對スル運動ヲ止メ、專ラ敵ノ殿列ニ迫レリ、然ルニ其ノ巡洋艦隊ハ、同四十分頃戰艦隊ノ非戰側約一千米突ニ出テ、併航シ、アウヰ井クハ進ミテ兩隊ノ中間前ニ出テタルヲ以テ、第三戰隊ノ豫期セル計畫齟齬スルニ至リシト雖モ、尙銳意巡洋艦隊ノ追尾ニ努メタリ、時ニ戰艦「ポルター」ハ「セロスト」ポリ下其ノ位置ヲ換ヘテ殿艦トナリ、我カ第三戰隊ヲ砲撃セルカ、八雲ト相距ル約一万七千米突ニシテ、容易ニ之ニ追及スル能ハス、既ニシテ三時十五分ニ至ルヤ、東郷聯合艦隊司令長官ハ第三戰隊ニ敵ノ巡洋艦ヲ攻撃セヨト

命令シ、之ト同時ニ同隊ハ敵ニ接近センカ爲メ、右四點ノ一齊回頭ヲ爲セシニ、敵戰艦隊益砲撃ヲ加フ、次テ同十九分左四點ノ一齊回頭ヲ爲シテ、單縱陣ニ復シ、尙敵ヲ追躡セシカ、此ノ時恰モ第一戰隊ハ第一合戰ヲ中止セリ、同四十分第三戰隊ノ敵ト相距ル約一万四千米突ニ至ルヤ、敵ノ主力艦隊ハ之ニ對シテ猛烈ナル射撃ヲ開始シ、一彈八雲ノ中甲板ニ炸裂シ、船匠師以下十二名ヲ斃シ、十名ヲ傷ケタリ、次テ同四十五分「ポルター」ノ距離一万三千米突内外ナルヲ測リ得タルヲ以テ、八雲以下交、八尹砲ノ試發ヲ爲セシモ、彈丸達セス、且其ノ巡洋艦隊ハ遙ニ戰艦隊ノ右舷前方ニアルヲ以テ、二万米突以内ニ追及スルコト能ハサルノミナラス、同五十三分頃ニ至リ、敵ハ針路ヲ南東方ニ變シタルヲ以テ、愈隔離シ、到底之ヲ撃チ得ルノ成算ナキヲ認メタルカ故ニ、出羽司令官ハ寧ロ八雲及ヒ後方ヨリ來航シツ、アル淺間ヲ第一戰隊ニ續行セシメ、笠置以下ノ三隻ヲ斜ニ其ノ後方ニ置キテ、以テ第一戰隊ト共ニ敵ニ當ルヲ得策ナリトシ、四時遂ニ針路ヲ右折シテ第一戰隊ノ後方ニ進メリ、既ニシテ五時三十七分頃ニ至リ、第一戰隊ハ第二合戰ヲ開始シ、同四十

五分八雲其ノ通跡ニ入り、殿艦日進ヨリ約二千米突ヲ距テ、十五海里ノ速カニテ之ニ續航シ、笠置千歳高砂ハ其ノ右後方ニアリテ便宜ノ運動ヲ執レリ、六時八雲ハ、敵殿艦「ポルトター」トノ距離一万一千米突ナルヲ測リタルヲ以テ、八尹砲ノ射撃ヲ開始シ、約九千米突ニ近ツクニ及ヒテ、六尹砲ヲモ發射シテ專ラ砲火ヲ之ニ集中セシカ、此ノ時彼ハ僚艦ト離レテ後方ニ孤立シ、僅ニ後部十二尹砲ノミノ發射ヲ爲スニ過キス、八雲之ニ乗シ、約七千米突マテ近接シテ之ヲ猛射セリ、次テ同三十七分頃ヨリ、敵大ニ亂レテ殆ト陣形ヲ爲サ、ルニ至リタルヲ以テ、八雲ハ尙第一戰隊ニ續行シツ、最近距離約七千米突ナル敵艦ヲ撃チ、其ノ右後方ニアリシ笠置以下ノ三隻モ亦之ニ集彈シテ、敵艦屢火災ヲ起シ、慘狀ヲ呈シタルヲ認メタリト云フ、七時頃敵益混亂シ、其ノ一部ハ西方ニ逃避セントスルノ狀アリタルヲ以テ、此ノ時八雲等ニ合セントシテ航行シ來レル淺間ハ、此ノ運動ヲ中止シ、左折シテ敵ノ逃路ヲ遮ラントシ、又八雲ハ敵艦「アスコリド」「ノーウ井ク」及ヒ數隻ノ驅逐艦カ、我カ八重山ノ率非ル驅逐隊、艇隊ニ向ヒテ南下シツ、アルヲ認メ、之ヲ撃退シテ味

方ヲ援助セシカ爲メ、同四十分笠置以下三隻ヲ其ノ通跡ニ入ラシメタリ、是ヨリ先キ八雲ト別レタル笠置以下ノ三隻ハ、其ノ右側後方ニ占位シ、笠置ハ好機ヲ得ル毎ニ八尹砲ヲ發射シツ、午後六時四十五分左四點ノ一齊回頭ヲ爲シテ敵ニ近ツキ、同五十分更ニ右四點ノ一齊回頭ヲ爲シ、其ノ發射セル彈丸屢敵艦ニ命中炸裂セルヲ認メタリト云フ、次テ七時四十五分頃、出羽司令官ノ命ヲ受ケテ、直ニ八雲ノ通跡ニ入レリ、千歳ハ午後五時三十五分一万二千米突ヲ測リテ敵ニ向ヒ、八尹砲ノ發射ヲ開始セシカ、同四十三分笠置ニ倣ヒテ八雲ト別レ、同五十八分發射ヲ中止シ、六時五十四分ヨリ八千乃至一萬米突ノ距離ヲ測リ、混亂セル敵中ノ最近艦ニ向ヒテ再八尹砲ヲ發射シ、七時十三分之ヲ中止シ、同四十五分頃笠置ニ從ヒテ、八雲ノ通跡ニ入レリ、高砂ハ午後六時五十三分距離一万一千乃至九千米突ヲ測リテ、混亂セル敵中ノ「ポルトター」「ペレスウエート」ニ向ヒ、八尹砲ノ發射ヲ開始シ、七時十七分之ヲ中止シ、同四十五分笠置ニ倣ヒテ、八雲ノ通跡ニ入レリ、是ノ如クシテ、笠置以下ノ三艦八雲ニ合シテ、「アスコリド」「ノーウ井ク」ニ向ヒ

シカ此ノ際須磨一艦南西方ニ孤立シテ前記兩敵艦ヨリ砲撃セラレ居ルヲ以テ第三戰隊ハ全カヲ以テ敵ヲ擊攘セントシ八雲ハ八時ヨリ一万乃至八千米突ヲ測リテ砲撃ヲ開始シツ、漸次敵ニ接近シ笠置ハ同七分ヨリ九千米突ヲ測リテ先ツアスコリドヲ撃チ同十五分約七千米突マテ接近シ轉シテノイウ非クヲ撃チ約六千七百米突マテ接近シ又敵ノ驅逐艦ヲモ砲撃シ千歳ハ同八分ヨリ八千米突ヲ測リテアスコリドヲ撃チ次テ七千乃至八千米突ニテノイウ非クニ轉シ高砂ハ同七分ヨリ一万乃至七千米突ヲ測リテ「アスコリド」ノイウ非クヲ撃チタリ、

而テ此ノ前後第六戰隊モ亦來會シテ第三戰隊ニ應援シ幾モナズ須磨ハ第六戰隊ニ合シ八重山及ヒ驅逐隊艇隊モ安全ニ敵ノ砲火ヲ免レシカ同三十分ニ至リ日全ク沒ス時ニ敵ノ驅逐艦數隻第三戰隊ノ約西南方ニ在リテ襲撃シ來ラントスルノ狀アリシヲ以テ同隊ノ各艦即チ發砲ヲ止メ東方ニ向ヒテ航行セリ、

此ノ戰鬪ニ於テ第三戰隊ノ淺間ハ終始僚艦ト離レテ單獨ノ行動ヲ爲セリ、

始メ同艦ノ炭水補充ノ爲メ裏長山列島ノ根據地ニアルヤ午前九時四十分頃扶桑ヨリ三笠ニ發セル無線電信ヲ感知シ由テ以テ敵艦ノ脱出ヲ覺リシカ同四十六分三笠ヨリ炭水補給次第至急出發セヨトノ電命ヲ受ケタルヲ以テ十時四十六分出港シテ針路ヲ南西ニ定メ第三戰隊ノ所在地ニ向ヒシニ午後二時五十分ニ至リ八雲ヨリ速ニ遇岩ノ南方十海里ニ向ヒテ來レトノ電命ニ接セリ然ルニ其ノ艦首左方ニ砲聲ヲ聞キシヲ以テ三時四十分ヨリ南方ニ變針シ四時ニ至リシニ其ノ艦首ニ方リ八雲以下四隻ノ南東方ニ航行スルヲ見尋テ左舷艦首約四點ニ敵艦隊ノ南東方ニ航行スルヲモ認めタルヲ以テ漸次針路ヲ東方ニ偏シテ僚艦ノ後尾ニ合セントセリ幾モナク第一戰隊ハ敵ト第二合戰ヲ開キ敵ハ六時四十二分頃ヨリ陣形錯亂シ其ノ巡洋艦隊遂ニ西方ニ逃避スルノ狀アリ是ニ於テ淺間ハ之ヲ擊破セント欲シ僚艦ニ合スルノ運動ヲ止メ北東ニ變針セシガ偶「ボルター」ヲ近距離ニアルヲ見七時二分九千八百米突ヲ測リテ先ツ之ヲ砲撃シツ、尙巡洋艦隊ニ向ヒ同十七分距離八千六百米突ナルヲ測リ得タルヲ以テ目標ヲ同隊中

ノ「アスコリド」ニ變シ、同三十五分マテ砲火ヲ續發セシニ、敵巡洋艦三隻ハ此ノ時、ペレスウエート「ポルターワ」ト協力シテ淺間ニ當リ、爲メニ同艦ハ一時殆ト死地ニ陥リタルノ觀アリシモ、其ノ速力優レルト、日没ニ近ツキタルトノ故ヲ以テ、些ノ損害ナクシテ苦境ヲ脱シ、同五十三分發砲ヲ止メ、西方ニ向ヒテ航行セリ、

第四目 第五戰隊ノ戰況

第三艦隊司令官海軍少將山田彦八ノ率非ル、第五戰隊橋立(司令官)松島ノ二隻ハ、八月十日午前七時頃小平島附近ニ至リ、不定ノ運動ヲ取リテ敵ヲ監視シ、鎮遠ハ石炭補充ノ爲メ、大嶮口ニ赴キ、嚴島ハ修理ノ爲メ、裏長山列島ノ根據地ニ在リ、然ルニ朝來敵艦隊中ノ有力ナルモノハ「バヤーン」ヲ除クノ外、數ヲ盡シテ、前後港外ニ出テ、饅頭山下ニ集リ、隊列ヲ整ヘテ暫時南東ニ向ヒタル後、單縱陣ニテ更ニ南方ニ轉シタルヲ以テ、山田司令官ハ之ヲ三笠ニ電報スルト同時ニ、小平島望樓ニ信號シテ、東口灣附近及ヒ青泥窪ニアル驅逐隊、水雷艇隊ニ向ヒ、炭水補充次第至急來會スヘキヲ傳ヘシメ、橋立ハ直ニ小平

島前ヨリ南ニ向ヒ、其ノ際溺者救助ノ爲メ、少シク後レタル松島モ、全速力ニテ橋立ノ跡ヲ追ヒ來會シ、敵艦隊ト觸接ヲ保ツヘキ行動ヲ取リタリ、然ルニ敵ハ十時三十分頃老鐵山南東角ヲ離ル、ニ及ヒテ、南西方ニ向ヒ、恰モ渤海灣ニ入ラントスルモノ、如クナルヲ以テ、第五戰隊モ亦十一時七分南微西ニ變針シテ、遇岩ノ西方ニ出テ、速力ヲ增加シ、同三十分ヨリ更ニ南西方ニ變セリ、然ルニ之ト殆ト同時ニ、敵ハ再南方ニ向ヘルヲ以テ、第五戰隊ハ同四十分ヨリ東方ニ變シ、以テ敵ト觸接ヲ保チ、正午ニ至リシニ、敵又南東ニ變シタルヲ以テ、第五戰隊ハ之カ運動ニ從ヒテ絶エス針路ヲ變セリ、午後一時八分頃ヨリ第一戰隊砲火ヲ開始シタルヲ以テ、第五戰隊ハ其ノ運動ノ妨害トナルヘキヲ慮リテ、之ヲ避ケ、遇岩附近ニアリテ戰況ヲ監視シツ、好機ノ至ルヲ待ツノ際、適同五十五分鎮遠來會シ列ニ入ル、同艦ハ大嶮口ニアリテ石炭搭載中、敵艦隊ノ脱出ヲ知リタルヲ以テ、之ヲ中止シ、午前十一時二十一分拔錨シテ追及シ來リシモノナリ、是ニ於テ山田司令官ハ橋立、松島、鎮遠ノ順序ヲ以テ單縱陣ヲ制リ、益、東方ニ航行スル敵艦隊ヲ視界内ニ保タンカ爲メ、

午後二時二十五分東方ニ變針シ、同四十分南東ニ變針シ、敵ト略竝行ノ航路ヲ取ル、時ニ敵ノ殿艦ハ約南々東十餘海里ニアリ、既ニシテ三時七分ニ至リ、和泉北方ヨリ來リ、第六戰隊見エス、貴隊側ニ行キテ宜シキヤト信號セシヲ以テ、山田司令官ハ之ヲ鎮遠ニ續航セシメ、敵ニ接近センカ爲メ、四時ヨリ戰鬪速力タル十二海里トナシタルニ、松島ハ十一海里半以上ヲ出スコト困難ナルヲ以テ、更ニ戰鬪速力ヲ十一海里ニ變更シ、同四十分頃ニ至リシニ、第一戰隊ヲ遙ニ約南々東ニ認メタルヲ以テ、山田司令官ハ和泉ニ向セ、第六戰隊ハ其ノ附近ニアルヘキヲ以テ、今ヤ之ニ合スルノ好機ナルコトヲ告ケ、同艦ハ列ヲ離レテ其ノ方向ニ去レリ、次テ五時三十七分頃、第一戰隊第二合戰ヲ開始シ、同四十五分頃ヨリ敵ハ南方ニ變針シ、其ノ先頭ニアル數艦ハ漸次第五戰隊ノ航路前ヨリ左方ニ顯出スルニ至リ、同隊モ亦六時八分東方ニ變針シ、同三十五分東南東ニ變針シ、敵ニ接近セント努メ、七時十分稍之ニ近ツキシニ、同十三分頃敵ノ巡洋艦隊ハ西方ニ反航シ來レリ、時ニ第三戰隊ニ合セシトシツ、アリシ淺間ハ其ノ運動ヲ止メ、敵ノ退路ヲ北方ニ横過シツ、之

ト砲火ヲ交ヘ、第五戰隊モ亦發射ヲ開始セリ、即チ一番艦橋立ハ同二十三分最近距離ナル敵艦ニ向ヒ、二万一千米突ヲ測リテ砲火ヲ開始シ、漸次接近シテ、同三十六分約七千五百米突ニ至リシカ、同時發砲セル三十二擧砲ハ、ツエザレツ非チノ右舷後部艦側ニ命中爆裂セルヲ認メタリト云フ、次テ六千乃至八千米突ニテ、同四十六分マテ砲火ヲ續ケシカ、此ノ時第一戰隊ハ敵ノ先頭ヲ壓シツ、益前進シ來リタルヲ以テ、橋立ハ其ノ運動ヲ妨碍セサランカ爲メ、針路ヲ左轉シ、尙攻撃ヲ續ケ、同五十四分射距離九千米突ニ及ヒタルヲ以テ之ヲ止メタリ、二番艦松島ハ七時二十分八千米突ノ距離ヲ測リ、アスコリドニ向ヒ發砲ヲ開始シ、六千五百米突ヨリ十二斤砲ヲモ發射シテ、五千八百米突マテ接近セシカ、ペレスウエート型艦ニ向ケ發射シタル三十二擧砲ノ一彈ハ、其ノ前橋下部ニ命中爆發セルモノ、如クナルヲ認メタリト云フ、次テ同四十六分頃橋立ニ續イテ左舷ニ回頭シ、同五十七分、ペレスウエート型艦ヲ撃チ、約七千五百ヨリ六千五百米突ニ至リシモ、次テ敵艦隊トノ距離漸次遠シカリタルヲ以テ、八時四分之ヲ止メタリ、三番艦鎮遠ハ發砲ニ先タ

チ、七時十四分敵弾一發右舷側ニ命中ス、而テ同艦ハ同三十分發砲ヲ開始シ、主トシテ「セロストーポリ」ニ對シ、幾モナク松島ニ從ヒテ左舷ニ回頭セシカ、同五十分敵弾一發上甲板中部ニ命中シ、下士卒及ヒ傭人六名ヲ傷ケタリ、同五十五分ニハ敵艦トノ距離約五千五百米突トナリ、次テ漸次敵ト遠サカリタルヲ以テ、八時三十分砲撃ヲ止メタリ、此ノ砲戰中三十擧半砲弾一發、アスコリド」ノ中央部ニ命中セルヲ認メタリト云フ、

以上列記ノ如ク、第五戰隊ハ敵ト砲戰ヲ交ヘ、午後八時過キニ及ヒシカ、是ヨリ先キ同八時頃三笠ヨリ驅逐隊水雷艇隊ニ向ヒ、敵艦ヲ襲撃セヨトノ電命アリタルヲ知リタルヲ以テ、山田司令官ハ黄昏ニ及ヒ、敵ト觸接スルハ之カ妨碍タラシコトヲ慮リテ、暫ク北航シ、同十一分廳下各艦ニ向ヒ、今夜ハU地點タル光祿島ノ西南方ニ於テ警戒スヘキヲ豫令セリ、

此ノ戰鬪ニ於テ第五戰隊ノ八重山ハ、獨リ其ノ僚艦ト運動ヲ異ニセリ、初メ同艦ハ同日午前十一時四十二分マテ、第一戰隊ニ隨伴シアリシカ、同時東郷聯合艦隊司令長官ヨリ本隊ハ渤海灣ニ進マントス、其ノ艦ハ大連灣方面ヨ

リ來ル驅逐隊艇隊ヲ嚮導シテ、本隊所在地ニ來レ、驅逐隊艇隊ハ小平島附近ヲ西航スルモノ、如シトノ命ヲ受ケタルヲ以テ、直ニ第一戰隊ト別レ、小平島ニ向ヒ急航シタルニ、其ノ附近ニ驅逐隊艇隊アラサリシヲ以テ、更ニ南西方ニ航シ、午後一時ニ至リ、遂ニ之ヲ認メシヲ以テ、直ニ東郷聯合艦隊司令長官ノ命令ヲ傳ヘ、更ニ全速力ニテ第一戰隊ニ合セントセシニ、當時其ノ針路ハ恰モ敵ノ針路ト交叉スルヲ以テ、漸次敵ニ接近シ、二時ニハ其ノ先頭艦ヲ距ル約七千米突トナリ、砲撃ヲ受ケタルヲ以テ、乃チ之ニ應戰セシモ、到底直進シテ第一戰隊ニ合シ難キヲ知り、約十分間ニシテ砲戰ヲ止メ、迂回シツ、其ノ途中ニ於テ、更ニ七時十九分ヨリ八時二分ニ至ルマテ、約七千乃至七千五百米突ノ距離ニテ、屢敵艦ヲ砲撃シ、同四十分遂ニ第一戰隊ニ合スルコトヲ得タリ、

第五目 第六戰隊ノ戰況

第三艦隊司令官海軍少將東郷正路ノ率非ル第六戰隊明石(司令官旗艦)須磨、秋津洲ノ三隻ハ、八月十日早朝遇岩附近ニアリテ敵ヲ監視シ、和泉ハ炭水補充ノ

爲メ裏長山列島ノ根據地ニ赴キ、千代田ハ修理ノ爲メ青泥窪ニアリ、然ルニ同司令官ハ朝來扶桑及ヒ第五戰隊等ヨリ三笠ニ發セル電報ニ依リ、敵艦隊ノ脱出スルハ疑ナキヲ知りタルヲ以テ、午前十一時二十五分ヨリ明石以下ノ三隻ヲ率非、十海里ノ速力ニテ先ツ遇岩ノ西約二海里ノ位置ヨリ、西方ニ進ムコト約四十分間ナリシニ、敵ハ既ニ其ノ水雷敷設面ヲ過キ、單縱陣ニテ、南方ニ向ヘリ、次テ敵ハ我カ第一戰隊ト開戦シ、同隊ノ爲メニ壓迫セラレテ、南東ニ變針シ、其ノ巡洋艦隊ハ戰隊ノ左側ニ位置セリ、又第六戰隊ハ敵ノ左前方約一万五千米突ノ所ニアリテ南東ニ進ミシカ、敵更ニ東南東ニ變針セルカ爲メ、其ノ距離漸次接近セル如クナルヲ以テ、同戰隊ハ全速力ニテ東南東ニ航進シ、其ノ稍遠サカリシヲ見テ、次第ニ南方ニ變針シ、敵ノ航路ヲ横斷シテ第一戰隊ノ東方ニ出テタリ、午後二時十五分ノ比敵ト相距ル一万乃至一万二千米突ナリシヲ以テ、其ノ砲撃ヲ受ケシモ、一ノ命中彈ナシ、次テ敵又南東ニ變針シタルヲ以テ、第一戰隊ハ殆ト之ト竝航シ、第六戰隊ハ右轉シ、三時十三分第一戰隊ノ後方約五海里ニ位置シテ、南東ニ向ヒ、十四海里ノ速力

ニテ之ニ續航セシカ、會四時須磨右舷汽機ニ故障ヲ生シタルヲ以テ、東郷司令官ハ速力ヲ十二海里ニ減シ、同艦ヲ隊後ニ移セリ、已ニシテ六時三十分和泉來リ合ス、是ヨリ先キ和泉ハ同日炭水補充ノ爲メ、裏長山列島ノ根據地ニアリシニ、午前九時四十分頃扶桑ヨリ三笠ニ發セル、敵艦脱出ニ關スル無線電信ヲ感知シタルヲ以テ、十時出港シ、十二海里ノ速力ヲ以テ、先ツ遇岩ノ西南七海里ノ地點ニ向フノ際、午後一時四十分明石ヨリ至急遇岩ノ南方ニ來ルヘキノ電命ヲ受ケタルヲ以テ、速力ヲ十三海里ニ増加シ、進航ノ途中、二時三十分更ニ敵艦隊遇岩ノ南方ヲ東方ニ進ミツ、アリ注意セヨトノ電命ニ接シ、三時遇岩ノ北方約十海里ニ達セシニ、遙ニ其ノ右舷艦首ニ方リ、敵艦隊ノ第一戰隊ト交戦シツ、南東ニ航スルヲ認メ、之ト殆ト同時ニ、第五戰隊ハ其ノ附近ニ來リシモ、未タ第六戰隊ノ所在ヲ知ル能ハサリシカ故ニ、暫ク第五戰隊ニ合セント欲シ、三時七分山田司令官ニ請ヒ、其ノ隊列ニ入リテ南東ニ進ムノ際、四時四十分頃第一戰隊ヲ約南々東ニ認メ、尋テ又山田司令官ヨリ明石ハ第一戰隊ノ附近ニアリト思フ、今行クヘキ時機ナラントノ信號ア

リタルヲ以テ、乃チ第五戰隊ト分レ、十四海里ノ速力ニテ南ニ進ミ、漸次東ニ
 彎航シテ、第一戰隊ノ後方ニ向ヒ、始テ第六戰隊ニ追及スルヲ得タルナリ、又
 須磨ハ六時頃汽機ノ修理ヲ了リタリト雖モ、其ノ速力十一海里以上ヲ出ス
 コト能ハス、然ルニ今ヤ第一戰隊ハ約十五海里ノ速力ヲ以テ進航シアルカ
 故ニ、東郷司令官ハ之ト益、隔離センコトヲ慮リ、同二十五分須磨ニ向ヒ、其ノ
 北方約十海里ナル第五戰隊ニ合スヘキヲ命シ、明石、和泉、秋津洲ノ三艦ヲ率
 非テ、極力第一戰隊ヲ追ヒ、六時四十五分頃敵ノ南方ニ達セシカ、此ノ時第一
 戰隊ハ既ニ第二合戰ヲ開始シ、敵遂ニ敗レテ混亂ノ狀ニ陥リタルヲ以テ、第
 六戰隊ハ他ノ諸戰隊ト共ニ、敵ヲ包圍スルノ姿勢トナリツ、尙遙ニ第一戰
 隊ニ續航セリ、又須磨ハ僚艦ト別レタル後、第五戰隊ニ合センカ爲メ、針路ヲ
 變シテ北東ニ進ミシカ、偶敵ハ針路ヲ反轉シテ旅順口ノ方面ニ向ヒ、恰モ須
 磨ト第五戰隊トノ中間ヲ遮リ、加之第五戰隊モ左方ニ方向變換ヲ行ヒ、其ノ
 距離益、遠隔シタルヲ以テ、須磨艦長ハ之ト合同スルノ難キヲ察シ、止ムヲ得
 ス之ヲ斷念シ、汽機故障ノ爲メ十二海里ノ速力ヲ以テ、再第六戰隊ヲ追ヒシ

カ、其ノ之ニ達スルニ先ダチ、七時四十五分頃アスコリド「單獨突進シ來リ、八
 時頃ニハ既ニ相距ル約八千米突トナリ、須磨之ト交戦セリ、已ニシテ、ノーヴ
 非クモ亦、アスコリドニ續航シ、彼我ノ距離三千二百米突ニ近接シタルヲ以
 テ、須磨益、奮戦シ、屢命中彈ヲ認メタリト云フ、此ノ時ニ當リ、須磨ノ危急ヲ見
 タル第六戰隊ハ、之ヲ救護センカ爲メ、左旋シテ「アスコリド」ト須磨トノ中間
 ヲ望ミテ馳セシニ、敵ハ約七千米突ノ距離ヨリ砲火ヲ開キ、同戰隊モ亦之ニ
 應シ、明石ハ八時七分六千七百米突ヲ測リテ、發砲ヲ開始シ、漸次接近シテ約
 三千八百米突ニ至リシカ、敵ノ速力優リタルカ故ニ、遂ニ其ノ前路ヲ遮ル能
 ハス、同二十分頃ヨリ距離漸次遠サカリタルヲ以テ、同四十分ニ至リ發砲ヲ
 止メタリ、和泉ハ八時五分七千五百米突ヲ測リテ發砲ヲ開始シ、同十五分ニ
 ハ四千五百米突ニ接近シ、命中彈ヲ認メタルコト八發ヲ下ラサリシト云フ、
 次テ同二十七分「ノーヴ非ク」ノ距離約五千二百米突トナリ、終ニ二千八百米
 突ノ近距離ニ入リシモ、日没シテ照準困難ナルノミナラス、漸次相遠サカリ
 タルヲ以テ、同四十分發砲ヲ止メタリ、秋津洲ハ八時十二分八千二百米突ヲ

測リテ、發砲ヲ開始シ、次テ交、兩敵艦ヲ撃チ、同三十五分マテ之ヲ續行シ、最近距離約五千六百米突ニ至リ、砲彈ノ屢命中セルヲ認メタリト云フ、同四十六分射撃ヲ止メタリ、

以上記載ノ如ク、第六戰隊ノ三艦敵ト砲戰セル間ニ於テ、須磨ハ同隊ノ外方ヲ廻リテ、遂ニ其ノ後尾ニ入り、八時五十分發砲ヲ止メタリ、東郷司令官ハ同時ニ之ヲ裏長山列島ノ根據地ニ赴カシメ、他ノ三艦ハ十四海里ノ速力ニテ南々東ニ定針シ、尙敵ヲ追尾セリ、

第六目 砲艦隊ノ戰況

八月十日午前七時鳥海ハ小平島ノ南ニアリシニ、朝來敵艦港外ニ出テ、漸次南下シ、我カ諸戰隊、艇隊等モ前後南航スルヲ認メシカ、十時ニ至リ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、小平島ニアル砲艦ハ進ミテ、敵艦掃海艇ノ鮮生角以東ニ出ツルヲ防クヘキ命ヲ受ケ、尋テ第三艦隊司令官海軍少將細谷資氏ヨリハ、其ノ近傍ニアル驅逐艦、水雷艇ハ便宜封鎖配備ニ就カシムヘキコト、赤城、摩耶ハ小平島ニ向ヘルコトノ報ニ接セシヲ以テ、即チ同島ニアリシ第二、第二

十一艇隊及ヒ後ニ到レル第六艇隊ニ命ヲ傳ヘテ、敵艦隊ヲ追躡セシメタリ、次テ十一時三十五分ニハ赤城午後二時ニハ摩耶、各來會セリ、是ニ於テ先任將校タル鳥海艦長海軍中佐廣瀬勝比古ハ、摩耶、赤城ヲ小平島附近ニ留メ、單艦西航シテ龍王塘附近ニ至リ、同望樓ニ糧食ヲ供給シ、且掃海隊ニ引揚ヲ命シテ後、四時小平島方面ニ歸リ、次テ假裝砲艦二隻及ヒ小蒸氣船二隻ヲ哨艇トナシ、以テ此ノ夜ノ警戒ニ備フ、既ニシテ五時四十五分ニ至ルヤ、敵ノ艦艇鮮生角東灣ニ來リテ、陸上ヲ砲撃スルヲ認メ、廣瀬鳥海艦長ハ、鳥海、摩耶、赤城及ヒ假裝砲艦九號ヲ率非テ、龍王塘方面ニ進航セシカ、敵ハ暫時ニシテ退却ヲ始メ、六時三十分ニハ鷄冠山下ニ至リタルヲ以テ、鳥海以下モ亦小平島ニ歸レリ、

第七目 第一驅逐隊ノ戰況

第一驅逐隊司令海軍中佐藤本秀四郎ノ率非ル、驅逐艦朝潮(司令乘艦)霞、白雲ノ三隻ハ、八月十日午前七時二十分旅順港口ニ近ツキ、偵察ヲナセシニ、敵艦隊ノ主力漸次出港シ始メタルヲ以テ、乃チ之ヲ小平島附近ナル山田第三艦隊司

令官ニ報告セシカ、十時頃ヨリ敵ハ漸次老鐵山以南ニ出テ、航行序列ヲ整ヘテ約南東方ニ向ヒタルヲ以テ、第一驅逐隊ハ常ニ其ノ前方一万米突内外ノ距離ニアリテ之ヲ監視シ、次テ午後一時十五分頃ヨリ第一戰隊第一合戦ヲ開始スルヤ、同驅逐隊ハ暫ク第一戰隊ト其ノ約北々東ナル第六戰隊トノ中間ニ占位シ、第一戰隊ノ針路定マルニ及ヒ、更ニ其ノ非戰側前方ニアリテ警戒セシニ、三時四十三分東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、前方ナル敵驅逐隊ノ反航ニ關シ、注意スヘキノ命ヲ受ケ、更ニ第一戰隊ノ前方ニ出テ、愈警戒ヲ嚴ニシツ、隨行セリ、既ニシテ第二合戦酣ナルニ至リ、敵艦相混亂シ、西方ニ敗走スルヲ認メタルヲ以テ、同驅逐隊ハ針路ヲ南々西ニ定メ、敵ノ東方ヲ旋リテ其ノ左側ニ出テ、約七千米突ヲ距テ、之ト竝航シツ、機ヲ窺ヒ、七時十分速力ヲ二十二海里ニ増加シ、敵ニ接近セシカ爲メ、日没ヨリ漸次右方ニ回頭シ、終ニ敵前ヲ横過シテ、其ノ右側ニ出テ、九時過キヨリ關中敵ヲ索メテ、各艦個々ニ分離シ、襲撃ヲ決行セリ、即チ朝潮ハ敵ノ針路ヲ西北西ト推定シ、南東方ニ進ミ、同四十分三本煙突ノ敵艦ヲ右舷艦首ニ認メタルヲ以テ、約千米突

ノ距離ヲ測リ、前後發射管ヨリ甲種水雷二個ヲ發射シテ、回頭退却シ、十時ヨリ北々東ニ航シ、豫備水雷ノ裝備ヲナシ、十一日午前六時圓島附近ニテ第六戰隊ニ合シ、東郷第三艦隊司令官ノ命ヲ受ケ、炭水補充ノ爲メ青泥窪ニ回航セリ、霞ハ敵ト反航ノ狀況ニアリシカ、十日午後九時五十分約七百米突ヲ距テ、右舷ヲ反航スル敵艦三隻ヲ認メタルヲ以テ、其ノ中央ノ一艦ニ向ヒ、約六百米突ヲ測リテ前部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、針路ヲ反轉シテ更ニ敵ヲ追躡シ、十時二十分一敵艦ヲ認メタルヲ以テ、再針路ヲ轉シ、之ト反航シツ、四百乃至五百米突ヲ測リ、再後部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、終テ更ニ敵艦隊ノ針路ヲ北西ナラント推定シテ、同針路ヲ取リツ、豫備水雷ノ裝備ヲ爲シ、時機ヲ待チ、十一日午前四時三十分ニ至リ、帽島附近ニ達セシニ、偶三十八號艇ノ進退自由ナラサルニ會シ、之ヲ曳航セントセシカ、其ノ僚艇來リシヲ以テ之ヲ止メ、更ニ襲撃ニ向ハントセシモ、已ニ天明ニ近ツキシ爲メ、之ヲ行ハスシテ、帽島附近ニ漂泊中、朝潮ニ會シ、共ニ青泥窪ニ向ヘリ、白雲モ亦敵ト反航ノ狀況ニアリテ南東方ニ航シツ、十日午後九時四十七分、ボベ

「ダ」型ノ敵艦ヲ其ノ艦首ニ近ク認メタルヲ以テ、約千五百米突ヲ測リ、前部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、同五十五分更ニ正横前約十度ニアル他ノ敵艦ニ向ヒ、千五百米突ヲ測リテ、後部發射管ヨリ復甲種水雷ヲ發射シ了ルト同時ニ、北東ニ變針シテ、敵ト遠サカリタル後、北西方ニ向ヒ、敵艦隊ノ約中央右側ニ進ミツ、豫備水雷ヲ準備シ、十一日午前四時十分旅順口附近ニ達シ、天明頃、モンゴリア號及ヒ、レトウ非ザシノ港口ニ直進スルヲ發見セシト雖モ、襲撃ノ時機既ニ去リシヲ以テ、之ヲ斷念シ、單獨港外ノ監視ニ任セリ、

第八目 第二驅逐隊ノ戰況

第二驅逐隊司令海軍中佐石田一郎ノ率非ル、驅逐艦雷(司令電錨)四隻ハ、八月十日午前六時二十五分旅順口ノ南十海里ノ地點ニ至リテ、漂泊シツ、敵ヲ監視セシニ、七時三十分頃ヨリ敵艦漸次出港ノ形勢アルヲ見、乃チ直ニ老鐵山ノ南方約十五海里ニ急航シ、八時二十四分第三戰隊ニ會シテ、之ヲ出羽第一艦隊司令官ニ告ケ、再旅順口外ニ向ヒシニ、敵艦隊既ニ港外ニ出テ、十時三十分頃ヨリ徐ニ南下シ、老鐵山ノ東角ヲ過キテ西方ニ向ヒ、須臾ニシテ

更ニ約南東ニ變針航進スルヲ認メタルヲ以テ、同隊ハ敵ノ左側彈著距離外ニ占位シ、觸接ヲ保チツ、敵ヲ監視セシカ、午後一時十五分頃ニ至リ、第一戰隊第一合戰ヲ開始シ、敵ハ針路ヲ稍左方ニ轉シタルヲ以テ、第二驅逐隊ハ其ノ近接センコトヲ慮リテ、之ヲ避ケ、尋テ敵艦隊ニ尾航シテ、南東方ニ追ヒ行キツ、アリシニ、五時二十九分頃東郷聯合艦隊司令長官ヨリ驅逐隊、艇隊ハ成ルヘク急航セヨトノ命令アリタルヲ以テ、同隊ハ第一戰隊ニ合セント欲シテ急航セリト雖モ、當時南東ノ風アリ、波浪高ク、且第一戰隊トノ距離遠隔セルヲ以テ、七時ニ至ルモ尙追及スル能ハス、然ルニ此ノ時敵ハ第二合戰ニ敗レ、相混亂シテ約西北西ニ引返スヲ認メタルヲ以テ、石田司令ハ依然第一戰隊ニ會スヘキノ運動ヲ繼續セハ、襲撃ノ時機ヲ逸スルヲ恐レ、乃チ之ヲ斷念シ、直ニ敵ノ針路及ヒ速力ヲ推測シテ之ト竝航シ、九時十五分速力ヲ十八海里ト爲シ、尋テ十時三十分機會ノ到レルヲ察シ、右轉シテ敵ト反航シツ、速力ヲ十二海里ニ減シテ、索敵運動ヲ行ヒ、十一時三十一分頃敵艦三隻ヲ前面暗中ニ發見シタルヲ以テ、其ノ先頭艦ヲ距離約八百米突マテ隊列ヲ組ミ

テ進航シ、夫ヨリ各艦個々ニ襲撃ヲ決行セリ、即チ雷ハ東方ニ進航中、十一時三十一分右方ニ轉舵シテ敵ト反航シ、同四十二分八百米突ヲ測リ、前部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、同四十四分七百米突ヲ測リ、更ニ後部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、直ニ十八海里ノ速力トナシテ北方ニ航シ、十一日午前零時半速力、尋テ微速力トナシテ僚艦ヲ待チシモ、遂ニ相會スル能ハサリシヲ以テ、四時帽島ノ東ニ到リシニ、七時電、艦ニ會セシヲ以テ、相共ニ旅順口沖ヲ偵察シ、ボルター以下數隻ヲ認メタリ、電ハ敵ヲ右舷ニ見ツ、反航シ、十一時四十五分第二タリシ敵艦ニ對シ、九百米突ヲ測リ、前後發射管ヨリ甲種水雷二個ヲ發射シ、直ニ回頭シテ彈著距離外ニ出テ、豫備水雷ヲ準備シ、十一日午前零時三十分艦ト會シ、相共ニ他ノ僚艦ヲ待チシモ來ラサリシヲ以テ、微速力ニテ行進シ、南三山島ノ西南約五海里ノ邊ニ至リテ漂泊シ、天明後帽島附近ニテ雷ニ會セリ、艦ハ雷ト共ニ敵ト反航シツ、アリシカ、其ノ水雷ヲ發射セルヲ認ムルニ及ヒ、尙少シク針路ヲ變シテ敵ニ接近シ、十日午後十一時五十分第三タリシ敵艦ニ對シ、七百米突ヲ測リテ、前後發射管ヨリ各甲種水

雷ヲ發射シ、直ニ回頭シテ、彈著距離外ニ出テ、暫ク北西ニ航シ、次テ北ニ變シ、途中電ニ會シ、其ノ行動ニ倣ヒテ相共ニ雷ニ會セリ、

第九目 第三驅逐隊ノ戰況

第三驅逐隊司令海軍中佐土屋光金ノ率非ル、驅逐艦薄雲(司令乘艦)東雲、漣ノ三隻ハ、八月D、哨區タル老鐵山ノ約西南方ニアリテ敵ヲ監視中、午前八時頃ヨリ敵艦漸次出港スルヲ見、直ニ第三戰隊ノ所在地タル老鐵山ノ南方約十五海里ニ急航シテ、之ヲ出羽第一艦隊司令官ニ報告セシカ、次テ敵艦隊ハ南航シ、十時頃ニハ既ニ老鐵山ノ南東方約三海里ニアルヲ認メタルヲ以テ、又之ヲ同司令官ニ告ケタル後、其ノ命ヲ受ケ、第三戰隊ノ右側ニ占位シテ、遇岩ノ南方ニ向ヒシニ、午後一時第一戰隊ノ遇岩附近ニ來ルニ會シ、第三戰隊ヲ離レテ更ニ之ニ隨行シ、其ノ第一合戰中ハ第一驅逐隊、第十四艇隊ト共ニ、非戰側ニ在リテ行進セシカ、四時四十三分東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、敵驅逐隊ノ反航ニ關シ注意スヘキノ命ヲ受ケ、尋テ第五戰隊ノ附近ニアル艇隊ニ向ヒ、第一戰隊ノ非戰側ニ來ルヘキノ命令ヲ傳ヘンカ爲メ、漣ハ列ヲ離レテ第五戰

隊ノ方ニ赴キ、他ノ二隻ハ依然第一戰隊ニ隨伴セシニ、黄昏ニ及ヒ第三合戰將ニ了ラントスルニ際シ、八時敵ノ驅逐艦ヲ攻撃セヨトノ命アリ、此ノ時適漣モ歸著シタルヲ以テ、直ニ第一戰隊ト敵艦隊トノ中間ニ進ミ、敵ノ驅逐艦ヲ搜索セシモ遂ニ會セス、是ニ於テ土屋司令ハ敵艦ヲ襲撃スルコトニ決シテ漸次西航シ、十時頃暗中微ニ三煙突ノ一艦西方ニ航スルヲ發見シタルヲ以テ、之ヲ襲撃セントセシカ、偶二三隻ノ我カ艇隊敵艦トノ中間ニ疾航シ來ルニ會シ、衝突ヲ避ケンカ爲メ暫ク航路ヲ變シ、再敵艦ヲ索メタレトモ、其ノ踪跡ヲ失シ正子頃ニ至リ、前路ニ當リ燈光ヲ漏セル一船ヲ認メ、之ニ近ツキシニ、彼忽チ舷燈檣燈ヲ點シ、且赤十字ヲ表セル洋燈ヲ揭示シ、敵ノ病院船ナルコト明瞭ナリシカ故ニ、襲撃ヲ止メ、更ニ速力ヲ増加シ、遇岩ト帽島トノ中間ニ向ヒ、十一日午前三時三十分遇岩附近ニ達シ、速力ヲ減シ、以テ旅順口ニ逃入スル敵ヲ邀撃セント企テシニ、四時東方數海里ニ於テ砲火ヲ認メ、之ニ赴キテ三隻ノ船影ヲ發見セシカ、味方艦艇ノ敵ト合戦スルモノナルヘキヲ思ヒ、味方發光符ヲ發シタルモ應スルモノナク、彼我益接近シテ、遂ニ敵艦レ

トウ非ザシ「ボベード」ペレスウエートノ驅逐艦一隻ヲ伴フモノタルヲ知り、直ニ襲撃ニ移リシニ、彼ハ速力ヲ増加シテ遠ニ轉舵シツ、急射撃ヲ開始セリ、時ニ彼我ノ距離二千米突ヲ出テサリシヲ以テ、薄雲及ヒ漣ハ齊シク前後發射管ヨリ甲種水雷二個ヲ發射シ、東雲モ前部發射管ヨリ同種水雷一個ヲ發射シ、終リテ炭水及ヒ水雷補充ノ爲メ大連灣ニ向フノ途、帽島ノ南西五海里ニテ驅逐艦朝霧ノ救難信號ヲ掲ケ居ルヲ見、東雲ハ之ヲ曳行シ、他ノ二隻ハ三山島附近マテ之ヲ護衛シテ後、午後一時青泥窪ニ入港セリ、

第十目 第四驅逐隊ノ戰況

第四驅逐隊司令海軍大佐長井群吉ノ率非ル、驅逐艦速鳥(司令乘艦)春雨朝霧、村雨ノ四隻ハ、八月十日青泥窪ニ碇泊中、敵艦脫出ノ報ニ接シタルヲ以テ、午前九時三十分同所ヲ出發シテ旅順口ニ向フノ途、十時三十分帽島附近ニ達シ、目進、春日ニ會シテ敵艦隊ノ南下スルヲ知り、直ニ之ヲ追尾スルノ目的ヲ以テ、旅順口近ク進ミシニ、敵既ニ南方ニ航シツ、アリテ、午後一時十五分頃ヨリ第二戰隊ハ第一合戰ヲ開始シ、第四驅逐隊ハ第三戰隊ニ隨從シ、七時過キ

ニ至リシニ、敵ハ第二合戦ニ敗レ、西方ニ逃レントスルノ狀アリ、因テ同驅逐隊ハ其ノ退路ニ向ヒタルニ、敵ノ砲撃ヲ受ケタルヲ以テ、之ヲ他方ニ避ケシカ、此ノ際村雨ハ「ビルジ」唧筒機ニ故障ヲ生シテ列外ニ出テ、他ノ三隻ハ敵ノ右翼前方約五海里ノ位置ニアリテ、十八海里ノ速力ニテ進航シ、八時十分長井司令ハ發射スルマテ此ノ速力ニテ進ミ、發射終ラハ二十二海里ニ爲スヘシト信號シ、同二十分頃西方ヨリ襲撃ノ態度ヲ取リシカ、四面猶明ニシテ早ク既ニ敵ニ發見セラレ、集弾ヲ受ケタルヲ以テ之ヲ中止シ、北西ニ退却シ、暫ク既ニ敵ニ發見セラレ、集弾ヲ受ケタルヲ以テ之ヲ中止シ、北西ニ退却シ、暫時ニシテ更ニ之ヲ試ミシモ、亦果サスシテ約西方ニ退却シ、時機ノ來ルヲ待チ、同五十五分頃第三回ノ襲撃ニ向フ、四面既ニ暗黒ニシテ敵ノ所在ヲ認ムル能ハサリシモ、北西ニ前進シタルモノト推想シ、北東ニ向ヒテ之ヲ索メシニ、九時五分左舷艦首ニ敵艦二隻ヲ、並ニ右舷艦首ニ一隻ヲ發見セリ、時ニ彼我ノ距離既ニ接近シ居リテ、敵ハ忽チ猛烈ナル砲火ヲ開キシモ、同驅逐隊ハ之ヲ冒シテ各艦個々ニ襲撃ヲ決行セリ、即チ速鳥ハ敵ノ發砲ニ次テ水雷ヲ發射セントセシカ、左方ニ在ル敵ノ先頭艦ハ既ニ近キニ過キ、時機ヲ失ヒタ

ルヲ以テ、後續艦ニ向ヒ、約二三百米突ノ距離ヲ測リテ、前部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、艦首ヲ轉シテ更ニ右方ノ敵艦ニ向ヒ、同シク二三百米突ノ距離ヲ測リテ、後部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、九時十分急速南西ニ航シ、暫時ニシテ北西ニ向ヒ、味方信號ヲナセシモ應スルモノナカリシヲ以テ、單獨航行ヲ續ケシニ、十時三十分驅逐艦ノ如キモノ二隻ニ會シ、味方信號ヲ爲セシモ應セスシテ、其ノ航路ヲ横過シ去レリ、次テ速鳥ハ旅順方面ニ向ヒ、十一日午前二時軍艦三隻ヲ右舷ニ認メ、同十三分豫備水雷ノ準備ヲ了リ、三時三十分南方ニ當リ砲火ヲ認メタルヲ以テ、其ノ方向ニ進ミシモ遂ニ敵ニ會セス、九時十五分帽島ヲ見、尋テ十時十五分小平島附近ニ達セリ、春雨ハ敵ノ砲火ヲ冒シテ突進シ、左方ナル敵ノ先頭艦ニ向ヒ、千米突以内ト思ハル、距離ニ接近シ、前後發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、速鳥ニ續行セントスル際、其ノ針路ニ當リ朝霧ノ横ハレルヲ認メ、左方ニ轉シテ之ト合シ、速鳥ニ別レテ朝霧ト共ニ航進シ、九時五十分ニ至リ、一驅逐艦ヲ前方ニ見、味方信號ヲ爲セシモ應セスシテ進航シ去レリ、是ト殆ト同時ニ、後方ヨリ敵ノ砲彈ヲ蒙リ、朝霧

ト相失シ、單獨圓島附近ニ達シ、十一日午前二時二十分豫備水雷ノ準備ヲ了リ、再襲撃ニ向フノ途次、第六十三號艇ニ會シ、共ニ砲火ヲ認メテ其ノ方面ニ進航セシモ、天明ニ至リタルヲ以テ、針路ヲ帽島ニ轉シ、小平島附近ニ於テ村雨ニ會セリ、朝霧ハ敵ノ砲火ヲ冒シテ一敵艦ニ向ヒテ突進シ、十日午後九時十八分六百米突ノ距離ヲ測リテ前部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射セシカ、同時ニ敵ノ十二斤砲彈其ノ三號罐右舷「ケーシング」ニ飛來シ、安全弁ヲ破毀シテ、爲メニ蒸氣噴出シ、其ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルヲ以テ、一旦北西ニ退却シ、僚艦ト相失シタルモ、單獨再敵ヲ襲撃セント欲シテ先ツ南下シ、同四十分微速力ヲ以テ東方ニ向ヒタルニ、同四十八分其ノ右舷ニ方リ、驅逐艦ノ如キモノヲ發見シ、之ニ向ヒテ暗號ヲ爲シタルニ、彼發砲ヲ開始シタルヲ以テ、直ニ應戰シ、二發以上ノ命中ヲ認メタリト云フ、而テ敵ハ忽チ發砲ヲ止メ、幾モナク其ノ影ヲ失ヒタリ、是ニ於テ朝霧ハ尙徐航索敵セシニ、圓島ノ南東約三十海里ト推定セラレ、所ニ於テ煤煙ヲ望ミ、之ニ近ツキシニ、四本煙突一本櫓ヲ認メ、其ノ型式敵艦ノ中ニアラサルモノナルヲ以テ、稍躊躇セルノ際、彼

砲火ヲ開キタルヲ以テ、直ニ速力ヲ增加シ、右轉シテ將ニ水雷ヲ發射セントセシニ、偶十五拇ノ敵彈左舷後部石炭庫ヨリ後罐室ニ入リテ爆裂シ、四號罐及ヒ主汽管送風機械等破壊セラレ、全ク航進力ヲ失ヒタルノミナラス、後罐室員海軍上等機關兵曹吉田駒吉及ヒ下士卒八名戰死シ、進退谷マリタルモ、尙砲火ヲ開キテ應戰シ、敵艦ニ命中セルモノ多カリシヲ認メタリト云フ、然ルニ敵ハ暫時ニシテ西方ニ去リ、朝霧ハ虎口ヲ脱シテ纔ニ應急修理ヲ爲シ、辛ウシテ四乃至五海里ノ速力ヲ出シ得ルニ至リタルヲ以テ、十一日午前五時航進ヲ起シテ、北々西ニ航シ、同二十八分圓島ノ南方約五海里ニ至リシニ、其ノ南々西ノ方ニ當リ第三驅逐隊ヲ認メ、其ノ助力ヲ得テ東雲ニ曳カレ、七時十五分青泥窪ニ向ヒ、午後五時無事同處ニ到着セリ、又村雨ハ十日午後七時四十六分「ピルジ、ポンプ」ニ故障ヲ生シテ、全速力航行ニ堪ヘサルカ爲メ、列外ニ出テタル以來、僚艦ト分レテ第五戰隊ノ方ニ進ミ、修理ニ著手シ、八時三十分復舊シタルヲ以テ、直ニ僚艦ニ追尾シ、之ニ合セントセシモ、遂ニ相會スルコト能ハス、是ニ於テ敵ノ航路ヲ豫想シ、單獨之ニ向ヒテ進航セシニ、十時

五分左舷前方ニ當リ砲火ヲ認メ、更ニ其ノ方向ニ向ヒ急進索敵シ、十一日午前零時三十分ニ及ヒ「レトウ非ザン」型ノ敵艦他ノ二戰艦ト共ニ旅順口方面ニ航進スルヲ發見シタルヲ以テ、乃チ全速力ニテ先ツ其ノ前路ニ出テ、更ニ回頭シテ敵ヲ右方ニ見テ反航シ、同五十分其ノ先頭ナル「レトウ非ザン」型ニ向ヒ、約千八百米突ノ距離ヲ測リテ前部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、左方ニ回轉シ、尙第二回ノ襲撃ヲ決行セント欲セシモ、敵艦屢其ノ針路ヲ變シ、容易ニ之ニ接近スルヲ得ス、一時二十五分其ノ前艦ノ「フアンエンシン」破損セシヲ以テ、終ニ襲撃ヲ止メ、帽島附近ニ航シ、同四十七分同島ノ南方約四十海里ノ地點ニ達セシ頃、右舷前方ニ當リ驅逐艦一隻ヲ認メ、五六百米突ノ距離ニ接近シ、味方信號ヲ爲セシニ、彼發砲ヲ開始セルヲ以テ、直ニ應戰セシニ、僅二三分ニシテ敵ハ旅順口方面ニ遁レ、其ノ影ヲ失セリ、斯クテ村雨ハ四時二十五分帽島ノ東北方約半海里ノ所ニ到リテ漂泊警戒シ、而テ天明ニ及ヘリ、

第十一目 第五驅逐隊ノ戰況

第五驅逐隊司令海軍中佐眞野巖次郎ノ率ル驅逐艦陽炎(司令乗艦)夕霧、不知火、

叢雲ノ四隻ハ、八月十日青泥窪ニアリシカ、細谷司令官ヨリ敵艦出港セルニ付封鎖配備ニ就クヘキ命令ニ接シタルヲ以テ、午前九時三十分出港シテ帽島附近ニ至ルヤ、敵艦隊ノ既ニ老鐵山ノ南方ニ出航セルヲ認メタリ、是ニ於テ同驅逐隊ハ直ニ南航シ、第一戰隊ト敵艦隊トノ中央ヲ横斷シテ、午後一時頃第三戰隊ニ合シ、其ノ後方ニ隨航ス、既ニシテ第一戰隊ハ第一合戰ヲ開始シ、第五驅逐隊ハ二時出羽司令官ヨリ、位置ヲ敵ノ彈着以外ニ取り、適宜運動セヨトノ命ヲ受ケタルヲ以テ、乃チ第三戰隊ノ非戰側ニ在リテ前進セシニ、七時頃ニ至リ、敵ハ第二合戰ニ敗レテ、大ニ混亂ノ狀ニ陥リタルヲ以テ、眞野司令ハ麾下ノ四驅逐艦ニ令シテ、凡テ乙種水雷ニ改装セシメ、又襲撃後ノ集合點ヲ敵針路ノ後方八海里ト定メ、以テ襲撃時機ノ至ルヲ待ツ、同五十分頃「アスコリド」ノ「ウ非ク」及ヒ驅逐艦四五隻ノ突撃シ來ルニ會シ、暫ク之ヲ南西方ニ避ケタルト、日没セルトノ爲メ、敵艦隊主力ノ所在ヲ失シタルモ、其ノ針路ノ南西ナルヘキヲ豫想シ、專ラ索敵中、十時五十五分圓島ノ約南々西十九海里ノ邊ニ於テ、前方ニ艦影ヲ認メ、之ニ接近シテ其ノ敵ノ戰艦及ヒ驅逐

艦ナルヲ確認シタルヲ以テ、爰ニ各艦個々ニ襲撃ヲ決行スルニ至レリ、即チ陽炎ハ敵ノ軍艦三隻、驅逐艦一隻ヲ發見スルヤ、其ノ左方ヲ迂回前進シ、二櫓二煙突ナル敵ノ殿艦ヲ正横後ニ見ルニ及ヒ、二十五海里以上ノ最大速力ト爲シ、斜ニ其ノ左舷ニ突進シ、敵ノ猛烈ナル砲火ヲ冒シテ、約六百米突ニ近ツキ、前部發射管ヨリ乙種水雷二個ヲ發射シテ、回頭退却シ、幾モナク夕霧、不知火ニ會セシモ、叢雲ト相失セルヲ以テ、規定ノ集合點ニ行カンカ爲メ、其ノ二隻ト共ニ南東ニ航シ、豫備水雷ノ準備ニ著手セシカ、其ノ結了ニ先ダチ、十一時四十五分更ニ他ノ敵艦ニ遭遇シ、砲撃ヲ受ケタルヲ以テ、之ヲ避ケタル後、其ノ二隻ト分レテ漂泊シ、十一日午前四時三十分準備完成セシモ、既ニ天明ニ近ツキタルヲ以テ、帽島ノ方向ニ航シ、十時三十分頃マテニ僚艦三隻ト相會シ、同島附近ヲ經テ後、封鎖配備ニ就ケリ、夕霧ハ敵ノ軍艦二隻、驅逐艦一隻ヲ發見スルヤ、二櫓三煙突ノ一艦ニ向ヒ、約五百米突ニ接近シテ、前部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、回頭退却シテ、陽炎、不知火ト合シ、十一日午前零時五分ヨリ更ニ襲撃ノ爲メ、不知火ト共ニ陽炎ニ分レテ索敵シ、四時十三分頃遇

岩ノ約南東十三海里ノ邊ニテ「ボベード」ペレスウエート及ヒ「セワストーポ」リ型艦ヲ發見シ、砲火ヲ冒シテ「セワストーポ」リ型艦ニ向ヒ、約七百米突ニ接近シテ、後部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、直ニ回頭退却シ、不知火ト合シテ圓島ニ向ヒ、同島ノ西微北九海里ノ所ニテ陽炎ニ合セリ、不知火ハ敵ヲ發見スルヤ、二櫓二煙突ノ一艦ニ向ヒ、約八百米突ニ接近シ、前部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シテ、回頭退却シ、更ニ夕霧ト共ニ索敵シテ、敵艦ヲ發見シ、ペレスウエート「リ」型艦ニ向ヒ、約八百米突ニ接近シ、後部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、後遂ニ陽炎ニ合セリ、叢雲ハ「バルラーダ」型ナル敵ノ軍艦一隻、驅逐艦一隻ヲ發見スルヤ、敵ノ右舷艦首ヨリ艦腹マテヲ望ミ半速力ニテ進航シ、約四百米突ニ接近シ、敵ノ發射開始ト同時ニ、前後發射管ヨリ乙種水雷二個ヲ發射シ、回頭退却シテ、尙敵ノ驅逐艦ト砲戰シツ、彈著距離外ニ出テ、豫備水雷ヲ準備シ、十一日午前一時頃一度夕霧、不知火ニ會セシモ、幾モナク相失シ、三十分再ニ二櫓三煙突ノ敵艦驅逐艦一隻ヲ伴ヒテ北西ニ航スルヲ認メタルヲ以テ、單獨之ニ向ヒ、約八百米突ニ接近シテ、前部發射管ヨリ乙種水雷ヲ

發射シ、尙發砲シツ、回頭退却シ、爾後天明ニ至ルマテ索敵シタル後、六時比南三山島ノ南方十海里ニテ、敵ノ驅逐艦一隻ヲ發見セシモ、終ニ之ヲ逸セリ、

第十二目 第一艇隊ノ戰況

第一艇隊司令海軍少佐關重孝ノ率非ル水雷艇第六十九號(司令艇)第六十八號第七十八號第六十七號ノ四隻ハ、八月十日B嶺區タル鮮生角ノ約東南方ニアリテ監視中、午前七時頃ヨリ敵艦續々出港シテ城頭山下ニ集リタルヲ以テ、兩度之ヲ小平島附近ナル山田第三艦隊司令官ニ報告シ、尙敵ノ動靜ヲ觀察セシニ、九時三十分頃ニ至リ敵艦隊ハ單縱陣ヲ制リ、老鐵山下ニ沿ヒテ西方ニ航行セリ、是ニ於テ同艇隊ハ更ニ之ヲ日進ニ乘艦セル片岡第三艦隊司令長官ニ報セント欲シ、小平島附近ニ達セシニ、會同司令長官ヨリ直ニ敵艦隊ノ南下ニ對スル配備ニ就クヘキ命ヲ受ケ、急航シテ十一時第三艦隊ニ合シ、十八海里ノ速力ヲ以テ之ニ隨行セリ、既ニシテ午後二時十分ニ至ルヤ、出羽第一艦隊司令官ヨリ彈著距離外ニアリテ適宜ノ運動ヲ取ルヘキノ令アリタルヲ以テ、乃チ第三艦隊ノ外方ニ位置シテ襲撃時機ノ來ルヲ待チツ、

關司令ハ其ノ最近ナル明石艦長ニ信號シテ、炭水補給ノ方法ニ關シ指揮ヲ請ヒ、近距離ノ根據地タル裏長山列島ニ於テ爲スヘキコト、決定セリ、蓋同艇隊ハ二日以前ヨリ封鎖配備ニ就キ、此ノ日恰モ炭水ヲ補給スヘキ豫定ナリシモ、敵艦出港ノ爲メ其ノ機ヲ得スシテ直ニ作戰行動ニ移リ、加之第三艦隊ニ隨行シテ概ネ十八海里以上ノ速力ヲ要シタル結果、夜間ノ行動中炭水缺乏ノ慮アルカ爲メ、豫メ補給ノ道ヲ講シ置クノ必要ヲ認メタルヲ以テナリ、然レトモ此ノ時既ニ日没ニ垂トシ、敵ハ第二合戦ニ敗レテ旅順方面ニ遁レントシ、艇隊襲撃ヲ試ミルノ時機ニ近ツキタレハ、關司令ハ炭水ノ繼續スル限リ敵ヲ追尾襲撃スルコトニ決シ、同隊ノ各艇ニ令シ、推定セル敵ノ所在地ニ急航セシカ、微ニ煤煙ヲ望ミ、之ニ向ヒテ航行中、九時十五分頃敵ノ驅逐艦ト思ハル、モノ四隻、其ノ右舷前方ヨリ來リタルヲ以テ、同艇隊ハ之ヲ避ケント欲シテ左方ニ回頭シ、僅ニ衝突ヲ免レタルモ、彼ハ同艇隊列ノ中央ヲ航過シ去レリ、爲メニ第七十號艇第六十七號艇ハ他ノ二隻ト分離行動スルニ至リ、次テ第六十九號第六十八號ハ百方索敵スレトモ、遂ニ之ヲ發見セズ

シテ午後十一時ニ至リ、炭水愈缺乏ヲ告ケタルヲ以テ、止ムヲ得ス裏長山列島ノ根據地ニ向ヒ、十一日午前六時其ノ附近ニ達シ、同九時入港ス、第七十號艇モ亦敵ヲ發見セスシテ來リ合セリ、

第六十七號艇ハ僚艦ト分離シタル後單獨西北西ニ航行セシニ、午後九時四十分前方ニ當リ、一艦ノ南東ニ進航スルヲ認メ、其ノ艦型ヲ確メシカ爲メ、其ノ左舷側約三百米突マテ接近セシニ、彼ヨリ砲銃火ヲ開キシモ、尙進ミテ二百米突ニ至リ、其ノ「ボルター」型艦ナルヲ見、前後發射管ヨリ乙種水雷二個ヲ發射シ、回頭退却シテ、十時十六分ヨリ裏長山列島ニ向ヘリ、

第十三目 第二艇隊ノ戰況

第二艇隊司令海軍少佐神宮司純清ノ率非ル、第三十八號(司令)第三十七號第四十六號、第四十五號ノ四隻ハ八月十日小平島ニアリシカ、午前十一時同島望樓ヨリ敵艦隊脫出ノ信號ニ接シ、直ニ出港シテ敵ヲ追尾シ、老鐵山ノ南東約十五海里ニ至リテ之ヲ發見シタルヲ以テ、觸接ヲ保チツ、南東ニ航シ、午後一時頃敵艦隊ノ前方ヲ横斷シテ第六戰隊ノ方ニ進航中、二時三十分三番

艇第四十六號ハ二番艇第三十七號ト衝突シ、其ノ前部破損シ運動自在ナラサルニ至レリ、時ニ敵ノ驅逐隊追躡シ來ルノ狀アリタルヲ以テ、一旦之ヲ避ケタル後、第四十六號艇ノ尙單獨航行ニ堪フルヲ知り、神宮司司令ハ之ヲ青泥窪ニ回航セシメ、他ノ三艇ヲ率非テ再南東ニ航セシカ、日没ニ近キ頃ヨリ敵ハ第二合戰ニ敗レ、其ノ陣形混亂セルヲ以テ、乃チ敵ト觸接ヲ保チツ、其ノ針路ト竝航シ、北西方ニ進ミ、十時過キ各艇互ニ相失シ、孰レモ單獨行動ヲ取リテ索敵セリ、即チ第三十八號艇ハ十一時四十五分二檣二煙突ノ敵戰艦ニ向ヒ、六百米突ノ距離ニテ前部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、一旦回頭退却シテ更ニ敵ヲ追尾スルノ際、十一日午前零時二十分敵ノ驅逐艦ヨリ發シタルモノト思ハル、一發ノ魚形水雷其ノ左舷前部ニ命中爆發シテ、前部殆ト其ノ影ヲ失ヒ、卒一名戰死シ、海軍中尉江守久以下九名負傷セリ、然レトモ幸ニシテ沈没ヲ免レ、一時頃第十六艇隊ノ第三十九號艇ニ會シタルヲ以テ、負傷人員ヲ之ニ托シ、後再敵艦ニ遭ヒ砲撃ヲ蒙リタルモ、免レテ同三十分青泥窪ニ向フノ途次、黎明圓島附近ニ於テ第三十七號艇ニ會シ、之ニ曳カレテ

正午到着セリ、蓋第三十七號艇ハ敵艦ヲ發見シテ襲撃ヲ試ミントセシモ、敵ノ驅逐艦ニ妨ケラレテ接近スルヲ得ス、之ト砲戦セシモ、遂ニ襲撃ヲ果スヲ得スシテ、後第三十八號艇ヲ救助セルナリ、第四十五號艇ハ索敵中、十一日午前零時二十分二煙突ノ敵艦ヲ發見シ、約四百米突リ距離ニ接近シ、中部及ヒ後部發射管ヨリ乙種水雷二個ヲ發射シ、回頭退却シテ後小平島ニ向ヘリ、

第十四目 第六艇隊ノ戰況

第六艇隊司令海軍少佐内田良隆ノ率非ル、水雷艇第五十六號(司令)第五十九號第五十七號ハ八月十日青泥窪ニアリ、第五十八號ハ港外ニアリテ通信傳令ニ從事セシカ、午前十時頃扶桑ニ在ル細谷司令官ヨリ敵艦出港セルニ付、封鎖配備ニ就クヘキノ命ヲ受ケタルヲ以テ、炭水補給中ナル第五十七號艇ヲ留メ、第五十六號及ヒ第五十九號ノ二隻ハ直ニ出航シ、西口角附近ヨリ第五十八號艇ヲモ伴ヒテ進航シ、正午ヨリ針路ヲ南西ニ定メシニ、同二十分老鐵山ノ南方ニ當リ、彼我ノ艦隊ヲ認メタルヲ以テ、第一戰隊ノ方向ニ進航シ、爾後適宜ノ運動ヲ取りツ、アリシ中、日没ニ近ツキ、敵ハ第二合戦ニ敗レテ

混亂シ、旅順方面ニ遁レントスルノ狀ヲ見、漸次之ニ接近シ、北微東ニ定針進航中、各艇互ニ相失シ、個々索敵セリ、即チ第五十六號艇ハ「ダイヤモンド」型艦ノ驅逐艦一隻ヲ伴ヒテ南方ニ向フモノヲ發見シ、九時十三分四百乃至五百米突ヲ測リ、後部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、退却セントシタルモ、益之ニ接近シタルヲ以テ、同十八分三百米突以内ニテ後部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シテ直ニ回頭退却シ、炭水補充ノ爲メ迂回シテ小平島ニ向ヒ、十一日午前七時同所ニ到着セリ、第五十八號艇ハ索敵中僚艦ト相失シ、砲火ヲ目的トシテ單獨進航シ、十一日午前三時三十分頃旅順口ノ南方約十五海里ノ地點ニ於テ、敵艦三隻ヲ發見シタルヲ以テ、直ニ中央ノ「ポルター」型艦ニ向ヒ、同五十分約六百米突ニ接近シ、左舷發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、回頭退却シテ東北ニ進航シ、更ニ「ダイヤモンド」型艦及ヒ驅逐艦二隻ノ北方ニ向フモノヲ認メ、之ニ接近セシニ、敵ハ之ヲ味方ト誤認セシモノ、如ク、頻ニ發光信號ヲ爲シ、尋テ發砲ヲ開始セシカ、同艇ハ尙進ンテ同五十八分三百乃至四百米突ニ近ツキ、右舷發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、回頭退却シテ南方ニ航シ、更ニ南

東ニ變針シ、後小平島ニ向ヒ、六時該島ニ到著セリ、第五十九號艇ハ終夜索敵シタレトモ、遂ニ之ト會セスシテ、十一日午前六時三十分小平島ニ到著セリ、第五十七號艇ハ僚艇ニ後レ、炭水補充ヲ了リテ後、午後零時二十分單獨青泥窪ヲ發シテ戰場ニ向ヒ、終夜索敵シタレトモ、遂ニ目的ヲ達セスシテ、十一日午前八時青泥窪ニ歸著セリ、

第十五目 第十艇隊ノ戰況

第十艇隊司令海軍少佐大瀧道助ノ率ヰル、水雷艇第四十三號(司令乘艇)第四十二號第四十號第四十一號ノ四隻ハ、八月十日午前九時三十分青泥窪ヲ出發シ、第四、第五驅逐隊及ヒ第二十艇隊ト共ニ、封鎖配備ニ就カントスルノ途次望樓ヨリノ信號ニヨリ敵艦隊ノ脫出ヲ知リタルヲ以テ、同艇隊ハ他隊ト分レ、西微南ニ定針シテ老鐵山沖ニ進航セシカ、十一時四十五分ニ至リ、老鐵山ノ南微東約七八海里ニ當リ、敵艦隊ノ南東ニ航スルヲ認メタリ、是ニ於テ同艇隊ハ老鐵山ノ南方約十海里ノ所ニテ、第二十艇隊ト共ニ第六戰隊ニ合シ、之ニ隨航中、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ第一戰隊ノ非戰側彈著距離以外ニ位

置スヘキノ命ヲ受ケ、直ニ速力ヲ增加シテ第一戰隊ニ近ツカントセシカ、未タ之ニ達セサルニ先ダチ、日沒ニ垂トシ、敵ハ第二合戰ニ敗レ、相混亂シテ旅順方面ニ向フノ狀アリ、大瀧司令乃チ襲撃ノ機ヲ逸センコトヲ慮リテ、遂ニ第一戰隊ニ近ツクノ運動ヲ中止シ、午後八時十五分北西微西ニ變針シ、以テ敵ニ接近セントシ、航行スルコト約四十分ニ及ヒシ頃、集合地點ヲ帽島ト定メテ各艇ニ襲撃ヲ令シ、更ニ北東ニ向ヒテ數時間進航シ、百方索敵ノ結果、正子ノ頃、岩ノ南東約三海里ノ所ニテ、ツエザレウ非子型艦、レトウ非ザン型艦及ヒ三隻ノ驅逐艦ヲ發見シ、各艇個々ニ襲撃ヲ決行セリ、即チ第四十三號艇ハ「レトウ非ザン」型艦ニ向ヒ、午前零時十五分約千米突ニ接近シ、中央及ヒ後部發射管ヨリ甲種水雷二個ヲ發射シテ回頭退却シ、更ニ敵ニ接近セント欲シテ北西ニ航シ、砲火ヲ冒シテ再ツツエザレウ非子型艦ニ向ヒ、零時三十分約四百米突ニ接近シ、前部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ了リテ集合地點ニ向ヒ、六時頃帽島ノ南西ニ於テ各僚艇ト相會セリ、第四十二號艇ハ「レトウ非ザン」型艦ニ向ヒ、午前零時三十五分四百米突内外ニ接近シ、中央及ヒ後部發

射管ヨリ甲種乙種各一個ノ水雷ヲ發射シ直ニ針路ヲ南方ニ變シ後集合地點ニ向ヘリ第四十號艇ハツエザレツ非チ型艦ニ向ヒ午前零時五分頃先ツ七八百米突ニ至リテ中央發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ更ニ突進シテ約四百米突ニ達シ轉舵セントシタルニ舵機故障アリテ回頭意ノ如クナラス爲メニ一個ハ發射ノ機ヲ失シ一個ハ故障アリテ發セス是ニ於テ一度彈著距離外ニ退却シ北西ノ針路ヲ取リテ旅順沖ニ航シツ天明迄索敵シタレドモ遂ニ目的ヲ達セスシテ後集合地點ニ向ヘリ第四十一號艇ハツエザレツ非チ型艦ニ向ヒ午前零時三十一分約五百米突ニ接近シ中央及ヒ後部發射管ヨリ甲種乙種各一個ノ水雷ヲ發射シ尙一個ヲ前部發射管ヨリ發射セントセシニ發セサリシヲ以テ其ノ儘回頭退却シ後集合地點ニ向ヘリ

第十六目 第十四艇隊ノ戰況

第十四艇隊司令海軍少佐櫻井吉丸ノ率ル水雷艇千鳥(司令乘艇)鵠隼眞鶴ノ四隻ハ八月十日午前九時二十分汽罐修理中ナル眞鶴ヲ留メ他ノ三隻出港シテ封鎖配備ニ就カントスルノ途次十一時三十分頃敵艦隊ヲ老鐵山ノ南方

ニ認メタルヲ以テ同艇隊ハ急航シテ午後二時三十五分頃第一戰隊ニ合シテ隨航シ日沒頃ヨリ混亂セル敵ヲ襲撃セントス偶汽罐ノ修理ヲ了リテ來會セル眞鶴ヲ合シ八時頃第一戰隊ト分レテ敵ニ追尾シ圓島ノ南方約二十海里ノ所ニテヂイヤト型艦ヲ發見シ之ニ向ヒテ襲撃ヲ決行セリ即チ千鳥鵠ハ同四十五分頃敵ヲ左舷ニ見テ進行シ六百米突ニ接近シテ左舷及ヒ後部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ後旅順口附近ニ至リ各艇相合シテ翌朝封鎖配備ニ就ケリ隼ハ襲撃ノ機ヲ得スシテ前續二艇ト分レ索敵ニ努メ一時約南西ニ進航中ナルツエザレツ非チ型艦ヲ認メ六百米突以内ニ接近シテ右舷發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ後僚艇ト相合セリ眞鶴モ隼ト同シク襲撃ノ機ヲ得サリシモ僚艇ト分レ更ニ索敵シテ八時五十分頃ヂイヤト型艦ニ向ヒ約五百米突ニ接近シテ後部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ更ニ十一時頃ツエザレツ非チ型艦ニ向ヒ約四百米突ニ接近シ右舷發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ後僚艇ト相合セリ

第十七目 第十六艇隊ノ戰況

第十六艇隊司令海軍少佐若林欽ノ率ヰル、水雷艇白鷹(司令乗艇)第三十九號第七十一號第六十六號ノ四隻ハ八月十日E哨區タル旅順口ノ約南方ニアリシカ、午前九時頃四五隻ノ敵艦港外ニ出テ、自餘ノ諸艦モ亦將ニ出港セントスルノ狀アルヲ以テ、白鷹ハ第三戰隊ノ所在地ニ急航シテ、之ヲ出羽第一艦隊司令官ニ報告シ、他ノ三隻ハ依然哨區ニアリテ敵ノ行動ヲ監視セシニ、敵艦續々港外ニ出ツルヲ以テ、第七十一號艇モ亦報告ノ爲メ第六戰隊所在地ニ赴キ、第三十九號第六十六號ノ二艇ハ敵情ヲ窺ヒツ、南方ニ進航中、報告ヲ了リテ歸航セル白鷹ト相會セシカ、敵艦隊ハ既ニ老鐵山ノ南方ニ出テ南西ニ向ヒツ、アルヲ以テ、若林司令ハ更ニ第三十九號艇ヲ第三戰隊ノ方向ニ派シテ敵情ヲ報告セシメ、白鷹及ヒ第六十六號艇ハ依然敵ト觸接ヲ保テリ、時ニ第三戰隊ハ、約西方ノ針路ヲ取り、敵ノ先頭ニ向ヒテ進ミツ、アリ、而テ十一時十分頃第三十九號艇ハ報告ヲ了リテ歸著シ、出羽司令官ヨリ其ノ隊ハ驅逐隊ト共ニ敵ト接觸ヲ保チ監視セヨ、若シ敵ノ壓迫ヲ受ケタルトキハ本隊ニ來レトノ命令ヲ齎シタリ、既ニシテ敵ハ針路ヲ東方ニ變シ、第十六

艇隊トノ距離稍近ツクニ至リタルヲ以テ、同艇隊ハ十海里ノ速力トナシ、第三驅逐隊第一艇隊ト共ニ第三戰隊ニ合シ、命ニ依リテ同戰隊ノ非戰側ニアリテ航行シ、午後一時十五分頃ニ至リシニ、第一戰隊第一合戰ヲ開始シ、第三戰隊ニ隨伴セル驅逐隊艇隊ハ出羽司令官ヨリ彈著距離外ニアリテ適宜ノ運動ヲ取ルヘキ命ヲ受ケタルヲ以テ、第十六艇隊ハ第三戰隊ト適宜ノ距離ヲ保チ、速力ヲ十五海里ニ増加シ、五時二十分迄進航セシニ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ努メテ急航セヨトノ命令ニ接シ、更ニ速力ヲ十八海里ト爲シテ進航中、六時十七分第七十一號艇歸著セリ、蓋同艇ハ是ヨリ先キ第六戰隊ニ向ヒ、敵情報告ヲ了リテ僚艇ニ合セントセシモ、其ノ所在ヲ知ル能ハサリシヲ以テ、已ムヲ得ス第十四艇隊ニ續行シ、漸ク僚艇ヲ認メテ來會セルモノナリ、此ノ時同艇ハ東郷聯合司令長官ヨリ、近ヨレトノ命令ヲ齎シタルヲ以テ、第十六艇隊ハ三笠ニ向ヒ愈急航セシニ、日没ニ近ツキ、敵ハ第二合戰ニ敗レ、北西ノ方向ニ逃走スルノ狀アリタルヲ以テ、若林司令ハ襲撃ノ機ヲ逸センコトヲ慮リ、第一戰隊ニ合スルノ運動ヲ止メテ、針路ヲ北西ニ變シ、敵ノ左側

前方ニ位置シテ之ト竝航シ、日没後針路ヲ反轉シ、明朝ノ集合點ヲ圓島ト定メテ敵ニ向ヒシカ、暫クニシテ白鷹ハ汽罐ニ漏洩ヲ生シ、速力減少セルヲ以テ、若林司令ハ他艇ニ向ヒ、隨意襲撃スヘキヲ命シタレトモ、其ノ意ヲ達セザリシヲ以テ、止ムナク白鷹ハ猶先頭ニアリテ、十六海里ノ速力ニテ進ミシニ、十時四分頃圓島ノ南二分ノ一西約四十海里ノ所ニテ、突然左舷艇首ニ一敵艦ヲ發見シ、襲撃ヲ決行セリ、即チ白鷹ハ敵艦ノ「レトウ」非ザン型ナルヲ確メ、之ヲ左舷ニ見テ反航シツ、砲火ヲ冒シテ同六分約九百米突ノ距離ヲ測リ、前後ノ發射管ヨリ甲種水雷各一個ヲ發射セリ、第三十九號艇ハ同シク敵ト反航シツ、十時十五分四百米突ノ距離ヲ測リ、後部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射セリ、第七十一號艇ハ一旦水雷ヲ發射セントセシモ、其ノ船體小型ニ見ヘタルヲ以テ之ヲ止メ、第六十六號艇ハ敵影ヲ失シテ、遂ニ發射ノ機ヲ得ルニ至ラザリシ、

襲撃後白鷹ハ僚艇ト相失シ、單獨針路ヲ反轉シテ再索敵セシモ、遂ニ目的ヲ果サス、正子頃ヨリ北方ニ進ミ、十一日午前三時圓島附近ニ達シ、漂泊シテ僚艇ノ來ルヲ待テリ、又第三十九號艇以下三隻ハ白鷹ト分離セシ後、尙索敵中又第六十六號艇ト分レ、十一日午前一時近キ頃、第二艇隊中ノ第三十八號艇ノ敵水雷ヲ受ケ、漂泊シツ、アルニ會シタレトモ、二艇ハ襲撃ノ途中ニアリ、且第三十八號艇モ沈没スヘキ模様ナキヲ以テ、其ノ負傷者ヲ收容シテ相分レ、砲火ヲ目的トシツ、老鐵山ノ方向ニ進ムコト約一時間半ニシテ、漸ク敵ノ前面ニ出テ、更ニ轉舵シテ之ニ迫リシモ、其ノ驅逐艦ナルカ如キヲ認メタルヲ以テ、暫ク速力ヲ緩メ、狀況ヲ視察スル中、既ニ天明ニ近ツキシヲ以テ、已ムヲ得ス、圓島ニ向ヒ、六時三十分白鷹ニ會セリ、又第六十六號艇ハ他艇ト分レタル後、單獨索敵シ、十一日午前二時五分二橋二煙突ノ敵艦ヲ發見シ、七百乃至八百米突ノ距離ヲ測リ、前部發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、尙敵ヲ追ヒシモ得ル所ナクシテ、三時五分ヨリ圓島ニ向ヒ、後白鷹ト相會セリ、

第十八目 第二十艇隊ノ戰況

第二十艇隊司令海軍少佐荒川伸吾ノ率非ル、水雷艇第六十二號(司令)第六十四號第六十三號第六十五號ノ四隻ハ、八月十日午前九時三十分封鎖配備

ノ爲メ青泥窪ヲ出港シ、速力十二海里ヲ以テ進航セシカ、南岬角望樓下ヲ通過スルニ及ヒ、更ニ同望樓ヨリ敵艦隊港外ニ出テタルノ通報ニ接シタルヲ以テ、直ニ速力ヲ十五海里ニ増加シテ旅順港口ニ向ヒ、十一時敵艦隊ノ既ニ老鐵山以南ニアルヲ認メシニ依リ、同艇隊ハ針路ヲ南東ニ取リテ、敵ヲ監視シツ、航行中、午後一時ニ至リ、第六戰隊ニ會シタルヲ以テ、同隊ノ左側後部ニ占位シ、爾後之ト行動ヲ共ニセシニ、四時過キニ至リテ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ驅逐隊艇隊ハ位置ヲ第一戰隊非戰側彈著距離以外ニ取ルヘキノ命令ヲ受ケ、速力ヲ二十海里ニ増加シテ、五時四十八分第一戰隊ニ追及シ、非戰側ニ占位シ、速力ヲ十五海里ニ減セリ、已ニシテ敵ハ六時四十分頃ヨリ第二合戦ニ敗レ、逐次旅順方面ニ遁レントスルノ狀アリ、斯クテ同艇隊ノ第一戰隊ニ從ヒテ北方ニ彎航シツ、アルノ際、荒川司令ハ麾下ニ向ヒ、敵ヲ追躡シ好機ヲ俟チテ襲撃スヘキコト、及ヒ明朝ノ集合點ハ小平島ト定ムルコトヲ令シ、次テ第一戰隊ト分離シ、日没頃ヨリ漸次速力ヲ二十海里ニ増加シ、西北西ニ定針シテ敵ヲ追躡シ、八時三十分頃ヨリ各艇互ニ離散シテ、個々ニ襲

撃ヲ決行セリ、即チ第六十二號艇ハ同五十七分、其ノ左舷艇首一點ニ當リ、約千米突ノ距離ニ於テ「ダイヤー」型艦及ヒ驅逐艦一隻ノ南行スルヲ發見シ、直ニ其ノ左側ヲ過キテ前方ヲ遮ラントセシニ、敵之ヲ覺リタルモノ、如ク、直ニ右方ニ回頭シ、引續キ蛇行運動ヲ取り、且其ノ速力モ亦頗ル速ナリ、是ニ於テ第六十二號艇ハ二十二海里ノ速力ト爲シ、敵ノ左側ヲ通過セントセシモ、強濤ニ妨ケラレ、意ノ如クナラサルヲ以テ、之ト並行スルニ及ヒテ右方ニ急轉シ、約四百米突ニ接近シ、先ツ前部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、尋テ徐々左方ニ回頭シツ、更ニ中央及ヒ後部發射管ヨリモ、同種水雷二個ヲ發射セリ、時ニ九時十七分ナリ、此ノ襲撃中敵ハ更ニ發砲セス、同艇ハ發射ヲ終リ、十五海里ノ速力ニテ反航中、同二十分頃第六十四號艇ニ會セシヲ以テ、之ニ極力敵ヲ追躡スヘキヲ命シ、速力ヲ減シ、針路ヲ北西微北ニ取り、尙敵ノ驅逐艦ヲ搜索シタル後、翌朝小平島ニ至リ、他ノ三艇ト會合セリ、又第六十四號艇ハ第六十二號艇ト分レテ後、十五海里ノ速力ニテ北西ニ進ミシニ、九時三十分五分一敵艦ノ南方ニ徐航スルヲ認メ、接近シテ其ノ「ツエザレ」ヲ非チナルヲ

確メタルヲ以テ、之ト反航シツ、同五十分頃四百米突ノ距離ヲ測リ、中央及ヒ後部發射管ヨリ乙種水雷二個ヲ發射シ、砲撃ヲ受ケツ、回頭退却シテ後北方ニ向ヒ、翌朝帽島附近ヲ經テ小平島ニ至レリ、第六十三號艇ハ九時頃前續艇ヲ失ヒタルカ、同時其ノ左舷正横ニ方リテ煤煙ヲ望ミ、同五十分頃之ニ接近セシニ、二檣三煙突ノ軍艦一驅逐艦ヲ伴フモノナルヲ發見シ、直ニ其ノ右側約五百米突ノ所ニ出テ、愈其ノ敵艦ナルヤ否ヲ確メントスルノ際、同艦ハ左舷ニ回頭シ、遂ニ其ノ形影ヲ失シタルヲ以テ、百方之ヲ搜索スレトモ得スシテ正子ヲ過キ、十一日午前一時三十分頃敵驅逐艦二隻ヨリノ砲撃ヲ受ケ、之ヲ避ケテ後、驅逐艦春雨ニ會シ、之ト共ニ襲撃ニ向ヒシモ、天明ニ近ツキタルヲ以テ之ヲ止メ、翌朝集合地點ニ至レリ、第六十五號艇ハ九時四十五分前續艇ヲ失ヒタルヲ以テ、西北西ニ向ヒシニ、十時其ノ右舷正横約四百米突ノ所ニ於テ「ツエザレウ非チ」ノ同方向ニ進行スルヲ認メ、將ニ襲撃セントセシニ、敵之ヲ覺リ、砲銃火ヲ開キ、且速力ヲ増加シテ左舷ニ回頭シ、同艇ノ後方ヲ横キラントスルモノ、如シ、是ニ於テ同艇ハ直ニ中央及ヒ後部發射管ヨ

リ乙種水雷二個ヲ發射シ、全速力ニテ前進セリ、此ノ際兵員一名海中ニ墜落シタルヲ以テ、之ヲ搜索救助シ、西北西ニ向フ、十一日午前三時頃前面ニ方リ二艦ヲ認メ、尙接近シテ敵ナルコトヲ確メタルヲ以テ、「セワストーポリ」型艦ニ向ヒ、三時二十分五六百米突ノ距離ニ於テ、中央發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、回頭退却シテ、集合地點ニ向ヘリ、

第十九目 第二十一艇隊ノ戰況

第二十一艇隊司令海軍少佐江副武靖ノ率ル、水雷艇第四十七號(司令乘艇)第四十九號ノ二隻ハ八月十日小平島ニアリ、又第四十四號艇ハ罐水補充ノ爲メ、青泥窪ニアリ、會午前十一時小平島望樓ヨリ敵艦隊脫出ノ信號ニ接シタルヲ以テ、同十分第四十七號、第四十九號ノ二隻出港シテ約南微西ニ進ミシカ、午後零時十分其ノ南西微西約十三海里ニ方リ、敵艦隊ノ南下スルヲ發見シ、又第一戰隊ヲモ正面ニ認メタリ、此ノ際第四十四號艇モ來リ合シ、南方ニ向ヒシニ、一時過キニ至リ、第一合戰開始セラレ、同艇隊ハ彼我兩艦隊ノ東方ヲ通過シテ、二時頃第六戰隊ニ合シ、之ニ隨ヒシカ、四時過キ東郷聯合艦隊司

令長官ヨリ驅逐隊、艇隊ハ位置ヲ第一戰隊ノ非戰側彈著距離以外ニ取ルヘキノ命令ヲ受ケ、殆ト二十海里ノ速力ニ増加シテ、南東ノ針路ヲ取り前進セリ、然ルニ敵ハ第二合戰ニ敗レ、七時比旅順方面ニ遁レシタルヲ以テ、之カ爲メニ遮ラレテ、同艇隊ハ第一戰隊ニ合スル能ハス、依テ暫ク形勢ヲ見タル後、八時針路ヲ反轉シ、約北西ニ向ヒテ敵ト並航シ、同三十分針路ヲ右轉シ、九時三十分ヨリ北東微東ニ變針シ、敵ニ向ヒシモ相遇ハサルヲ以テ、更ニ約東方ニ轉シ、索敵セシニ、幾モナク其ノ左舷後方ニ方リ、敵ノ戰艦隊ヲ認メテ之ニ接近シ、各艇襲撃ヲ決行セリ、即チ第四十七號艇ハ一橋三煙突ノ一艦ニ向ヒ、十一時五十分約千米突ニ接近シ、中央發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、砲撃ヲ受ケツ、回頭退却シ、更ニ索敵セシモ目的ヲ達セスシテ、翌朝圓島ニ向ヒ、次テ大崗口ニ至レリ、第四十四號艇ハ北西ニ航行中、十日午後十一時二十分前續艦ヲ失ヒ、十一日午前零時敵ノ砲火ヲ北方ニ認メ、之ニ向ヒテ急航シ、一敵艦ノ南航セルニ對シ、反航シツ、千米突ヲ測リ、中央發射管ヨリ甲種水雷ヲ發射シ、轉シテ北西ニ航シ、一時十分頃、ボベーダ型艦ニ對シ、砲火ヲ冒シ

テ約六百米突ニ接近シ、後部發射管ヨリ乙種水雷ヲ發射シ、後大崗口ニ向ヘリ、第四十九號艇ハ北西微北ニ進航中、午後十時十分前續艦ヲ失セシカ、幾モナク前方二箇所ニ煤煙ヲ認メ、其ノ左方ノモノニ向ヒ接近セシニ、敵ノ驅逐艦ニシテ、此ノ際端ナク第四十七號艇ニ會ス、同時敵驅逐艦ノ砲撃ヲ受ケタルヲ以テ、後部發射管ヨリ水雷ヲ發射セントセシモ發セサリシヲ以テ、南東方ニ避ケ、後更ニ索敵シタレトモ目的ヲ達セス、十一日午前三時ニ至リ、遂ニ大崗口ニ向ヘリ、

第二十目 露國艦隊ノ戰況 露國ノ時 問ニ據ル

開戰以來概ネ旅順口内ニ屏息シタル露國艦隊モ、陸軍及ヒ其ノ他ヨリノ劇シキ批難ニ耐ヘス、艦隊臨時司令長官海軍少將ウヰリゲリム、カルロウヰヰチ、ウヰトグフトハ、六月二十三日一度總艦隊ヲ擧ケテ出港セリト雖モ、我カ艦隊ノ損害其ノ豫期ヨリモ僅少ニシテ、依然露國艦隊ヨリモ優勢ナリト認メタルヲ以テ、再旅順口ニ引返シ、爾來時機ニ應シテ行動セントセシカ、幾モナク我カ陸軍ハ漸次旅順口ノ背面ニ迫リ、從ヒテ露國艦隊ハ愈々危險ヲ感シ、若

シ依然トシテ港内ニ蟄伏セハ終ニハ無爲ニシテ全艦隊滅盡スルノ悲運ニ
 陥ルヘキヲ思ヒ且本國ヨリモ浦鹽斯德港ニ航スヘキノ勅命ヲ受ケタルヲ
 以テウヰトゲフト司令長官ハ成否ヲ一擧ニ賭シテ封鎖ヲ脱出シ途中ニ於
 テ浦鹽斯德ノ艦隊ト合同シ該港ニ逸走スルニ如カスト決シタルモノ、如
 シ然レトモ其ノ艦員ハ充實セス彈丸煩砲ハ要塞用トシテ陸ニ引揚ケラレ、
 加之乗組主要將校中ニ數日前交迭アリテ若干ノ艦長ハ始テ其ノ艦ヲ運轉
 スル如キ窮狀ニアルカ故ニ出來得ル限り戰鬪ヲ避ケ逸走ヲ唯一ノ目的ト
 ナシ八月九日出港準備ヲ整ヘ翌十日拂曉ヨリ住民ノ熱心ナル祝聲ニ送ラ
 レ巡洋艦「バヤーン」ヲ留メ、(同艦ハ是ヨリ先キ敗設
 水雷ニ罹リ損傷セリ)其ノ他ノ各艦順次外錨地ニ
 出テ午前九時ウヰトゲフト司令長官ハ各艦ニ對シ浦鹽斯德ニ向ヒ行クヘ
 シトノ信號ヲ爲シ掃海船ヲ先頭ニ置キテ掃海ヲナサシメツ、戰艦六隻巡
 洋艦四隻ハ單縱陣ヲ制リ驅逐艦八隻及ヒ病院船モンゴリア號ヲ伴ヒ左ノ
 順序ニテ進航ヲ起セリ、

第一、戰艦「ツエザレウヰチ」(ウヰトゲフト
 司令長官旗艦)

第二、戰艦「レトウヰザン」

第三、戰艦「ポベータ」

第四、戰艦「ベレスウエート」(司令官海軍少將侯爵パーウヨル、ベ
 トロウヰツウフトムスキー旗艦)

第五、戰艦「セワストーポリ」

第六、戰艦「ポルターワ」

第七、巡洋艦「アスコリド」(司令官海軍少將ニコライ、カルロ
 ウヰツチ、レイツエンシテイイン旗艦)

第八、巡洋艦「バルラーダ」

第九、巡洋艦「ダイヤモンド」

而テ巡洋艦「ノウヰク」ハ艦隊ノ先鋒トナリ、驅逐隊ハ旗艦「ツエザレウヰチ」
 ノ側面ヲ擁護シ「モンゴリア」號ハ赤十字旗ヲ揚ケテ隨伴シ、別ニ二隻ノ砲艦
 及ヒ一驅逐隊ハ途中適宜ノ場所ヨリ掃海船ヲ護シテ歸港スルカ爲メニ進
 航セリ、又ウヰトゲフト司令長官ハ豫メ浦鹽斯德港ノ艦隊ト氣脈ヲ通シ、中
 途ニ於テ相會センカ爲メ、驅逐艦「レシ」テリヌイ艦長海軍大尉ロシチヤコ
 フスキーヲシテ芝罘港ニ密航シテ同處ヨリ旅順艦隊ノ出港ヲ浦鹽斯德艦

隊等ニ傳ヘシメタルモノ、如シ、

當時露國艦隊ハ我カ主力艦隊ノ所在ニ就テ、知ル所ナカリシトノコトナルモ、一念南下ヲ圖リ、午前十時十五分頃ニ至リ、既ニ水雷敷設面ヲ過キタルヲ以テ、掃海船及ヒ其ノ護衛艦ヲ歸港セシメ、艦隊ハ八海里ヨリ十海里ノ速力ト爲シ、老鐵山以南ヨリ南東ニ定針セシカ、此ノ前後我カ巡洋艦隊ノ其ノ左右兩面ニ在リテ、觸接ヲ維持スルヲ見、遂ニ主力艦隊ノ左方ニ現レ、其ノ針路ヲ横斷セントスルヲ望見シ、別ニ水平線ニハ松島型ナル三隻ノ巡洋艦、八雲型ナル一隻ノ裝甲巡洋艦、高砂型ナル三隻ノ巡洋艦、水雷艇四十餘隻ノ游弋セルヲ認メタリト云フ、而テ露國艦隊ハ我カ艦隊ヲ以テ、長期ニ互レル封鎖勤務ノ爲メ、汽機汽罐既ニ疲憊シ、充分ノ速力ヲ出スコト能ハサルヘキヲ以テ、全速航行セハ遁逃ノ目的ヲ達シ得ヘシト思惟シタルモノ、如ク、正午ヨリ速力ヲ十三海里ニ増加シ、依然進航ヲ續ケシカ、幾モナク我カ第五驅逐隊カ其ノ前路ヲ横キリツ、偶然石炭ノ蒲簀ヲ投棄セルヲ見テ、浮泛水雷ヲ投下セルモノト誤認シ、之カ爲メ其ノ前進運動ヲ妨害セラレタリト爲シ、暫ク

蛇行運動ヲ取ルニ至レリ、既ニシテ我カ主力艦隊彼ヲ洋中ニ誘致センカ爲メ横陣トナリ、次テ逆番號單縱陣トナリ東北東ノ方向ニ進ムヤ、彼ハ右方ニ轉針シテ、我ト反航シツ、第一ノ合戦ヲ開始シ、又我十六點ノ一齊回頭ヲナセハ、彼モ亦左方ニ轉針シテ、再反航ノ姿勢トナリ、針路ヲ山東角ニ取リシカ、我カ艦隊ハ徐々ニ迂回シテ、露國艦隊ト同一ノ航路トナリ、次テ第一合戦ヲ終レリ、此ノ一戰中午後二時頃露國巡洋艦ハ彼我兩戰艦隊ノ間ニ介在スルノ狀況ニ陥ラントシ、アスコリドハ前部煙突ニ一彈ヲ受ケ、汽罐一個ヲ損シ、亦「バルラーダ」等モ多少ノ損害ヲ蒙リ、遂ニ巡洋艦隊ハ列外ニ出テ、新ニ戰艦隊ノ左側ニ占位シ、驅逐隊ト共ニ三縱列ノ隊勢トナレリ、而テ砲戰中止スルヤ、ツ井トゲフト司令長官ハ各艦ノ兵員ニ休息ヲ命シ、同四時ニ至リ、始テ晝食セシメタルカ、次テ我カ艦隊漸ク之ニ接近シ來リタルヲ以テ、露國艦隊ハ其ノ相距ル約八千米突ナルヲ測リテ、第二合戦ヲ開始シ、砲戰頗ル猛烈トナリ、ウ井トゲフト司令長官ハ巡洋艦ニ向ヒ、南方ニ逃走スヘキヲ命令シタリト云フ、

次テ我カ艦隊愈近接シ、專ラ旗艦「ツエザレウ非チ」ニ集弾シ、巨弾ノ命中セルモノ頗ル多ク、十二尹砲彈ノミニテ十五個ヲ數フルニ至レリ、就中同六時四十分頃前橋ノ根部ニ命中爆裂セル十二尹砲彈ノ如キハ、輻モスレハ前橋ノ倒ル、危険アル迄ニ大部分ヲ破碎シ、ウ非トダフト司令長官ヲ斃シ、幕僚ノ全員或ハ死シ、或ハ傷ツキ、艦長モ亦負傷ノ爲メ人事不省トナリ、舵柄ハ偏倚シテ動かサルニ至リ、之カ爲メニ同艦ハ期セスシテ左方ニ旋リ、列外ニ逸出シタルヲ以テ、司令長官ウ非トダフトノ指揮權ハ他ニ移レリトノ信號ヲ掲クルノ止ムヲ得サルニ至レリ、「ペレスウエート」ニアル先任司令官侯爵ウフトムスキ―少將代リテ艦隊ヲ指揮スルコト、ナリシカ、同司令官ハ南下ノ希望ヲ放棄シ、旅順口ニ引返スヲ得策ナリト認メタルモノ、如ク、本官ニ續ケノ信號ヲ掲揚シタリト云フ、然レトモ各艦混乱シテ運動一致セス、二番艦タリシ「レトウ非ザン」ハ我ハ續行セストノ信號ヲ爲シ、突然戦列ヲ離レ、我カ艦隊ニ向ヒテ約千五百米突突進シタル後、左方ニ旋回シ、「ツエザレウ非チ」ヲ一週シテ針路ヲ旅順口ノ方ニ取り、三番艦「ボベトダ」亦之ニ倣ヒ、四番艦「ペレ

スウエート」以下ノ三戰艦ハ右方ニ旋回シタル後、暗ニ乗シ旅順口ヲ望ミテ各遁走シ、「ツエザレウ非チ」ノミハ單獨戰場ニ残留セリ、而テ此ノ際「アスコリド」ニアル司令官「レイツエンシテイ」少將ハ、其ノ指揮ノ下ニアル、巡洋艦隊ノ包圍セラレントシテ、位地頗ル危急ナルヲ察シ、速ニ抵抗最輕易ナル方面ニ突出セント決心シ、我ニ追隨セヨトノ信號ヲ掲ケ、「アスコリド」ヲ先頭トシテ、「ノーウ非ク」之ニ續キ、「バルラーダ」「ヂイヤーナ」ハ較ヤ離レテ隨航セリ、是ニ於テ「アスコリド」ハ先ツ約南東方ニ向ヒ、若干ノ巡洋艦及ヒ水雷艇ヲ望ンテ突進セシカ、尙左方ニモ他ノ巡洋艦アリテ、一齊ニ砲火ヲ開キ、露艦之ニ應戦シ、「レイツエンシテイ」少將ハ三隻ノ我カ巡洋艦ニ損傷ヲ與ヘタルヲ認メ、血路ヲ開キ逸走セシニ、四隻ノ我カ水雷艇漸ク接近シ來リ、「アスコリド」ニ四個ノ水雷ヲ發射シタルヲ以テ、同艦ハ砲撃ヲ之ニ加ヘ、一彈ハ一水雷艇ニ命中シ、其ノ他ノ水雷艇ノ退却スルヲ認メタリト云フ、而テ「アスコリド」モ多大ノ損傷ヲ蒙リタレトモ、遂ニ包圍ヲ脱シ、尙我カ巡洋艦ノ追躡シ來ルヲ見、二十海里ノ速力ヲ以テ急航セシカ、日没後僚艦互ニ相失シ、各艦個々ニ遁走シ、

其ノ他若干ノ驅逐艦モ亦南方ニ逸走セリ、而テ其ノ中ノ一隻タル「ブールヌイ」ハ同夜山東高角附近ニ擱岸破壊シ、其ノ乗員ハ威海衛ニ於テ、英國政府ノ手ニ收容セラレタリ、

第二節 戰鬪後ノ索敵行動

第一目 第一戰隊

八月十日日沒頃砲戰ヲ止メタル第一戰隊ハ、更ニ明朝ヲ待チテ、敵ノ南下ヲ防遏センカ爲メ、十四海里ノ速力ニテ東經百二十四度十一分、北緯三十五度三十分ノ地點ニ向ヒシカ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、朝鮮海峽ヲ扼守セル第二艦隊ヲシテ、黑山島附近ニ至ラシムル必要ヲ認メ、偶午後十時三十分頃來會セル八重山ヲ直ニ白翎島方面ニ派シ、同望樓ニ左ノ電報ヲ傳達セシム、艦隊ハ激戰九一〇地點(編者曰ク北緯三十八度東經百二十二度四十分ニ當ル)ニテ日暮レタリ、敵ハ尙其ノ附近ニ留マリ、我カ驅逐艦ハ襲撃セリ、艦隊ハ四七五地點(編者曰ク北緯三十五度三十分東經百二十四度)ニ向ヒ明日引返ス、竹敷ニアル第二艦隊ニ黑山附近ニ來レト

電報セヨ、

既ニシテ翌十一日午前二時第六戰隊ヨリ「アスコリド」ノ「ウヰク」ハ已ニ南下シ、須磨之ヲ追尾セシモ、速力足ラスシテ引返セル旨ノ報告ニ接セリ、次テ五時ニ至リ第一戰隊ハ針路ヲ反轉シ、速力ヲ十二海里トナシテ北上シ、而テ東郷聯合艦隊司令長官ハ第三、第六戰隊ニ左ノ電報ヲ發セリ、
第一戰隊ハ午前五時六六八地點(編者曰ク北緯三十六度二十分東經百二十三度三十分ニ當ル)ヨリ七二〇地點(編者曰ク北緯三十七度十分東經百二十三度二十分ニ當ル)ノ方ニ向ヒ引返ス、第三戰隊ハ同時ヨリ第一戰隊ノ東第六戰隊ハ西ヲ搜シテ同シ方向ニ進メ、第三戰隊ハ白翎島ニ尙一艦ヲ出シテ見張ラシメヨ、速力十二海里、

次テ同五十分第六戰隊ヨリ六一九地點(編者曰ク北緯三十六度東經百二十三度四十分ニ當ル)ニ於テ「アスコリド」ノ南々東ニ進ムヲ認メ、我追擊中トノ報アリシヲ以テ、同戰隊ニハ尙之ヲ追撃セシメ、且爲シ得レハ第二艦隊ニモ通知スヘキヲ命セリ、而テ第一戰隊ハ六時三十分其ノ前方ニ當リ、敵ノ驅逐艦一隻ヲ發見シタルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ春日ヲシテ之ヲ追撃シ、兼テ山東角方面ヲモ偵察セ

シメ、尙出羽司令官ニ向ヒ、第三戰隊中ノ高砂、千歳ヲ第一戰隊ニ送ルヘキヲ命セシニ、第三戰隊モ亦敵ノ驅逐艦二隻ヲ追撃スルノ際ナリシヲ以テ、高砂ノミ派遣スヘシトノ返電アリシカ、其ノ到達スルニ先立テ、八時淺間來會セリ、蓋同艦ハ合戦ヲ止メタル後、敵艦隊ニ先ンシ、山東高角以南ニ出ント欲シテ南東ニ進ミ、午前零時三十二分ヨリ南微東ニ定針航行シ、黎明ニ至リ第一戰隊ヲ認メテ之ニ接近シ來レルナリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ之ニ向ヒ、敵ノ主力何處ニアリト思考スルヤヲ質セシニ、山東高角ノ北ニ在ル見込ナリトノ答アリ、乃チ同司令長官ハ八時三十分淺間ヲシテ、第一戰隊ノ右舷前方十海里ニアリテ、警戒航行セシメ、十時ヨリ尙十海里東方ニ出テ、白翎島ノ望樓ニ第一戰隊ノ行動ヲ電報スヘキヲ命シ、同時高砂モ來會シタルヲ以テ、更ニ之ヲ淺間ノ東方ニ出シテ白翎島方面ヲ監視セシム、然ルニ午後ニ至リ東郷聯合艦隊司令長官ハ漸次諸方面ノ報告ニ依リ、敵主力ノ大部旅順口ニ引返セルヲ確知シタルヲ以テ、高砂ヲ招還シ、午後二時同艦ニ左ノ命令ヲ與ヘ、圓島ニ急航セシム、

其ノ艦ハ全速圓島ニ進ミ、扶桑ニ左ノ通り電信セヨ、今夜驅逐隊艇隊ヲシテ嚴重ニ旅順ヲ監視セシメヨ、本隊ハ圓島ニ到ル、アスコリド「ノーツ非ク」南下シタルモノ、如シ、敵情分ヲハ直ニ知ラセヨ、而テ第一戰隊モ亦圓島附近ニ向ヒツ、六時竹敷及ヒ八口浦ニ左ノ如ク打電スヘキ旨、高砂ヲ經テ扶桑ニ命令セリ、

第二艦隊ハ海峽ニ歸リ監視ヲ嚴ニセヨ、アスコリド「ノーツ非ク」バルラーダ驅逐艦數隻南下シタルカ如シ

同五十一分第一戰隊ハ圓島ノ南々東約十二海里ノ地點ニ達シ、更ニ針路ヲ變シテ光祿島ノ南方ニ向ヒ、十一時到達假泊ス、尋テ春日及ヒ高砂モ亦來會セリ、是ヨリ先キ春日ハ敵ノ驅逐艦ヲ追ヒシモ、速力彼エ及ハサルカ爲メ、遂ニ之ヲ逸シ、轉シテ山東高角附近ヲ偵察シタル後歸著シ、又高砂ハ命令ヲ扶桑ニ傳ヘテ來會セルモノナリ、

第二目 第三戰隊

八月十日午後八時三十二分砲撃ヲ止メ、東方ニ向ヒテ航進セル第三戰隊ハ、

十時南東ニ變針シ、十一時南々東ニ變針シ、十二海里ノ速力ヲ以テ翌十一日午前六時二十五分迄進航シ、夫ヨリ北方ニ引返セシカ、同三十五分第六戰隊ヨリ六一九地點（編者曰ク北緯三十六度東經百二十三度四十分）ニ於テ「アスコリド」ノ南々東ニ進ムヲ認メ、我追撃ストノ報ニ接シタルヲ以テ、出羽司令官ハ同時ニ再南方ニ反轉シテ、速力ヲ十四海里ニ増加シ、以テ「アスコリド」ヲ追尾セント企テシモ、到底追及スル能ハサルヲ察シ、暫クニシテ更ニ北方ニ向ヒ、速力ヲ十二海里ニ減シ、七時四十分ヨリ各艦五海里宛ヲ距テ、東西ニ搜索列ヲ張りテ進航セシニ、八時列ノ中央ニアリシ八雲ハ、北東ニ當リ敵驅逐艦二隻ノ約南東方ニ逸走シツ、アルヲ發見シタルヲ以テ、東北東ニ變針シテ、之ヲ追尾セシカ、之ヲ殆ト同時ニ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ高砂、千歳ヲ送ルヘキノ命アリタルヲ以テ、出羽司令官ハ直ニ高砂ヲ派シ、八雲ハ十八海里ノ速力トナシテ、敵驅逐艦ヲ追ヒツ、東方ニ變針シ、千歳、笠置ニモ之ヲ包圍攻撃スヘキヲ命セシモ、遂ニ彼ニ追及スル能ハサルヲ認メタルヲ以テ、九時五十分八雲、笠置ニハ北方ニ復針シテ、速力ヲ十二海里ニ減シ、北々西ニ進マシメ、又千歳ニハ全力敵

ヲ追撃スヘキヲ命セリ、此ノ前後ニ於テ我カ陸軍運送船等數隻、其ノ附近ヲ航行スルモノアリタルヲ以テ、出羽司令官ハ白翎島望樓ニ向ヒ、運送船ノ航海危険ナル旨ヲ注意シ、午後零時四十分ヨリ笠置ヲ八雲ノ左方十海里ニ位置セシメ、北西ニ進ミ、次テ淺間ヲ艦首右方ニ認メタリ、蓋同艦ハ朝來第一戰隊ニ合シ、次テ東郷聯合艦隊司令長官ノ命ヲ受ケテ搜索ニ從事シ、且白翎島ニ向ヒ、第一戰隊ノ行動ヲ電報シテ歸途ニ就キツ、アリシナリ、是ニ於テ出羽司令官ハ午後六時二十二分速力ヲ減シ、淺間、笠置ニ復歸ヲ命シ、兩艦ハ相前後シテ列ニ入りタルヲ以テ、同司令官ハ更ニ遇岩ノ南方ニ向ヒテ航行シ、十二日午前零時七分淺間、笠置ニ命スルニ、封鎖配備ニ就クヘキヲ以テシ、八雲ハ負傷者ヲ病院船ニ送ルカ爲メ、單獨第三地點ニ歸レリ、是ヨリ先キ敵ノ驅逐艦ヲ追躡スヘキ命ヲ受ケタル千歳ハ、僚艦ト離レテ出來得ル限りノ速力ヲ出シ、專ラ敵ニ向ヒテ航セシモ、速力彼ニ及ハスシテ、十一日午前十一時十四分遂ニ其ノ艦體ヲ認ムル能ハサルニ至リタルヲ以テ、僅ニ其ノ煤煙ヲ目的トシテ進航シ、同三十分延平列島ヲ約北東ニ認ムルノ

位置ニ達シ、午後零時十分更ニ北方ナル煤煙ノ方ニ向ヒ、淺瀬ニ近ツキシヲ以テ、速力ヲ十四海里ニ減セリ、尋テ、同四十五分北緯三十七度五分十五秒、東經百二十五度三十二分十五秒ノ位置ニ達セシニ、其ノ前面ニハ淺堆アリ、且干潮時ナリシヲ以テ直進スル能ハス、止ムヲ得ス針路ヲ西ニ變シ、以テ敵ヲ逸セサラシメントセシカ、偶復水器ニ漏洩ヲ生シテ、速力十二海里以上ヲ出ス能ハサルノミナラス、水路モ亦不利ナルヲ以テ、敵ヲ追窮スルヲ斷念シ、運送船航路ノ安全ヲ保タンカ爲メ、小青島ノ南十海里ニ向ヒ、夜ニ入りテヨリ歸隊スルノ目的ヲ以テ、圓島方面ニ航セシニ、十二日ノ黎明、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、白翎島ニ引返シ、出來得ル限り敵ノ驅逐艦ヲ搜索スヘキノ電命アリタルヲ以テ、午前八時更ニ十四海里ノ速力ヲ以テ白翎島ニ向ヒ、午後一時同島望樓ト通信ノ結果、海州邑錨地ニ敵ナキヲ知り、轉シテ巡威島ニ向フノ途中、敵アラスンハ裏長山列島ニ歸ルヘキノ命ニ接シタルヲ以テ、巡威島ヲ視察セル後、裏長山列島ニ歸港セリ。

第三目 第六戰隊

第六戰隊ハ八月十日日没頃ヨリ針路ヲ南々東ニ定メ、十四海里ノ速力ヲ以テ、南下セル敵艦「アスコリド」ノ「ウヰク」ヲ追ヒ、午後十一時山東高角燈臺ヲ西南西約二十海里ニ見ルニ及ヒ、南微東ニ變針セシカ、十一日午前五時四十分北緯三十六度十分、東經百二十三度四十分（六二〇地點）ノ所ニテ、天明ト共ニ左舷艦首約九千米突ニ「アスコリド」ヲ認メタルヲ以テ、機關ニ故障アル秋津洲ヲ列外ニ殘シ、他艦ハ直ニ速力ヲ十五海里ニ増加シテ之ニ向ヒシニ、敵ハ約南微東ノ針路ニテ、十七八海里ノ速力ヲ出シツ、アルヲ以テ、彼我ノ距離漸次相遠サカルニ至レリ、然ルニ之ト殆ト同時ニ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ第一戰隊ノ西ヲ搜索スヘキノ命アリシモ、幾モナク再同司令長官ヨリ「アスコリド」ヲ追撃シ、爲シ得レハ第二艦隊ニ知ラセヨ、敵ノ主力今東微南二十六海里ニアルカ如シトノ命ニ接シタルヲ以テ、第六戰隊ハ引續キ敵ヲ追躡セシニ、十時二十五分ニ至リ、全ク其ノ形影ヲ失シタリ、是ニ於テ第二艦隊ニ通信スルノ目的ヲ以テ、針路ヲ南東二分ノ一南ニ轉シ、黑山島ノ北方ニ向ヒ、午後七時同島ノ東方約三十海里ノ邊ニテ速力ヲ緩メ、機關ノ修理ヲ了リ

テ到着セル秋津洲ヲ合シ同時八口浦ヲ經テ大本營及ヒ竹敷要港部ニ向ヒ、
「アスコリド」ノ「ウヰク」南下ノ事ヲ打電シ、八時濟州島ノ北西約四十海里ノ
所ヨリ、七海里ノ速力トナシ南ニ進航中、十時五分ニ至リ、第二艦隊ト無線電
信ノ連絡ヲ得タルヲ以テ、先ツ之ニ敵情ノ概略ヲ報シ、更ニ之ニ會センカ爲
メ、正午ヨリ西方ニ航シ、十一日午前二時ヨリ北西ニ變針シテ黒山島ノ西ニ
向ヒ、九時三十分黒山島ノ西方約二十海里ニ於テ、遂ニ第二艦隊ニ會スルヲ
得タリ、是ニ於テ東郷司令官ハ戰況及ヒ敵情ヲ精シク第二艦隊司令長官海
軍中將上村彦之丞ニ報シタル後、之ト別レテ北微西ニ向ヒ、午後七時三十分
迄搜索列ヲ張り、十三日午後四時裏長山列島ニ歸著セリ、

第四目 第五戰隊

八月十日日没頃砲撃ヲ止メ、先ニ北航シタル第五戰隊ハ、幾モナクシテ光祿
島ノ西南方ニ變針シ、十一日黎明更ニ圓島附近ニ到リシニ、其ノ南東方ニ於
テ霞及ヒ第三十七號艇ノ破損セル第三十八號艇ヲ曳キツ、漂泊スルヲ認
メ、午前六時十分將ニ之ヲ救助セントスル際、遇岩ノ南方ニ當リ、敵艦「ベレス

ウエー」ト「ポペーダ」ポルター」ノ單縱陣ヲ制リ、旅順口ニ遁走スルヲ發見シ
タルヲ以テ、直ニ西南西ニ進航シテ之ヲ追躡シツ、屢他戰隊ニ電報セシモ、
扶桑ノ外更ニ應答ヲ得ス、山田司令官ハ是ヲ以テ他隊ハ敵ノ南下ヲ防遏セ
ンカ爲メ、山東高角附近ニアリテ距離遠キ爲メ、通信シ得サルモノナルコト
ヲ察シ、七時五十分松島ニ向ヒ、列ヲ離レテ三笠ノ應信ヲ得ルマテ南下シ、敵
情ヲ報告スベキヲ命シ、橋立、鎮遠ノ二隻ヲシテ遇岩ト小平島トノ中間ニ至
リ、敵ノ動靜ヲ監視セシメ、第二驅逐隊ニ命スルニ、旅順口ニ歸著スル各敵艦
ノ艦名ヲ報告スベキヲ以テシ、午後三至リ、同司令官ハ其ノ目撃セル所及ヒ
驅逐隊、砲艦隊等ノ情報ヲ綜合シテ、ツエザレウヰクヲ除キ、他ノ戰艦五隻、巡
洋艦「バルラーダ」驅逐艦一隻及ヒ病院船ノ歸港シタルヲ知レリ、既ニシテ午
後三時十分ニ至リ、機關ノ修理ヲ了リタル嚴島ハ、裏長山列島ヨリ來會セリ、
而テ之ト相前後シテ第十艇隊ヨリ昨夜遇岩ノ南東約三海里ニ於テ、ツエザ
レウヰクヲ「レトウヰク」ヲ襲撃シタルノ報アリ、且ツツエザレウヰク「レトウヰク」ノ行衛不
明ナルヲ以テ、山田司令官ハ其ノ襲撃地點ニ至リテ狀況ヲ探ラント欲シ、遇

岩ノ西方ヲ南下セルニ、船體木片ノ浮流スルモノアルヲ見、又五時五十分遇
岩ノ南東三海里半ノ所ニテ、ツエザレウ非チノ救難浮標等ヲ拾收シ、引續キ
哨戒勤務ニ従事セリ、

第五目 砲艦隊

八月十日薄暮鳥海、摩耶、赤城及ヒ假裝砲艦九號ヲ率非テ、龍王塘方面ヨリ小
平島ニ歸著セル鳥海艦長海軍中佐廣瀬勝比古ハ、翌十一日早朝西航スル敵
艦二隻及ヒ病院船一隻ヲ發見シタルヲ以テ、鳥海以下ノ三隻及ヒ假裝砲艦
三隻ヲ率非テ之ヲ追躡セシカ、敵ハ漸次老鐵山下ニ至リシヲ以テ、乃チ之ヲ
止メ、更ニ南方ニ敵艦三隻ヲ認メ、南進シテ午前八時老鐵山ノ東微南二分ノ
一南約十五海里ノ處ニ至リシニ、レトウ非ザン「ペレスウエート」ボベ「ダ」ノ
三隻ヲ其ノ西南約七海里ニ認メタリ、是ニ於テ南東ニ變針徐航シテ、敵ヲ監
視シツ、之ヲ第五戰隊ニ報シ、同四十四分ニ至リ、敵影ヲ濛氣ノ裡ニ失ヒタ
ルヲ以テ、遂ニ小平島ニ引返シ、更ニ敵砲艦ヲ攻撃センカ爲メ、摩耶、赤城及ヒ
假裝砲艦ヲシテ、十時九分ヨリ龍王塘附近ニ向ハシム、而テ摩耶ハ鮮生角ノ

彈著距離内ニテ、約十六分間敵ノ砲艦ヲ砲撃セシモ、彈丸達セス、赤城ハ龍王
塘河口ニ接近シテ發砲九發ニ及ヒ、内一發ハ「ギリヤード」型ニ命中セルヲ認
メタリト云フ、既ニシテ十一時四十分頃ニ至リ、敵ハ漸次港口ニ退却シタル
ヲ以テ、二艦モ亦砲撃ヲ止メ、龍王塘沖ニテ鳥海ニ會シ、午後一時十五分マテ
漂泊シテ敵ヲ監視シタル後、小平島ニ歸リシニ、六時五十分東郷聯合艦隊司
令長官ヨリ今夜嚴重ニ監視セヨトノ命アリタルヲ以テ、廣瀬鳥海艦長ハ乃
チ之ヲ驅逐隊艇隊ニ傳へ、又哨艦トシテ假裝砲艦一隻及ヒ哨艇二隻ヲ出シ、
別ニ水雷艇ヲモ哨戒ノ任務ニ服セシム、

第六目 第二艦隊

浦鹽斯德ノ敵艦隊ニ對シ、朝鮮海峽警備ノ任ニ當レル第二戰隊ハ、竹邊灣及
ヒ松島望樓建設ノ爲メ、其ノ材料及ヒ人夫等ヲ積載セル佐渡國丸ノ掩護ト
シテ、上村第二艦隊司令長官ノ指揮ノ下ニ、八月七日以來對馬ノ北方ヲ游弋
シ、同十日午後三時三十分尾崎ニ歸港シ、同司令長官ハ直ニ其ノ戰隊ノ各艦
ニ石炭滿載ヲ命シ、且何時ニテモ出港シ得ルノ準備ヲ爲サシメタリシカ、五

時ニ至リ軍令部長ヨリ電報到達シ、旅順口ノ敵艦隊ハ今朝十時半頃老鐵山以南ニ航シツ、アルコトヲ知リ得タルヲ以テ、更ニ第二艦隊ノ總艦ニ石炭ヲ満載シテ航海準備ヲ整へ、哨艦ニハ殊ニ監視ヲ嚴ニスヘキコトヲ命シ、以テ後報ヲ待チシニ、引續キ軍令部次長、細谷第三艦隊司令官、佐世保鎮守府司令長官等ヨリ之ニ關スル情報到リ、十一日午前八時十五分ニハ、昨十日旅順口ヲ出テタル敵ノ巡洋艦中我カ砲撃ヲ脱シ、浦鹽斯德ニ逃走スルモノアルヤモ計ラレサル旨、軍令部長ノ電報アリシカ、同四十五分ニ至リ、遂ニ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、十日ノ戰況竝ニ第一艦隊ハ今朝北緯三十七度十分、東經百二十三度二十分ニ向ヒ引返ストノ通報及ヒ第二艦隊ハ黑山島附近ニ到ルヘキノ命令アリ、是ニ於テ上村第二艦隊司令長官ハ第二艦隊ニ直ニ出港準備ヲ命シ、又同艦隊司令官海軍少將瓜生外吉ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、旅順ノ敵艦隊ハ昨日脱出ヲ企テ我カ聯合艦隊ハ之ト觸接ヲカメツ、アリ、

二、第二艦隊(千早ヲ加フ)本日左ノ電報命令ヲ受ケ急速出港ス、

本隊ハ激戰東經百二十二度四十分北緯三十八度ニテ日暮レタリ、敵ハ山東高角ノ北附近ニ止マリ我カ驅逐隊襲撃セリ艦隊ハ東經百二十四度十分北緯三十五度三十分ニ向ケ明日引返ス

第二艦隊直ク來レ

三、貴官ハ第四艦隊及ヒ水雷艇隊ヲ以テ海峡警戒ノ任務ニ服スヘシ但旅順艦隊中ノ巡洋艦ノ一部ハ我カ砲火ヲ脱シ海峡ヲ通過シ浦鹽艦隊ニ合セントスルヤモ計ラレス注意ヲ要ス

又東郷聯合艦隊司令長官ニ向ヒ、白島及ヒ八口浦ノ兩望樓ヨリ、第二艦隊ハ十二日午前十時頃四七五地點(編者曰ク北緯三十五度三十分、東經百二十四度十分ニ當ル)著トノ電報ヲ發シ、細谷司令官ニモ亦之ヲ通知シ、十一日午前十時四十分第二艦隊出雲(同司令官旗艦)吾妻(三須第二艦隊司令官旗艦)磐手(常磐ヲ率非テ尾崎ヲ發シ、港外ニテ千早ヲ合セ、同哨艦ノ任務ニアリ)十三海里ノ速力ニテ航行セシカ、途中豆酸無線電信所ト通信ノ結果、敵艦隊主力ノ大部ハ旅順口ニ向ヒツ、アルコト、及ヒ巡洋艦アスコリド「ノ」ウ非ク「ノ」南下セルモノ、如キコト等ヲ知リタルヲ以テ、午後七時

三十分同隊司令官海軍少將三須宗太郎ニ命スルニ、索敵ノ爲メ、警手、常磐ヲ率非、速力ヲ増加シテ濟州島ノ南方ヲ通過シ、翌朝黑山島ノ西方ニ於テ來會スヘキヲ以テシ、自ラ他ノ三艦ヲ率非、十三海里ノ速力ニテ濟州島ノ北方ヲ航セシカ、偶第六戰隊ノ八口浦ト通信スルカ如キ電信ヲ感知シタルヲ以テ、十時五分上村司令長官ハ、第六戰隊ノ旗艦明石ニアル東郷第三艦隊司令官ニ向ヒ、第二戰隊ハ命ニヨリ黃海ニ向ヒツ、アリ、午後九時太郎島ノ南側ニアリ、針路ハ西、速力ハ十三海里、貴官ハ敵ヲ追躡シツ、アリヤ、又貴艦ノ位置如何トノ送信ヲ試ミシニ、正子ニ至リ果シテ東郷第三艦隊司令官ヨリ、昨朝敵ノ主力艦隊「バヤーン」ヲ除クノ外皆脱出シ、我カ艦隊追撃シ、激戦ノ後日没ニ至ル、今朝八時敵ノ主力五三〇地點（編者曰ク北緯三十六度五分、分東經百二十四度ニ當ル）附近ニアルモノノ如シ、我カ艦隊之ヲ追撃中、アスコリド（編者曰ク北緯三十四度四十分、分東經百二十四度ニ當ル）ヲ南下シ浦鹽ニ向フ、速力約十八海里、第六戰隊ハ之ヲ追躡セシモ遂ニ及ハス、見失ヒシハ遺憾ナリシ、ノーウ非クハ之ヨリモ遙ニ前進セリ、我正子東經百二十五度五十分、北緯三十三度三十分ニ在リ、針路ハ南、速力

ハ七海里、午前二時北西ニ變針ス、敵ハ驅逐艦七隻ヲ伴フトノ返信ヲ得タリ、既ニシテ十二日午前零時五十八分頃ヨリ八口浦望樓トモ通信スルコトヲ得、四時三十分ニ至リ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ「アスコリド」ノーウ非ク「バルラーダ」及ヒ驅逐艦數隻南下シタルカ如シトノ通信アリ、次テ同五時過キヨリ警手、常磐ノ來會ヲ待タンカ爲メ漂泊中、七時五十分同望樓ヲ經テ軍令部次長ヨリ、敵ノ戰鬪艦五隻、巡洋艦一隻ハ十一日未明旅順口ニ遁竄シツ、アルコト「アスコリド」ノーウ非クハ所在不明ナルコトノ電報ニ接シ、尋テ九時三十分ニハ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、第二艦隊ハ朝鮮海峡ニ歸リ、監視ヲ嚴ニセヨ、アスコリド「ノーウ非ク」バルラーダ及ヒ驅逐艦數隻南下シタルモノ、如シトノ命令アリ、而テ同四十分第六戰隊ニ會シ、十日以來ノ戦況ヲ聞キ、又警手、常磐モ來リ合シタルヲ以テ、上村第二艦隊司令長官ハ第六戰隊ト分レ、十五海里ノ速力ヲ以テ歸航ノ途中、更ニ東郷聯合艦隊司令長官ノ命令ヲ受ク、曰ク「アスコリド」ノーウ非ク外巡洋艦一隻、膠州灣ヨリ出テ南下セントス、至急海峡ニ歸リ之ヲ扼セヨト、依テ先ツ瓜生司令官ヲシテ同夜極力

海峽ヲ警戒セシメ、第二戰隊ハ十三日朝對州附近ニ達シ、其ノ東海面ヲ遊弋ス、

第三節 遁竄露艦ノ顛末

第一目 芝罘ニ於ル驅逐艦「レシーテリヌイ」ノ捕獲

露國驅逐艦「レシーテリヌイ」ハ、艦隊脫出ニ關スル重要ナルウヰトグフト司令長官ノ通信ヲ齎シ、艦隊ト共ニ八月十日午前出港シテ港口ニ留マリ、機ヲ見テ芝罘ニ逸走シ、夜半無事入港シ、直ニ其ノ任務ヲ果シタルモノ、如シ、翌十一日朝ニ至リ之ヲ發見シタル、我カ出張員海軍中佐森義太郎ハ、直ニ之ヲ大本營ニ急報シ、且青泥窪ニアル細谷第三艦隊司令官ヲ經テ、東郷聯合艦隊司令長官ニ急報セリ、其ノ報同日午後一時青泥窪ニ達セシカ、當時東郷聯合艦隊司令長官ハ尙艦隊ヲ率非テ出動中ナリシヲ以テ、細谷司令官ハ機ヲ逸センコトヲ慮リ、偶炭水補給ノ爲メ戰場ヨリ歸著セル藤本第一驅逐隊司令官ニ、三時左ノ口達訓令ヲ與フ、

一、貴官ハ朝潮、霞ノ二艦ヲ率非、直ニ出港芝罘ニ急航シ、同地ニ逃入シアル敵驅逐艦「レシーテリヌイ」ヲ適宜速ニ處分スヘシ、

二、昨日來ノ交戦今尙繼續中ナルヲ以テ、該敵艦ノ處分ニ就テハ苟モ假借スルコトナク、豫テ長官訓令ノ要旨ニ基キ斷乎タル措置ニ出ツルヲ要ス、

是ニ於テ藤本第一驅逐隊司令ハ朝潮、霞ヲ率非、同四十分青泥窪ヲ出港シ、二十海里ノ速力ヲ以テ芝罘ニ急航セリ、

是ヨリ先キ芝罘ニテハ、同所駐在帝國領事水野幸吉「レシーテリヌイ」ノ遁入ヲ知ルト同時ニ、其ノ措置ニ關シ警告ヲ清國道臺ニ與ヘタルニ、恰モ當時在泊セル同國北洋海軍統領副提督薩鎮冰ハ、同領事ニ向ヒ「レシーテリヌイ」艦長ミハイルセルゲーウヰツチ、ロシチヤコウスキーハ戰爭終局迄同地ニ駐マルコトヲ希望スルカ故ニ、武装ヲ解除スヘキ談判ヲ開始スルヲ告ケ、且其ノ意見ヲ問合セ來リシヲ以テ、森中佐ハ午前十一時其ノ顛末ヲ大本營ニ打電セリ、然ルニ大本營ニテハ飽クマテ強硬ナル手段ヲ取り、以テ後來他ノ露

艦ノ遁入ヲ斷念セシメント欲シ、海軍軍令部次長海軍中將伊集院五郎ハ、午後五時先ツ左ノ電報ヲ森中佐ニ發セリ、

芝罘ニ逃ケ込ミタル敵驅逐艦ニ關シテハ、元來芝罘ハ上海ナト、ハ大ニ其ノ事情ヲ異ニスルモノナルヲ以テ、我ハ之ヲ寛容セサル方針ナリ、故ニ貴官等ハ餘リ此ノ事ニ付清國官憲等トノ交渉ニ深入シ、引掛リヲ生スル等ノコト無カラシコトヲ切望ス、

而テ「レシーテリヌイ」ハ午後三時ヲ期シ、清國軍艦海容艦長立會ノ上武装ヲ解キ、乗組員一同ハ當戰役中再職ニ服セサル宣誓ヲナスヘキコト、ナリタル旨、午後六時四十分發ニテ森中佐ヨリ再報アリ、一面ニハ細谷司令官ヨリ第一驅逐隊ヲ芝罘ニ派遣セル報告アリタルヲ以テ、伊東軍令部長ハ十二日午前零時五分細谷司令官ニ左ノ命令ヲ發シ、尙之ヲ森中佐ニ通知セリ

在芝罘森中佐ヨリノ電報ニ依レハ、芝罘ニ在ル敵驅逐艦「レシーテリヌイ」ハ、十日午後三時ヲ期シ、清國軍艦海容艦長立會ノ上武装ヲ解キ、乗組員一同ハ當戰役中再職ニ服セサル宣誓ヲ爲スコトニ決定セル旨薩提督ヨリ

通報アリタリト云フ、然レトモ芝罘ヲシテ敵艦隊ノ避難所タラシメ、他日我ニ對スル危害ノ根源タラシムル如キハ斷シテ之ヲ認容スルコト能ハサルトコロナルヲ以テ「レシーテリヌイ」處分ノ任務ヲ以テ芝罘ニ向ヘル藤本中佐ハ、敵驅逐艦ノ武装ヲ解キタルト否トニ關セス、飽ク迄モ豫テ訓示セラレタル主旨ニ基キ處斷シ、敵艦ヲ捕獲スルカ、若クハ之ヲ擊沈スヘシト至急同官ニ傳達スヘシ、

尋テ伊集院次長モ、同五十分細谷司令官ニ、一時二十分森中佐ニ各左ノ電報ヲ發セリ、

左ノ通り藤本司令ニ傳ヘラレタシ
敵艦「レシーテリヌイ」ヲ處分スルニ當リ、露國、獨國若クハ清國官憲ハ「レシーテリヌイ」カ已ニ武装ヲ解キタルヲ口實トシ、我カ處分ニ抗議ヲ申込ムコトアルベシ、此ノ時藤本司令ハ強テ答辯ヲ要セス、然レトモ要スレハ左ニ記スル如キ主意ノコトヲ簡短ニ答辯シ置キ、多言ヲ須ヒズ斷然敵艦ノ處分ニ掛ラル、ヲ得策ト認ム、

予ハ日本海軍將校トシテ上官ヨリ與ヘラレタル軍令ヲ承行スルノミ、然ルニ此ノ發電ニ先タチ藤本司令ハ十一日午後八時二十五分既ニ芝罘ニ著シタリシカ、商船支那形船等混合碇泊シテ、敵驅逐艦ヲ認識スル能ハサルヲ以テ、先ツ朝潮、霞ヲ漂泊セシメ、將校一名ヲ領事館ニ派遣シテ、敵驅逐艦ノ所在及ヒ情報ヲ問ハシム、尋テ九時ニ至リ清國軍艦海圻乗組ノ將校一名、薩提督ノ使トシテ藤本司令ヲ訪ヒ、露國驅逐艦ノ武装解除ニ著手シタルヲ告ケ、又同海容ノ將校來訪シタルモ、藤本司令ハ之ニ對シテ何等ノ意見ヲ陳述セス、只管領事館ヨリノ音信ヲ待チシニ、十時二十分派遣將校ト共ニ森中佐、水野領事來訪シテ、藤本司令ニ會シ、レシーテリヌイハ武装ヲ解除セリト稱スルモ、大砲ハ尾栓ヲ脱シ、水雷發射管ハ後扉ヲ除キタルニ過キス、殊ニ機關ニ至リテハ漠然主要部ヲ解ケリト云フノミニテ、其ノ名稱ヲ擧ケサルコト、乗組員ハ其ノ儘乗組ミ居レルカ如キコト、入港後英炭六十噸ヲ搭載シタルコト等ヲ告ク、是ニ於テ藤本司令ハ協議ノ結果愈之ヲ捕獲若クハ擊沈スルコトニ決シ、領事館ヨリ通譯生ヲ招キ、十二日午前三時五十分朝潮乗組海軍

中尉寺島宇瑛美ヲシテ、機關兵曹長坂本常次及ヒ下士卒十名ヲ率非通譯生ヲ伴ヒ、端艇ニテ露國驅逐艦ニ往キ、左ノ通告ヲ同艦長ニ手交セシメタリ、予ハ帝國日本海軍第一驅逐隊司令ノ命ヲ受ケ、貴露國艦長ヘ左ノ件ヲ通告ス、

貴艦ハ今ヨリ二時間以内ニ當港ヲ出ツルカ、又ハ降伏スルカ、其ノ一ヲ擇フヘシ、然ラサレハ直ニ擊沈スルカ、又ハ捕獲スヘシ、

一昨日戰鬥ニ引續キ我カ海軍ハ貴國軍艦ヲ追跡シタルニ、貴艦ハ昨日午前三時當港ニ入り、我カ海軍ハ港外ニ於テ之ヲ監視シタルモ未タ出港セス、故ニ右ノ通告ヲ爲スモノナリ、若シ降伏セハ生命ノ安全ハ之ヲ保證ス、二者其ノ一ヲ擇ヒ直ニ決答スヘシ、

然ルニ露國艦長ハ之ニ對シ、本艦入港以來未タ二十四時ヲ經ス、國際公法上何等ノ故障ヲ受クルノ事由ナク、又機關ニ故障アルヲ以テ、二十四時間以上當港ニ碇泊スル積リニテ、今ヤ武装ヲ解ケリ、出テ、戰ヲ交フル事能ハス、然ルニ武装シテ本艦ニ來ラレシハ其ノ意ヲ得ス、余ハ今ヤ國際公法上中立タ

ルニ、是ノ如キ事ヲ迫ラル、理由ナシト答フ、是ニ於テ寺島中尉ハ更ニ今ヤ
 戦闘繼續中ナレハ、是ノ如キ國際公法ヲ適用スル理ナシ、生命ハ充分保護ス
 ヘキヲ以テ降伏スル方得策ナルヘシト告ケ、速ニ決答セヨト迫レトモ、艦長
 ハ頑トシテ從ハス、更ニ朝潮ニ赴キ司令ニ面談スヘキゴトヲ勸ムレトモ、彼
 亦應セス、是ニ於テ中尉重ネテ彼ニ向ヒ、其ノ武装ヲ解ケルヲ確認セサルヲ
 以テ、我カ兵員ヲシテ調査セシムヘク、又決答セサレハ我カ受ケタル命ニヨ
 リ自由ノ行動ヲ爲スヘシト告ケ、四時二十分其ノ附近ニ來レル朝潮ニ向ヒ、
 捕獲ノ手續ヲ爲シテ宜シキヤヲ問ヒシニ、直ニ處分スヘシトフ返答アリタ
 ルヲ以テ、乃チ引率セル部下ヲシテ端艇ヨリ乘艦セシメ、先ツ艦長ニ對ヒ、乘
 員ヲ上甲板ニ整列セシムヘキヲ要求セリ、彼之ニ從ハスト雖モ、而モ大ニ狼
 狽ノ狀アリ、自ラ中尉ヲ導キテ尾栓ヲ脱セル備砲、後扉ヲ脱セル發射管等ヲ
 示シテ、既ニ武装ヲ解除セルヲ述ヘ、我カ行爲ノ不法ナルヲ論スレトモ、中尉
 顧ミスシテ著々捕獲ノ手續ヲ履行シ、遂ニ我カ軍艦旗ヲ樹ツ、艦長怒リテ中
 尉ニ抗シ、格闘ノ末相組テ水中ニ投ス、然ルニ中尉ノ足我カ端艇ニ掛リタル

ヲ以テ、其ノ儘舷側ヲ保持シタルニ、彼ハ其ノ指ヲ以テ中尉ノ口中ニ入レ、強
 テ海中ニ引込マントス、中尉其ノ指ヲ嚙ミ切り、直ニ再艦ニ乗シ、部下ニ捕獲
 ヲ命ス、艦長モ亦泳キテ艦尾ニ至リ、舷側ニ攀チ昇ラントシテ果サス、遂ニ再
 海中ニ投シ、陸岸ニ遁ル、他ノ敵兵モ亦坂本機關兵曹長以下數名ヲ海中ニ投
 シ、其ノ大半ハ次テ自ラ海中ニ入り泳キテ逃ル、中尉乃チ四時三十五分軍艦
 旗ヲ掲揚シ、又數發ノ小銃拳銃ヲ發セシメ、敵兵一名ヲ斃シ、兵員ヲ艦内各所
 ニ配置セリ、時ニ霞ノ兵員十名應援トシテ到着シタルヲ以テ、中尉之ヲ導キ、
 前煙突附近ニ至リシニ、殘留セル敵兵一名ヲ發見シタルヲ以テ、之ヲ捕虜ト
 爲シ、次テ信號書類等ノ押收ヲ命シ、艦橋ニ至ルヤ、同四十八分艦首彈藥庫俄
 然爆發シテ艦橋附近ヲ破壊シ、中尉以下負傷者十一名、戦死者一名ヲ生シ、捕
 虜行衛不明トナル、依テ中尉ハ負傷者ヲ端艇ニ移シテ本艦ニ送還シ、又溺レ
 ツ、アル敵兵一名ヲ救助シ、火災ヲ消滅シ、錨鎖ヲ切斷シ、遂ニ五時十五分朝
 潮ニ繋ギ得タルヲ以テ、藤本司令ハ直ニ之ヲ曳キテ將ニ出港セントス、此ノ
 際清國海軍將校汽艇ニテ其ノ附近ニ來リタルヲ認メシモ、司令之下面晤セ

ス、又清國軍艦ヨリ信號ヲ爲シタルモノ、如キモ、顧ミスシテ進航ス、是ヨリ先キ森中佐朝潮ニ來リテ捕獲ノ實況ヲ目撃シ居リシヲ以テ、霞ハ之ヲ陸岸ニ送りタル後、急航シテ朝潮ニ追及セントセシニ、清國旗艦海圻ヨリ之ニ向ヒ止マレトノ信號ヲ爲セリ、然レトモ霞艦長知ラサル態ヲ裝ヒ、進航ヲ續ケシカ、彼ハ砲臺ニ配兵シタルヲ以テ、同艦長其ノ體面ヲ保タシメンカ爲メ暫ク停止セシニ、清國海軍將校汽艇ニ乘シ來リ、露國驅逐艦ハ昨日武器ヲ解キ、本日ハ更ニ汽機ヲ解ク筈ニテ抑留シアルモノナレハ、朝潮ニ停止スヘキヲ傳ヘラレタシト請フ、霞艦長表面之ヲ諾シテ相分レ、特ニ半速力トナシテ徐々トシテ進航セシニ、幾モナク清國汽艇再其ノ附近ニ來リシモ、何ノ交渉スル所ナクシテ引返シ、霞ハ朝潮ニ追及シ、之ヲ護衛シテ相共ニ午後十時青泥窪ニ歸著ス、而テ軍令部長、同次長ノ命令及ヒ訓示ハ回航ノ途中ニテ受領セリ、又、レシーテリヌイハ我カ艦藉ニ入り、曉ト命名セラレタリ

第二目 膠州灣ニ於ルツエザレウ非チ及ヒ驅逐艦三隻ノ抑留
八月十日ノ黄海々戰ニ於テ、露國艦隊ノ旗艦トシテ最我カ照準ノ衝ニ當レ

ル、戦艦、ツエザレウ非チハ、日没後ニ至リ、僚艦ニ續航スル能ハスシテ之ト相失シ、戰場ニ残留スルノ窮境ニ陥リシヲ以テ、遂ニ單獨浦鹽斯德ニ赴カント決心シ、暗ニ乘シテ南東ノ針路ヲ取り、出來得ル限りノ速力ヲ以テ逸走セシカ、其ノ烟突破壊ノ爲メ石炭ヲ費スコト夥シク(同艦平素一日ノ費炭八十噸ナルニ此ノ際ハ四百七十噸ヲ費セリト云フ)且船内ノ羅針盤ハ彈丸爆裂ノ震動ニ由リ、悉ク損シテ一モ用フルニ足ルモノナク、海圖モ亦概ネ損失シタルヲ以テ、終ニ星位ヲ測リテ航行シ、翌朝黎明ノ比山東高角ヲ北東ニ望ムノ位地ニ達セシカ、艦ノ損傷大ニシテ到底浦港マテ航行スル能ハサルヲ認メ、副長海軍中佐ヅミトリ、ベトロウ非チ、シツモフハ參謀長海軍少將ニコライ、アレキサンドロウ非チ、マツセウ非チト協議ノ上、其ノ附近ノ中立港タル膠州灣ニ向フコトニ決シ、同日午後十一時同地ニ到着シ、巡洋艦ノ一ツ非ク驅逐艦、ベズシームヌイモ同日前後シテ同灣ニ遁入シ、翌十二日午前ニハ更ニ驅逐艦、ベズボシヤーツヌイ同、ベズストラーシヌイ入港セリ、千歳ニ追撃セラレテ一旦海州方面ニ逃レタルハ此ノ二隻ナルカ加シ、而テ其ノ情報十二日夜ヨリ逐次芝罘ニ達シ、森中佐ハ得ル

ニ隨ヒテ之ヲ大本營ニ電報セシカ、暫クニシテ遁竄艦等石炭ヲ搭載シツ、
アリトノ報アリ、是ニ於テ伊東軍令部長ハ十二日午前八時四十五分東郷聯
合艦隊司令長官ニ左ノ如ク電報セリ、

「アスコリド（編者曰ク「アスコリド」トアルハ膠州灣發電者ノ「ツエザレ」ノ一ウ非ク「外」

隻（編者曰ク「實際ハ二隻ナリシ」ノ敵巡洋艦ハ準備出來次第青島ヲ發シ出港ス

ルモノト認ム、貴官ハ努メテ速ニ出羽隊ニ驅逐隊ヲ附シ、膠州灣附近ヘ急

航セシメ、敵艦隊ヲ監視セシメラレシコトヲ望ム、

裏長山列島ニ在ル東郷聯合艦隊司令長官ハ、右電報ニ接スルヤ、直ニ同所ニ
在ル出羽第一艦隊司令官ニ向ヒ、第三戰隊八雲、淺間、高砂及ヒ假裝巡洋艦日
本丸ヲ率非急速出港シ、途中ニ於テ千歳ヲ合セ（千歳ハ當時白翎島方面ニアリ）入口浦
ト無線電信ノ連絡ヲ保持シ、膠州灣ノ敵艦ニ對シ嚴密ニ監視スヘキヲ命ス、
是ニ於テ同司令官ハ同日午後二時十分高砂及ヒ日本丸ニハ準備出來次第
出港シ、高砂ハ十五海里ノ速力ニテ白翎島ノ無線電信通信距離内ニ至リ、日
本丸ハ八口浦ノ無線電信距離内ニ至リ、各膠州灣ノ敵艦隊ニ關スル情報ヲ

間ヒ、之ヲ通信シツ、黒山島附近ナル、北緯三十四度十分、東經百二十四度五
十分ニ直進スル八雲以下ニ合スル如ク進航スヘキヲ命シテ出發セシメ、旅
順口沖ニ在リテ、敵ヲ監視中ナル淺間ヲ招還シ、同四十分其ノ旗艦八雲モ亦
出港シテ、淺間ト合シ、黒山島ニ向ヘリ、然ルニ五時二十分東郷聯合艦隊司令
長官ヨリ「ノ一ウ非ク」及ヒ驅逐艦ハ今曉膠州灣ヲ出港シテ行衛不明、アスコ
リド尙殘レリトノ大本營ノ通知ヲ轉電シ來リ、且山東高角方面ヲ注意セヨ
トノ命アリ、而テ出羽司令官意ヘラク「ノ一ウ非ク」今曉出港シ山東高角方面
ニ航シタリト推斷シ、我之ニ向ハントスルモ夜半ニアラサレハ同方面ニ達
シ得ヘカラス、且暗夜索敵スルハ容易ノ事ニアラサルノミナラス、既ニ其ノ
遭遇ノ機會ニモ後レタルヤノ感アルヲ以テ、若カス最初ノ豫定ニ從ヒ行動
センニハト、乃チ從來ノ行動ヲ續行シ、而テ尙膠州灣ニ殘留セリト傳ヘラル
ル「アスコリド」ニシテ本日夕刻脱出スレハ、明日午後黒山島ノ南方ヲ通過ス
ヘキヲ以テ、豫メ之ニ備ヘンカ爲メ、午後八時十分淺間ヲシテ先進シテ、明日
午後三時北緯三十三度四十分、東經百二十五度（二三九地點ニシテ黒山島ノ）地

點ニ達シテ敵ヲ監視シ、以テ八雲以下ノ來會ヲ待タシム、既ニシテ九時三十分第二驅逐隊東郷聯合艦隊司令長官ノ命ヲ受ケテ來會シ、出羽司令官ノ指揮下ニ入ル、次テ翌十三日午前二時五十分第六戰隊ノ裏長山列島ニ歸ルニ會セリ、九時三十分出羽司令官ハ高砂ヨリノ轉電ニテ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ命令ヲ受ク、

「ツエザレウ非子」昨夜膠州灣ニ入り、アスコリド（編者曰ク、アスコリドハ誤ナリ）「ノーウ非ク」港外ニ在リ千歲ハ其ノ隊ニ合セシム、八雲ハ今夜（十三日）正子過キヨリ通信距離内（編者曰ク、八口浦トシ）ニ來レ、

午後四時八雲及ヒ第二驅逐隊ハ黒山島ノ西方約七海里ニ著シ、高砂及ヒ淺間ヲ合セ、切ニ敵情ニ關スル通信ヲ待チシモ得ル所ナカリシガ、十四日ニ至リ日本丸ヲ經テ八口浦ヨリ來レル左ノ電報ニ接セリ、
左ノ電報明石ニ傳ヘラレタシ

聯合艦隊司令長官ヨリ東郷第三艦隊司令官へ敵艦隊膠州灣ニアリ、第三戰隊ハ之ヲ攻撃スル爲メ本日（十二日）午後梅加島ニ到ル、其ノ隊ハ之ニ合

同ヲ努ムヘシ、當方面ハ顧慮スルニ及ハス、

蓋東郷聯合艦隊司令長官カ右ノ如ク、第六戰隊ヲモ膠州灣ニ派遣セントスルニ至リタルハ、十二日午後十一時ノ發電ニテ、伊集院軍令部次長ヨリ今日午後三時半膠州灣青島發ニテ外務省ヘノ入電ニ依レハ、ツエザレウ非子ハ午前ニ負傷兵九人ヲ上陸セシメタリトアリ、同艦ノ在泊ハ虛構説トモ認メラレス、且其ノ被害モ全ク大ナラサルヤノ疑アリ、第六戰隊ヲ出羽戰隊ニ加ヘシメラレテハ如何トノ協議アリタルヲ以テナリ、然ルニ出羽司令官カ前記ノ電報ニ接シタル時ハ、既ニ第六戰隊ト相反航シタル一晝夜後ニシテ、最早通信シ得ヘカラサリシナリ、後幾モナク第六戰隊ノ派遣ハ中止セラレ、ニ至レリ、而テ出羽司令官ハ依然敵情ニ關シ得ル所ナキヲ以テ、十四日午前七時ヨリ監視ノ爲メ、淺間ヲ北緯三十三度五十分、東經百二十五度（二地ニシテ、黒山島ノ約南、西十五海里ニ當ル）ノ地點ニ派シ、高砂ヲ北緯三十三度三十分、東經百二十四度五十分（三七九地ニシテ、黒山島ノ約南、西三十六海里ニ當ル）ノ地點ニ派シ、八雲ハ黒山島ノ南西方ニ留マリシカ、同三十分ニ至リ來會ノ爲メ、其ノ附近ニ到達セル千歲ヨリ、東郷聯

合艦隊司令長官ノ命令ヲ左ノ如ク轉電シ來レリ(千歳ハ海州方面ニ索敵シタル後、裏長山列島ニ歸航ノ途中命ヲ受ケ十三日午前三時二十分ヨリ南下シテ來會セルナリ)

百二十

一、ツエザレウ非チ大破損シ、驅逐艦ト共ニ膠州灣ニアリ、アスコリド及ヒ驅逐艦一隻ハ吳淞ニ入リシコト確實ナリ、ノーウ非クハ行衛不明ナルトモ或ハ上海港外ニアラン、

二、其ノ隊ハ膠州灣ニ赴キツエザレウ非チ出港ヲ要求シ、之ヲ降服又ハ擊滅スヘシ、

三、獨國法規ニヨレハ一港内ニ兩交戰國ノ軍艦同時ニ碇泊スルトキハ、二十四時間内ニ出港セシメサルヘカラサルニ付、一艦ヲ灣内ニ入ル、ラ可トス、

四、千歳、日本丸、香港丸ハ竹敷ニ遣リ第二戰隊ニ屬セシメヨ、此ノ地ヨリ笠置ヲ其ノ隊ニ遣ル、

依テ出羽司令官ハ淺間、高砂ヲ招還シ、日本丸ヲシテ當時牛耳群島ノ南方ニテ炭水補給中ナル第二驅逐隊ニ向ヒ、直ニ來ルヘキノ命令ヲ傳ヘシメ、九時

二十三分ヨリ八雲、淺間ヲ率非テ膠州灣ニ向ヒ、更ニ高砂ヲシテ牛耳島方面ニ至リ、第二驅逐隊ヲ率非テ後ヨリ來加セシメ、千歳及ヒ日本丸ニハ竹敷回航ヲ命セリ、然ルニ十一時三十分ニ至リ、高砂ヨリ東郷聯合艦隊司令長官ノ命令ヲ左ノ如ク轉電シ來レリ、

午前七時浦鹽艦隊ヲ三八八地點(編者曰ク對馬韓崎ノ約北東四十六海里ニシテ北緯三十五度二十分、東經百三十三度ニ當ル)ニ認ムト竹敷ヨリ電報アリ、其ノ隊ハ何分ノ令アル迄八口浦通信距離内ニ留マレ、聯合艦隊司令長官ハ長島ニアリ、

出羽司令官乃チ八雲、淺間ヲ率非、引返シテシングル島ニ向ヒ、千歳、日本丸ノ竹敷回航ヲモ中止シテ、同シクシングル島ニ至リ、八雲等ニ會セシム、次テ午後六時二十分同島ニ於テ、高砂、千歳、日本丸、第二驅逐隊ヲ合セ、七時三十分牛耳群島ノ南方ニ假泊セシニ、同三十五分八口浦ヲ經テ東郷聯合艦隊司令長官ヨリ電報アリ、第二艦隊ハ浦鹽艦隊ヲ破リ、リユトリクヲ擊沈ス、ツエザレウ非チハ今尙膠州灣ニ於テ修理中、驅逐艦三隻モアリト、同五十分同司令官ヨリ又更ニ命令アリ、其ノ隊ハ直ニ膠州灣ニ進ミ、前訓令ノ事ヲ實行セヨ

ト、是ニ於テ出羽司令官ハ、千歳竝ニ日本丸ニ竹敷回航ヲ命シ、第二驅逐隊ニハ石炭補充ノ後膠州灣沖ナル北緯三十五度四十分、東經百二十度五十分ノ地點ニ來會セシメ、八雲、淺間、高砂ヲ率非十一時出發シテ再膠州灣ニ向ヒシカ、十五日午後六時笠置ハ裏長山列島方面ヨリ來リ合ジ、十六日午後六時四十五分膠州灣沖ニ達セシニ、八時二十分第二驅逐隊來會セシヲ以テ、同司令官ハ參謀海軍少佐山路一善及ヒ八雲乘組海軍中尉鏑木武夫ニ所要ノ命令ヲ與ヘ、驅逐艦雷ニ乘シテ同四十五分膠州灣ニ至ラシメ、八雲、淺間、高砂及ヒ驅逐隊ハ塔連島ノ南方約十海里ノ所ニ漂泊シ、笠置ハ其ノ西方五六海里ニ占位シ、以テ敵ヲ監視セリ、

驅逐艦雷ニ乘シテ膠州灣ニ向ヘル山路參謀、鏑木中尉ハ港口ニテ獨國ノ參謀將校等ニ會シ、水路嚮導ヲ受ケテ港内ニ入り、アルコナ棧橋沖ニ投錨シ、直ニ上陸シテ獨國總督海軍大佐トルツベルヲ官邸ニ訪ヒ、遁入セル露國軍艦及ヒ驅逐艦ニ關シ如何ナル處置ヲ取リシヤヲ問ヒシニ、同總督ハ答フルニ、「ツエザレウ非チ」及ヒ三隻ノ驅逐艦ハ既ニ昨日軍艦旗ヲ撤去セルコト、大砲

ノ尾栓汽機ノ重要部ヲ解除陸揚セルコト、水雷及ヒ彈藥ハ陸揚中ニシテ砲煩ヲモ漸次同様ニ爲スヘキコト、露國士官及ヒ兵員ニ關シテハ、獨國政府ニ問合セ中ニシテ、未タ何等ノ指令ニ接セサルモ、皆艦内ニ抑留シテ妄ニ艦ヲ出ツルヲ許サ、ルコト、獨國軍艦一隻ヲツエザレウ非チノ側ニ置キ、水雷艇二隻ヲ露國驅逐艦三隻ノ側ニ配備シテ、各嚴ニ之ヲ監視シ居ルコト、戰爭ノ終局迄ツエザレウ非チ以下ヲ抑留スヘキコト等ヲ以テセリ、是ニ於テ山路參謀ハ總督ノ面前ニ於テ、出羽司令官ノ名ヲ以テ山本海軍大臣ニ宛テ、「ツエザレウ非チ」「ベズシュームヌイ」「ベズストラーシヌイ」「ベヅボシチャーツヌイ」「昨日武裝ヲ解ケリト」ノ電報ヲ草シ、辭シテ總督官邸ヲ出テ、前記ノ電報ヲ發シ、雷ニ歸リ直ニ出港シテ、午後三時八雲以下ノ所在地ニ歸リ、出羽司令官ニ復命シタルヲ以テ、同司令官ハ同十七分諸艦ヲ率非テ拔錨シ、裏長山列島ノ根據地ニ向ヒ、十七日午後三時三十分同所ニ歸著セリ、

第三目 宗谷海峽附近ニ於ル「ノーウ非ク」ノ擊破

第一款 千歳對馬ノ函館回航及ヒ北海方面ノ警戒

露國巡洋艦ノ一ツ非クハ、八月十日ノ海戦ニ於テ水線上ニ三發ノ彈丸ヲ受ケ、辛ウシテ巡洋艦アスコリドト共ニ戰場ヲ脱シ、暗ニ乘シテ南下セシカ、機關部ニ應急修理ヲ施スノ必要ヲ認メテ速力ヲ減シ、且海霧ニ遮ラレタル爲メ、遂ニアスコリドト相失シ、單獨航行シテ翌十一日薄暮膠州灣ニ入港シ、石炭ヲ搭載シタル後、十二日午前四時頃同灣ヲ出發シ、本邦ノ東方ヲ迂回シテ浦鹽斯德ニ逃レントセリ、而テ同日其ノ情報_ル在芝罘水野領事ヨリ外務省ヲ經テ大本營ニ到達セシカ、幾モナクシテ其ノ尙膠州灣外ニ游弋シツ、アルヲ告ケ、更ニ翌十三日ニハ再同灣ニ入港セリトノ風説アリ、大本營ニテハ其ノ所在ニツキ確報ニ接セザリシカ、十四日午前七時五十分在芝罘森海軍中佐ヨリ、ノーツ非クハ十三日ノ未明實ニ膠州灣ヲ出港シタルコト、及ヒ之ニ關スル膠州灣ヨリノ電報何故カ到達セザリシコトヲ報告シ來リシノミナラス、同日午後ニ至リ、外務省ヨリ左ノ上海駐節帝國總領事小田切萬壽之助ノ電報ヲ送り來レリ、

今朝(編者曰ク十日ナリ)當地ニ著シタル某外國汽船ノ船長ハ親シク本官ヲ訪問シ、左ノ如ク告ケタリ、

予船長ハ八月十三日午前十時十五分北緯三十一度五十一分、東經百二十五度四十分(長崎上海間直線ノ中央點附近ニ當ル)ニ於テ一隻ノ露國巡洋艦ヲ見タリ、同艦ハヴァン、デ、イ、エ、メン海峽(九州南端ト種子島トノ間ニアリ)又ハ同海峽以南ニ位スル諸島間ノ海峽ニ向ヒ、南東微東ニ針路ヲ取り居タリ、同艦ハ三本煙突ヲ有シ、最後煙突ノ前ニ檣一本ヲ有シ、八海里乃至十海里ノ速力ヲ以テ進航シ居タリ、

伊東軍令部長ハ此ノ報告ニ接シ、之ヲ以テ露艦ノ一ツ非クハノ迂回シテ浦鹽斯德ニ至ラントスルモノナルコトヲ判斷シ、當時我カ津輕海峽方面ノ勢力僅ニ警備艦高雄武藏汽船滿州丸ノ三隻及ヒ第三第四ノ兩水雷艇隊七隻ノミナルヲ以テ、更ニ快速艦二隻ヲ同方面ニ派遣スルノ必要ヲ認メ、朝鮮海峽ニアル上村第二艦隊司令長官ニ向ヒ、午後五時二十五分左ノ電報ヲ發セリ、今朝上海ニ到着セル某外國汽船々長カ親ヲ小田切總領事ヲ訪ヒ告ケタル所ニ依レハ、同艦ハ十三日午前十時十五分濟州島、バルロー島ノ南々西

八十七海里即チ「T-1152」(編者曰ク北緯三十一度五十分、東經百二十五度四十分ニ當ル)附近ニ於テ「トウ
 非ク」カ八乃至十節ノ速カヲ以テ南東微東ノ方面ニ航スルヲ見タリトイ
 フ、就テハ貴官ハ爲シ得レハ快速艦二隻ヲ津輕海峽ニ急航セシメラレシ
 コトヲ望ム、

而テ尙之ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ通知セリ、是ニ於テ上村第二艦隊司令
 長官ハ瓜生同司令官ニ向ヒ、第四戰隊中ノ二艦ヲ津輕海峽ニ派遣スヘキヲ
 命シ、同司令官ハ對馬、新高ヲ選定シ、之ヲ軍令部長ニ電報セシカ、偶東郷聯合
 艦隊司令長官ヨリモ亦上村第二艦隊司令長官ニ向ヒ、第四戰隊常磐及ヒ一
 艇隊ヲ上海方面ニ派遣スヘシトノ命アリタルヲ以テ、乃チ對馬、新高ノ津輕
 海峽派遣ヲ中止スルニ至レリ、然ルニ翌十五日第二艦隊ハ尾崎ヨリ佐世保
 ニ向ヒ航行ノ途中、午前六時四十五分ニ至リ、更ニ東郷聯合艦隊司令長官ヨ
 リ、「トウ」非ク「要撃」ノ爲メニハ、千歲對馬ヲ派遣スヘキノ電報ニ接セルヲ以
 テ、上村第二艦隊司令長官ハ十一時三十分佐世保ニ入港スルヤ、愈千歲對馬
 ヲ「トウ」非ク「要撃」ノ爲メ派遣スヘキコトニ決シ、之ヲ大本營及ヒ聯合艦隊

司令長官ニ報告シ、千歲艦長海軍大佐高木助一ニ左ノ訓令ヲ與フ、

一、情報ニヨレハ八月十四日上海ニ著セル某外國汽船ハ十三日午前十時
 十五分濟州島、バルロー島ノ南々西八海里即チ「1152」地點附近ニ於
 テ、「トウ」非ク「カ八」乃至十節ノ速力ニテ南東微東ノ方向ニ航スルヲ見
 タリト云フ

二、貴官ハ千歲及ヒ對馬ヲ率非テ急速津輕海峽ニ赴キ右敵艦ニ對シ行動
 スヘシ

三、津輕海峽ノ警戒ハ官岡大佐之ニ當リ居レリ貴官ハ同方面行動中ハ同
 大佐指揮下ノ艦艇ト相策應シ敵艦ヲ同海峽ニ要撃スルヲ勉ムヘシ
 又右ニ關シ津輕海峽警備艦艇指揮官海軍大佐官岡直記ニモ訓令スル所ア
 リ、而テ對馬艦長海軍中佐仙頭武央ニハ千歲艦長ノ命ヲ受ケ、津輕海峽ニ向
 ケ行動スヘキヲ命ス、時ニ千歲ハ牛耳島方面ヨリ尾崎ニ向ヒ、前目參照對馬
 ハ尾崎ヨリ佐世保ニ向ヒ、各回航ノ途中ニアリ、而テ對馬艦長ハ千歲ノ所在
 ヲ明知セサリシヲ以テ、之ヲ待合スカ爲メ、空シク時間ヲ費シ機會ヲ失ハン

コトヲ慮リ、單獨直ニ津輕海峽ニ航シ、同地ニ於テ千歳ノ指揮下ニ入ラント
 決意シ、午後三時四十五分神崎ノ南十海里ノ地點ヨリ左轉シテ函館ニ向ヒ
 航行シ、其ノ旨ヲ豆酸無線電信所ヲ經テ大本營及ヒ第二艦隊司令長官ニ報
 告セントセシモ、遂ニ通セサリシヲ以テ、其ノ儘進航ヲ續ケシカ、午後五時二
 十分豆酸無線電信所ヲ經テ、午後二時四十分發ナル伊東軍令部長ノ左ノ命
 令ヲ受領セリ、

十三日鹿兒島ヲ發シ昨夕大島名瀬へ入港ノ沖繩丸船長ノ直話ニ、昨十四
 日午前五時三十分屋久島燈臺ノ南約二十五海里ノ沖合ニテ約六海里ヲ
 隔テ、三本煙突一本檣船旗不明ノ軍艦一隻西ヨリ東へ航行スルヲ認メタ
 リト云フ、貴官ハ千歳ノ到着ヲ待タス津輕海峽ニ急航スヘシ、

是ニ於テ對馬艦長ハ彼ノ津輕海峽ニ入ラサルニ先タチテ同所ニ達セント
 欲シ、十四海里ノ速力ニテ函館ニ向ヒ急航セリ、又千歳ハ同日午後六時十八
 分尾崎ニ入港シ、前記ノ上村第二艦隊司令長官ノ命令、竝ニ對馬先發ニ關ス
 ル大本營ノ命令、及ヒ津輕海峽ニ急航シ、到着ノ上ハ對馬ト一隊ヲ成サス、海

峽ノ兩側ニアリテ無線電信ノ連絡ヲ取り、以テ挾擊運動ヲ爲スヘキ旨ノ電
 報ヲ受ケタルヲ以テ、夜ヲ徹シテ炭水ヲ補充シ、十六日午前三時三十八分尾
 崎ヲ發シ、漸次速力ヲ増加シ、午後四時ヨリ十四海里トナシ、同シク函館ニ向
 へリ、

是ヨリ先キ大本營ニテハ、前記小田切上海領事ヨリノ報告アリタル以來、佐
 多岬ヨリ犬吠崎ニ至ル各望樓竝ニ燈臺看守ニ注意ヲ與ヘ、ノーウヰクノ所
 在ニ關シ、銳意調査シツ、アリシニ、十五日午後一時二十分頃内務省ヨリ鹿
 兒島縣知事ノ電報タル、沖繩丸船長ノ報告ヲ通知シ來リタルヲ以テ、伊東軍
 令部長ハ之ヲ「ノーウヰク」ト確認シテ前記ノ如ク對馬ヲ先發セシメ、次テ千
 歳ニモ急航ヲ命ジ、又伊集院同次長ハ同日午後六時四十五分官岡指揮官ニ
 向ヒ「ノーウヰク」カ濟州島ノ南西ヨリ屋久島附近ニ至レル時間ヲ以テ之ヲ
 推スニ、彼ハ十五節ノ速力ニテ航海シツ、アルモノ、如シ故ニ津輕海峽ニ
 在リテハ十六日夜ヨリ警戒ヲ嚴ニスルノ必要アリト認ムト電報シ、同十八
 日午前八時二十分ニハ宗谷、安波移矢、納沙布、襟裳、惠山ノ各望樓ニ敵艦ノ一

ツ非ク其ノ地附近ヲ通過スルヤモ計ラレサルニ依リ充分注意シテ監視スヘシ又其ノ地ノ天候ヲ電報セヨト命シ十時二十分ニハ龍飛崎白神崎ノ兩望樓及ヒ函館敷設隊ニ向ヒ西ヨリ來ルヘキ千歳ヲ認メタラハ「ノ」ツ非クハ去十四日朝屋久島沖ニ見ヘタル以來行衛不明ナルコト及ヒ千歳ハ直ニ炭水ヲ補充シ宗谷海峽方面ニ至ルノ準備ヲ爲スヘキヲ傳ヘシメ尙函館敷設隊ニハ港外ニテ千歳ニ石炭ヲ補給スルノ準備ヲ爲サシメ次テ午後八時四十五分伊東軍令部長ハ函館ニ向ケ千歳艦長ニ左ノ電報ヲ發セリ(對馬ハ午後六時五十分千歳ハ十八日午後一時十八分孰レモ函館著ノ電報大本營ニ達セリ)

千歳炭水ノ補充終ラハ速ニ對馬ヲ率非出港今夜津輕海峽ヲ通過スルコトアルヘキ「ノ」ツ非ク邀撃ノ目的ヲ以テ大島ノ西方約十五海里ノ地點ヨリ南方三十海里ニ至ル線上ヲ監視スヘシ明十九日午前八時ニ至ルモ敵ヲ見サレハ千歳ハ宗谷海峽ニ進ミ同海峽附近ニ於テ索敵シ對馬ハ津輕海峽ニ留マリ警戒セヨ此ノ行動中大本營及ヒ官岡指揮官トノ連絡ハ龍飛崎無線電信所又ハ宗谷岬望樓ニ依ルヲ可トス

而テ更ニ「ノ」ツ非クニ關スル消息ヲ待チシニ十九日午前八時五十三分安渡移矢崎望樓ヨリ左ノ電報到達セリ

露艦「ノ」ツ非ク「ノ」ツ非ク「ノ」通過セシハ國後水道ナリト千歳以下ニ申

是ニ於テ伊東軍令部長ハ直ニ對馬ヲモ宗谷海峽ニ急航セシメ更ニ官岡大佐ニ出來得レハ水雷艇第二十九號第三十號ノ二隻ヲモ同海峽ニ急派スヘキヲ命シ幾モナク「ノ」ツ非ク「ノ」通過セシハ國後水道ナリト千歳以下ニ申シ送レリ(編者曰ク當時擇捉海峽ヲ通過セリトノ報告ニ關シ大本營ニテハ或ハ國後水道ノ誤分安渡移矢崎ノ北々東約三十六海里ノ處ニ「ノ」ツ非クヲ認メタルコトヲ知リ得タルモ通過ノ海峽ハ確知セラレサリシカ寧ロ宗谷海峽ニ近キ國後水道トナシ置クノ安全ナルヘキヲ思ヒ同水道ヲ通過セルモノトシテ千歳以下ニ通知セリ而テ戰史編纂ニ當リ更ニ之ヲ當時ノ望樓員ニ質セシニ次ノ返電ヲ得タリ「ノ」ツ非ク「ノ」通過セルハ擇捉得撫ノ間ト認ム該艦ハ野斗路岬トハカハンノ岬トノ中間沖ニテ安渡移矢ヨリ北々東ニシテ安渡移矢ニ向ケ航行シ)而テ二十日來リ後北西ニ向ヘリ即チ電文ノ如ク擇捉海峽ヲ通過シタルコト事實ナルカ如シ)而テ二十日ニ至リ千歳對馬ハ遂ニ敵ヲ發見シ之ヲ擊破スルニ至レリ

第二款 千歳對馬ノ戰況

八月十五日午後三時四十五分神崎ノ南十海里ノ地點ヨリ函館ニ急航セル對馬ハ十七日午後五時三十分同所ニ入港シ直ニ炭水ヲ補充シ仙頭同艦長

八宮岡警備艦艇指揮官ニ會シテ海峽警戒ノ方法ヲ協議シ、十八日ノ午前中ハ矢越岬ト福浦崎ノ一線以西ヲ警戒シ、午後ハ汐首岬ト大間崎一線以東ヲ警戒スルコトニ決シ、翌十八日午前四時函館ヲ出港シ、豫定地點ニ至リテ警戒セリ、

又十六日午前三時三十八分尾崎ヲ發シ、同シク函館ニ急航セル千歳ハ、十八日午前十一時四十分龍飛崎無線電信所ヨリ、伊東軍令部長ノ命令タル「ノーウヰク」ノ行衛不明ナルコト、及ヒ千歳ハ直ニ函館ニテ炭水ヲ補充シ、宗谷海峽方面ニ至ルノ準備ヲ爲スヘキノ電報ニ接シ、同四十五分矢越岬附近ニテ警戒中ナル對馬ニ會合セシニ、同艦ヨリ左ノ信號ヲナセリ、

高雄、武藏ハ大間崎ノ線ヲ巡邏警戒ス、艇隊ハ晝間汐首附近ニ假泊ス、滿州丸ハ宮岡大佐乗込ミ、正午迄尻矢崎ト惠山ノ線ニアリ、午後函館ニ歸港ノ筈、本艦正午ヨリ滿州丸ニ至リ日没迄ニ貴艦ニ會合ヲ期ス、宮岡大佐ヨリ貴艦ハ一先ツ函館ニ入り會合ヲ望ムトノ傳言アリ、函館港口ニハ敷設水雷ノ爲メ嚮導船アリ、貴艦ノ炭水準備シアル筈、辨天臺場ノ内ニアル森敷

設隊司令ニ就キ聞カレタシ、函館方面ノ緊急信號ハ函館山砲臺ニ於テ二十八枚空放三發ヲ放ツ、ノーウヰクニ付テハ其ノ後聞ク處ナシ、

次テ千歳ハ午後一時五十八分函館ニ投錨シ、直ニ炭水補充ニ著手シ、高木同艦長ハ同日夕刻滿州丸ニ至リ、宮岡警備艦艇指揮官及ヒ其ノ際入港セル仙頭對馬艦長ト相會シ、對敵行動ヲ左ノ如ク策定ス、

敵若シ津輕海峽ヲ通過セントセハ豫メ之ヲ海峽ニ包圍シ若シ又宗谷海峽ヲ經テ浦鹽斯德ニ逃逸ヲ企ツルニハ一旦コルサコフニ寄港スルカ彼ノ人情ナリト想定ス、千歳ハ二月九日以來「ノーウヰク」トハ互ニ能ク相識リ對馬ハ其ノ型稍「ボガツイリ」ニ似タル所アリ依テ對馬ハコルサコフ方面ニ索敵シ其ノ六尹砲ヲ利用シテ敵ヲ陸岸ニ壓迫スルノ任ニ當リ、千歳ハ海峽ヲ扼シ敵若シ國後方面ヨリ來ラハ其ノ速力ト八尹砲ヲ利用シテ對馬ノ方ニ極力追撃シ萬一彼ヲ逸スルモ努メテ之ヲ東方ニ追返スノ任ニ當リ敵ヲ發見シタル場合ニハ互ニ電信ヲ以テ通信連絡ヲ執リ協力相包圍セントス

然ルニ九時三十分ニ至リ、伊東軍令部長ヨリ今夜津輕海峽通過ノ慮アルノ
 一ウ非クニ對シ、千歳對馬ハ函館ヲ出港シ、大島ノ西方約十五海里ノ地點ヨ
 リ南方三十海里ニ至ル線上ヲ監視シ、明十九日午前八時ヨリ、千歳ハ宗谷海
 峽ニテ對馬ハ津輕海峽ニテ、各警戒スヘキノ命令アリタルヲ以テ、對馬ハ十
 一時十八分、千歳ハ炭水補充ノ上、十九日午前零時各出港シ、六時十五分大島
 附近ニテ、兩艦相會シタル後、千歳ハ宗谷海峽ニ向ヒシカ、午後三時五十三分
 神威崎望樓ヨリ、今日午前八時頃、ノ一ウ非ク國後瀬戸ヲ北ニ通過シ、北西ニ
 進行セリトノ通報ヲ得タルヲ以テ、漸次速力ヲ増加シ、二十日午前三時禮文
 島ノ北西約二十海里ニ達シ、東ニ變針シテ宗谷海峽ニ向ヒ、速力ヲ減シテ索
 敵運動ヲナセシカ、昨日來風波高ク、且海面濛氣アルヲ以テ、先ッ艦位ヲ確ム
 ル爲メ、六時三十分ヨリ漸次南方ニ變針シ、八時二十四分宗谷岬燈臺ヲ發見
 シタル後、薩哈連島シレトコ岬ニ向ケ、再索敵運動ヲ爲セリ、已ニシテ九時四
 十分頃ニ至リ對馬來會シ、伊東軍令部長ヨリ當方面ニ急航ヲ命セラレタル
 ヲ告ク、是ニ於テ高木千歳艦長ハ同艦ヲシテ直ニコルサコフ方面ニ索敵セ

シメ、千歳モ海峽索敵ノ後同方面ニ向ハントセリ、
 對馬ハ同日午前十一時宗谷海峽ヨリコルサコフ方面ニ向ヒテ索敵行動ヲ
 起シ、午後四時薩哈連島エンツマ崎ノ南方十海里ニ至リシニ、コルサコフ錨
 地ニ方リ煤煙ノ昇騰スルヲ認メ、直ニ針路ヲ之ニ向ケ、漸ク近ツクニ隨ヒ、敵
 艦ノ一ウ非クノ南方ニ航行シツ、アルヲ發見セリ、蓋同艦ハ此ノ日ヲ以テ
 コルサコフ港ニ著シタルニ、我が對馬ノ接近シ來ルヲ見テ港外ニ出テタル
 モノニシテ、今ヤ其ノ速力ヲ利用シ、機ヲ見テ逸走セントスルモノ、如シ、仙
 頭對馬艦長乃チ千歳ニ敵見ユ我之ヲ攻撃スト電報シ、最大速力ヲ出シテ常
 ニ敵ノ艦首ヲ壓迫スル如ク運動シツ、四時三十分遂ニ砲撃ヲ開始シ、敵モ
 亦猛烈ニ應戰セシカ、暫クニシテ敵ハ水線上ニ二彈、水線下ニ一彈ヲ受ケ、海
 水彈孔ヨリ侵入シテ忽チ舵室ヲ浸シ、且舵器竝ニ機關ヲ損シタリト云フ、是
 ニ於テ彼ハ五時六分針路ヲ反轉シ、コルサコフノ方ニ退却セシヲ以テ、對馬
 回頭シテ之ヲ追撃セント爲セシニ、同艦モ亦左舷水線下ニ敵彈ヲ受ケ、六番
 八番炭庫ニ浸水アリ、艦體ノ傾斜漸ク大ナラントセシヲ以テ、同四十分之ヲ

止メ、極力排水ニ從事シツ、南方ニ航シ、六時十八分ヨリ航行ヲ停止シ、浸水部ノ應急修理ニ著手中、千歳來會シタルヲ以テ戰況ヲ告ケ、千歳ハ代リテ敵ヲ攻撃シ、對馬ハ海峽ニテ敵ノ脱出ヲ扼守スルコトニ決シテ相分レ、對馬ハ七時三十分應急修理ヲ了リ、海峽ニ航シテ終夜警戒ニ任シ、千歳ハエンヅマ崎方面ヲ索敵セシモ、四面暗黒ニシテ海圖モ亦精細ナルモノアラサルヲ以テ、夜戰ヲ不利トナシ、港外ニ出テ、監視シ、翌二十一日天明ニ至リシニ、ノール非クハコルサコフノ市街陸岸ニ近キ淺瀬ニ乗り上ケ居リテ、汽艇端艇ニテ陸岸トノ間ヲ往復シツ、アルヲ認メ、尙接近シテ之ヲ檢セシニ、艦首ヲ約北方ニ向ケ、投錨ノ儘右舷ニ傾斜シ居リテ、其ノ乗員上陸中ナリ、蓋同艦ハ昨日一旦入港シタル上、更ニ逸走セント欲セシモ、到底不可能ナルヲ自覺シタルヲ以テ、艦長海軍中佐ミハイ、ル、フエドロウ非ツチ、フオン、シユリツハ意ヲ決シテ艦ヲ海岸ノ淺所ニ寄セ、搭載物ヲ揚ケ乗員ヲ上陸セシメテ後、爆沈セシメタルモノナリ、而テ千歳ハ六時二十五分八千五百米突ノ距離ヲ測リ、搜射ヲ爲セシモ、敵應戰セサルヲ以テ微速力トナシ、四千米突内外ノ距離

ニテ運動シツ、砲撃ヲ續行シ、二十餘ノ命中彈ヲ認メ、愈接近シテ二千五百米突ニ至リ、千里鏡ヲ用ヒテ充分其ノ破壊シタルヲ確メタル後、七時十四分砲撃ヲ中止シテ宗谷ニ向ヒ、十時五十三分對馬ト會シ、午後一時三十四分宗谷望樓ニ近ツキ、軍令部長竝ニ第二艦隊司令長官ニ戰況ヲ報告シ、二時ヨリ二艦共ニ南下シテ、二十二日朝小樽ニ寄泊シテ風波ヲ避ケ、同日夕刻出發シ、函館ヲ經テ、對馬ハ二十七日、千歳ハ二十九日、各尾崎ニ歸著セリ、八月二十二日上村第二艦隊司令長官ニ、左ノ勅語ヲ賜フ、
千歳對馬ハ哥爾薩港ニ於テ敵艦ヲ擊破シ長驅追撃ノ目的ヲ達シタリ朕之ヲ嘉尙ス

同二十三日皇后宮大夫子爵香川敬三八、左ノ皇后陛下ノ令旨ヲ傳フ、
千歳對馬ノ二艦ハ敵艦ヲ追跡シ哥爾薩港ニ於テ之ヲ擊碎シタル趣皇后陛下ノ懿聞ニ達シ我カ將校下士卒ノ忠勇克ク其ノ功ヲ奏シタルヲ深ク御感賞アラセラル

二十二日第二艦隊司令長官海軍中將上村彦之丞ハ、勅語ニ對シ左ノ奉答文

ヲ捧ク、

千歳、對馬ノ哥爾薩港ニ於ル奏功ハ一ニ。大元帥陛下ノ御稜威ニ依ル然ルニ茲ニ又優渥ナル勅語ヲ賜ハリ恐懼ニ堪ヘス臣等之丞誠惶謹テ奏ス。二十三日同司令長官ハ皇后陛下ノ令旨ニ對シ、左ノ奉答文ヲ捧ク、

大元帥陛下ノ御稜威ニ依リ哥爾薩港ニ於ル千歳對馬ノ奏功ニ對シ又優渥ナル令旨ヲ賜ハリ感激ニ堪ヘス謹テ奉答ス

第四目 上海ニ於ル「アスコリド」及ヒ驅逐艦「グロゾウオイ」ノ

抑留

第一款 第四戰隊ノ上海派遣

露國巡洋艦「アスコリド」ハ司令官レイツエンシテイ少將ノ旗艦トシテ、巡洋艦隊ノ指揮ヲ司リ、八月十日ノ日没頃僚艦ノ先頭ニ立テ、戰線ヲ脱シテ南方ニ逃レタリ、同艦ハ當日ノ海戰ニ於テ五十餘人ノ死傷者ヲ出シ、十餘彈ヲ受ケ、且二個ノ煙突汽罐竝ニ艦底ヲ損シタルモ、尙二十海里ノ速力ヲ出シテ疾走セシカ、夜ニ入ルト同時ニ僚艦ト相失シ、速力ヲ減シテ航路ヲ山東高角

ト大青群島トノ中心ニ取リツ、進航シ、十一日ノ黎明ヨリ再速力ヲ増加セリ、然レトモ、煙突破壊ノ結果石炭ノ消費夥シク、隨テレイツエンシテイ少將ハ遠ク浦鹽斯德港ニ直行スル能ハサルヲ察シ、意ヲ決シテ針路ヲ轉シ上海ニ向ヒ、十二日午前三時比馬鞍群島附近ニ近ツキテ先ツ投錨シ、更ニ滿潮ニ乘シテ午後三時四十分吳淞ニ入港セリ、驅逐艦「グロゾウオイ」モ亦之ニ先タチ、同日午後零時三十分同處ニ著シ、直ニ江ヲ遡リテ上海ニ進ミタリ、是ニ於テ小田切總領事ハ直ニ之ヲ外務省ニ打電シ、同省ヨリ午後七時五分大本營ニ通報シ來リタルヲ以テ、九時三十分伊集院軍令部次長ハ、之ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ通報スルト同時ニ、帝國政府ハ清國政府ノ意嚮ヲ確メ、又之ニ對スル東郷聯合艦隊司令長官ノ計畫等ヲ確知スル迄ハ、何等確然タル手段ニ出テサル筈ナルニ付、之ニ對スル其ノ心算ヲ成ルヘク速ニ豫報センコトヲ希望スル旨ヲ電報セシカ、引續キ尙他ノ露艦馬鞍群島附近ニアリトノ風説アリ、翌十三日午前十一時五十分伊東軍令部長ハ、同司令長官ニ向ヒ、上海方面ニ露艦ノ遁入セシハ、確實ナルモノ、如キヲ以テ、此ノ際我カ艦隊ノ

之ニ對スル處斷一日ヲ緩ウスルトキハ、問題ノ錯綜ヲ來シ、大ニ不利ヲ蒙ルノ虞アルヲ以テ、速ニ之ヲ壓迫セシメテ機宜處斷スヘキコトヲ發電セリ、是ニ於テ同司令長官ハ七時四十分、朝鮮海峽ニアル上村第二艦隊司令長官ニ對ヒ、第四戰隊及ヒ一艇隊ヲ吳淞ニ遣リ、同地ニアル「アスコリド」及ヒ一驅逐艦ヲ降伏、又ハ擊破スヘキノ命令ヲ發セシカ、大本營ニテハ外交ノ關係上遽ニ兵力ヲ用ヒ難キ點アルニ至リタルヲ以テ、十四日午前十一時五十分伊東軍令部長ハ、東郷聯合艦隊司令長官ニ對シ、上海港内ニ入リテ敵艦（編者曰クドモ十三日午後二時四十分上海ニ入りタリ）ニ對シ、軍事行動ヲ取ルコトハ、更ニ何分ノ命令アル迄見合サシムヘシト電報シ、尋テ政府ノ方針ハ小田切總領事ヲシテ、清國官憲ニ對シ、露國軍艦ハ既ニ二十四時間以上碇泊シタルヲ以テ、即時出港セシムルカ、或ハ露艦之ニ從ハスンハ、彼ヲシテ入港ノ儘修理ヲ加フルコトナク、且武裝ヲ解キ、戰爭ノ終局ニ至ル迄、同地ニ繫留セシムヘキコト、及ヒ若シ清國ニシテ二者共ニ實行セシムルコト能ハサルニ於テハ、我カ國ハ自ラ適當ト思考スル手段ヲ採ルヘク、而テ其ノ結果ヨリ生スル一切ノ責任ハ、素ヨリ清國

ニアルヘキヲ交渉セシメ、尙列國ニモ通牒シタル上ニテ、相當ノ處置ニ出ツルニ決セルコトヲ通知シ、同司令長官ハ午後十時三十分左ノ命令ヲ上村第二艦隊司令長官ニ發セリ、

サツドル（編者曰ク馬鞍島ナリ）附近ニアル敵艦ヲ擊破シ、上海ニアル「アスコリド」ヲ處

分スル爲メ、急速第四戰隊ト常磐及ヒ一艇隊ヲ派遣スヘシ

「アスコリド」處分ニ就テハ、直接大本營ノ訓令ヲ受クヘシ

貴官ハ殘餘ノ麾下ヲ以テ尙嚴ニ海峽ヲ扼シ、主トシテ南方ヨリ來ル敵ノ脱出艦ニ注意スヘシ

是ト同時ニ東郷聯合艦隊司令長官ハ、大本營ニモ左ノ如ク打電セリ、急速第四戰隊、常磐及ヒ一艇隊ヲ上海ニ派遣シ、「アスコリド」及ヒ馬鞍島ニアル敵艦ヲ處分セシムルヲ得策ト思考シ、其ノ訓令ヲ發セリ、馬鞍島ニアル敵艦ハ擊破スルコト勿論ナレトモ、上海ニアル「アスコリド」ノ處分ニ就テハ、第二艦隊司令長官へ直接命令アリ、タシ、第三戰隊ハ直ニ膠州灣ニ向フ様命令シ置ケリ、

然ルニ幾モナク、上海ニ於ル「アスコリド」及ヒ驅逐艦「グロゾウオイ」ノ外ハ、馬鞍群島ニ敵艦アラサルコト判明セルカ、而モ在上海露艦長等ノ清國官憲ニ對スル返答、頗ル要領ヲ得スシテ、瞬味ノ裡ニ時日ヲ遷延セントスルモノト認メラレタルヲ以テ、伊東軍令部長ハ兵力ヲ以テ是カ壓迫ヲ試ミント欲シ、十七日午後二時上村第二艦隊司令長官ニ向ヒ、一等巡洋艦一隻、二三等巡洋艦ノ内一二隻及ヒ水雷艇二隻ノ派遣ヲ命シタルヲ以テ、同司令長官ハ第二艦隊司令官海軍中將瓜生外吉ノ指揮ノ下ニ、常磐、浪速、新高及ヒ水雷艇雲雀、鵜ヲ派遣スルコトニ決定シ、又伊東軍令部長ハ大本營附海軍中佐外波内藏吉ニ向ヒ、上海ヘ急行シテ露艦ノ處分ニ盡カスヘキヲ命セリ、而テ瓜生司令官ハ天候ノ都合ニヨリ、十九日午前五時尾崎ヲ出發シテ上海方面ニ向ヒ、二十日エリオット島ノ南方ニ著シ、種々壓迫ノ手段ヲ講セリ、然ルニ露艦ハ尙頑トシテ清國官憲ノ請求ニ應セサルヲ以テ、上海道臺ハ止ムヲ得ス之ヲ先任領事ニ通知シ、二十二日領事團會議開カレ、各國領事ハ自國政府ニ電報シテ訓令ヲ仰キ、我カ政府ハ愈清國官憲ニ嚴談スル所アリ、其ノ結果終ニ二

隻ノ露艦ハ、二十五日午後七時ヨリ國旗ヲ撤シ、二十九日ヨリ武装解除ニ著手シ、グロゾウオイハ翌三十日迄ニ「アスコリド」ハ三十一日迄ニ全ク之ヲ了レリ、

第二款 第四戰隊ノ行動

上海派遣ノ命ヲ受ケタル瓜生第二艦隊司令官ハ、常磐(司令官)浪速、新高及ヒ水雷艇雲雀、鵜ヲ率非、八月十九日午前五時尾崎ヲ出發シ、二十日午後五時二十分エリオット島ノ南方ニ到リシニ、我カ上海領事館員井原書記生水先案内者ト共ニ小蒸氣船ニテ來會シ、露艦ノ狀況ヲ告ケ、同司令官ハ同日午後六時左ノ命令ヲ發セリ、

一、敵狀

(イ) 上海方面ノ敵狀竝ニ我カ政府ノ之ニ對セル行動左ノ如シ

軍令部次長ヨリ本職宛電報(八月十八日午後十一時二十五分發)

一、昨日(十七日)電報セシ「アスコリド」ノ修理ニ對シ我カ政府ハ今日(十八日)小田切總領事ニ左ノ如ク訓令シ小田切ハ之ヲ上海道臺ニ照

會セリ

「アスコリド」ノ修理計畫ハ中立國カ交戰國ニ對シ許スヘキ航海上
必要缺クヘカラサル程度ヲ超ヘ其ノ戰鬥力ヲ回復スルニ足ルモ
ノト認ムヘク從テ如此修理ヲ許スハ清國ノ中立義務ト相容レザ
ル義ニ付右修理ハ舵及ヒ舷側ニ穿チタル彈孔應急修理ニ止メ其
ノ修理期間ハ之ヲ二三日ニ減スルヲ至當ト認ム就テハ右ノ趣至
急道臺ニ申入レ且清國ニシテ右ニ拘ラス露國軍艦ニ對シ其ノ計
畫ノ如キ修理ヲ許シ爲メニ其ノ戰鬥力ヲ回復スルヲ默許スルニ
於テハ帝國政府ハ自ラ相當ト信スル手段ヲ採ルヘク是ヨリ生ス
ル結果ニ就テハ一切ノ責ニ任セサル旨嚴ニ聲明セラルヘシ

二、「グロゾウオイ」ニ對シテハ十七日附小田切總領事ノ報告ヲ得タリ
左ノ如シ

上海道臺ハ外務部ヨリ左ノ電訓ヲ受取リタル旨竊ニ語レリ
露國公使ハ驅逐艇ノ修理ハ六日內ニ終ルコトヲ告ケタリ右六日

經過後二、三時間以內ニ出港セサルトキハ武装ヲ解カシムヘシ修
理ハ許ス外ナシ云々

右六日ハ何日ヨリ起算スルカハ道臺ヨリ遷訓スル筈ナリ

三、外波中佐ハ右二艦處分方ニ盡カスヘキ訓令ヲ受ケ最近便ニテ上
海ニ向ケ出發ノ筈ナリ

四、貴官竹敷出發後ニ於ル必要ナル情報ハ貴官グツヲフ到著ノ際上
海帝國領事ヨリ交付セシメントス

(ロ) 他方面敵情ニ就テハ其ノ後得ル所ナキモ旅順ノ總攻撃既ニ十九日
ヲ以テ開始セラレタレハ脱出艦ノ上海方面ニ來ルコトナキヲ保セ
ス

二、我カ艦隊ノ配備

出羽司令官指揮下ニ膠州灣方面ニ出動セル第三戰隊以下ハ既ニ旅順
方面ニ歸還セルモノ、如シ其ノ他從前ト異ナル所ナシ

三、予ハ右ノ狀況ニ依リ揚子江口到著後左ノ如ク行動シテ上海遁入ノ二

艦處分ノ任務ヲ遂行スルト同時ニ、更ニ當方面ニ逃走シ來ルヘキ敵艦ニ應セントス

四、常磐、新高及ヒ水雷艇鷲ハグツラフ島(編者曰ク大戦山島ナリ)附近「I」地點(編者曰ク大

南東三海)ヲ根據トシ常ニ吳淞派遣隊ト連絡ヲ保チ内外ヨリスル敵ニ對シテ警戒シ浪速及ヒ司令艇雲雀ハ浪速艦長ノ指揮下ニ吳淞ニ派遣シ

浪速艦長ヲシテ別ニ與フル訓令ニ基キ一層進シタル威壓ト敵艦行動ヲ監視ニ任セシメ、又遁入敵艦處分ニ關シテハ帝國總領事ト直接協議スルニ任セシム

常磐ハ艦載水雷艇ヲ武装シテ吳淞ニ派遣シ(水雷ヲ裝備セス)浪速艦長ノ指揮下ニ入り傳令其ノ他ノ任務ニ服セシム

但吳淞派遣隊派遣ノ時機ハ追テ令ズルヲ以テ其ノ時機迄ハ本隊ト行動ヲ共ニスヘシ

五、常磐、新高及ヒ鷲ハ晝間「I」地點ニ假泊シ日没前「I」地點ヲ去リテ踪跡ヲ晦マシ約別圖ノ如キ航路ヲ取り「Q」地點(編者曰クアメルスト列岩ノ約北微西二海里半)ニ至リ假泊

シ天明前拔錨迂航路ヲ取り「I」地點ニ歸泊ス鷲ハ適宜本隊ヲ離レ脱出艦ニ對スル哨所ニ就カシメ天明後「I」地點ニ於テ本隊ニ合セシムルコトアルヘシ

天候右ノ如クスルコト能ハサル場合ニ於テハ適宜ノ錨場ヲ撰ヒ假泊スヘシ

六、對敵動作

(イ) 江外ニ敵ヲ發見セル場合

此ノ場合ニ在リテハ本隊ハ直ニ之ニ對シ作戰ス浪速ハ麾下ヲ率非直ニ江ヲ下リ戰場ニ來會スヘシ但艦載水雷艇ハ適宜ノ位置ニ殘留セシムヘシ

(ロ) 晝間遁入艦ノ下江ニ際シテハ本隊ハ直ニ出港シテ港外ニ於テ擊破スルノ策ヲ採ル浪速ハ麾下ヲ率非別ニ故障ナケレハ安全ノ距離ヲ隔テ、後ヨリ下江シ本隊ニ合スヘシ艦載水雷艇ニ對スル處置(イ)ノ如シ

第十四章 第三節 第四目 第二款 第四戰隊ノ行動 百四十七

- (ハ) 旅順艦隊脱出ノ報ヲ得ハ浪速ハ麾下ヲ率非テ下江シ本隊ニ合セシムヘシ本隊ハ適宜江外ニ運動シテ内外ノ敵ニ對シ警戒ス艦載水雷艇ヲ吳淞ニ殘留ス可キヤ否ハ時ノ狀況ニ仍リ便宜處置スヘシ
- (ニ) 遁入艦既ニ出港スルコト、定マレハ晝間ハ江外ニ於テ警戒シ夜間ハ適宜ノ位置ニ假泊シ水雷艇隊ヲシテ專ラ夜間ノ襲撃ニ任セシム
- 七、東經百二十二度ノ線以西ノ江内ニ於テハ各艦艇共自ラ進ンテ戰鬪行動ヲナスコトヲ禁ス尙此ノ線以東ノ海面ト雖モ江口ニ接近シ中立國船舶ノ輻輳スル附近ニ在リテハ可成戰鬪行爲ヲ避ケ又彼ノ再遁入ヲ妨クル爲メ成ル可ク江外ニ誘出シタル上攻撃センコトヲ要ス
- 八、上海方面行動中ハ總テ帝國中央標準時ヲ用フヘシ
- 依テ他ト交渉スル場合ニ在リテハ特ニ上海常用時ノ何時ナルカヲ附記スルノ注意ヲ要ス帝國中央標準時ト上海常用時トハ中央標準時ノ方五十四分進ミ居レリ
- 九、特令ナケレハ江外ノ各艦ハ四直哨兵ヲ配備シテ警戒シ當分各艦艇共

迅速全速力ヲ出シ得ルノ程度ニアルヘシ

- 十、警戒信號ヲ別紙ノ如ク定ム其ノ通信方法ハ從來ノ例ニ依ル但區別符ヲ除ク

敵ハ Tノ四八〇地點ニ在リテ東ニ航シツ、アリ

ミ、ミ、ミ、 T四八〇 A R

自艦ノ位置及ヒ航進方向ヲ示ス場合ハ左ノ如クスヘシ

吾ハ D 特設地點ニ在リテ東ニ航シツ、アリ

ユ、ユ、ユ、 D A R

- 十一、特設地點ヲ設クルコト附圖第一第二ノ如シ其ノ他ノ地點ハ兵要圖ノ地點ニ依ル

(注意) 上海附近ノ兵要圖地點ハ TトYト境ヲ接シ居ルヲ以テ必ス T若クハ Yヲ附スルコトヲ忘ルヘカラス

十二、八月十五日軍令部長ヨリ左ノ電報ヲ受領セリ

訓令第一一號ニ基キ我カ艦隊上海ニ在ル露國軍艦ニ對スルニ當リテ

ハ小田切總領事ト交渉シ外交上ノ步調ト軒輊スル如キコトナキヲ期スヘシ特ニ上海及ヒ其ノ附近ニ於テ徒ラニ清國ノ中立ヲ脅ス如キハ有害無益ナルコトニ深ク留意スルヲ要ス

十三、揚子江内航海及ヒ碇泊ノ艦艇ハ他船舶ト觸接シ危險ヲ避クル充分

ノ注意ヲ要シ常ニ萬一ノ場合ニ處スル準備ナカルヘカラス(四戰機密 第二一二)

(編者曰ク本命令ニハ特設地點圖ニ葉ヲ附セリ別冊附圖ニ掲ク)

同時浪速艦長海軍大佐和田賢助ニハ左ノ訓令ヲ與フ、

一、貴官ハ浪速及ヒ雲雀ヲ率非吳淞ニ至リ一層ノ間接威壓ヲ遁入敵艦ニ加ヘ適宜其ノ行動監視ノ方法ヲ講シ彼等ノ脱出ニ際シテハ本隊ヲシテ時機ヲ失セス之ニ應スルヲ得セシムル様通信連絡ヲ最完全ナラシムルコトニ留意スヘシ但内ニハ萬一ノ場合ニ應スル充分ノ準備アルモ外ニハ極メテ平靜ノ態度ヲ示シ對敵動作ニ就テハ最慎重ニ行動セシムルコトヲ要ス又遁入敵艦ノ處分ニ關シテハ帝國總領事ト協議シ大本營訓令第十一號及ヒ第四戰隊命令中ニ於ル大本營ノ訓令ニ基キ特ニ

重要ナラサル事項ハ適宜處分シテ速ニ報告スヘシ

二、吳淞泊地ハ陸上トノ交通便利ナル位置ヲ撰ヒ又成ル可ク外國艦船ト混泊スルヲ望ム斯ク混泊スルニ於テハ敵ノ奇襲ヲ困難ナラシメ又奇襲ヲ受ケタリトスルモ之ヨリ生スル一切ノ責任ヲ彼ニ負ハシムルニ對シ公法上ノ正邪ヲ表白スルヲ得ヘシ

三、貴官吳淞ニ於ル傳令用等ノ爲メ常磐ノ艦載水雷艇ヲ派出ス是カ給養等ハ浪速ニ於テ處辨スヘシ

四、成シ得ヘクシハ水雷艇炭水補給用船ヲ泊地附近便宜ノ位置ニ備ヘ之ヨリ供給セシメンコトヲ望ム

五、水先案内ハ當分常備トシ常ニ艦内ニ在ラシムルヲ可トス

六、吳淞碇泊中浪速ハ常ニ十節ニ對スル準備ヲ爲シ其ノ他ハ消火シ置キ差支ナシ

(注意)此ノ吳淞派遣隊派遣ノ時機ハ追テ令スルヲ以テ其ノ時機ニ至

ルマテハ本隊ト行動ヲ共ニスヘシ(四戰機密 第二一二三號)

而テ同時新高ヲ打電ノ爲メ大戢山島ニ遣シ、午後八時三十分水雷艇ヲ南水道東沙附近ノ監視ニ派シ、他艦ハ北東ニ航シ沖ノ方ニ出テ、午後十時二十分新高歸著シテ列中ニ入レリ、翌二十一日午前七時七分大戢山島附近ナル「I」地點ニ歸リ、水雷艇ヲ合セ便宜碇泊シ、正午ヨリ新高ヲ哨艦トシテアメルスト列岩ノ東方約二海里ノ處ニ出シ、又情報ニ依リ敵驅逐艦カ戦闘航海ニ堪ヘ得ルヲ知リタルヲ以テ、萬一ヲ慮リテ當分浪速ノ吳淞派遣ヲ止メ、單ニ水雷艇鵜ノミヲ遣シテ艦隊トノ連絡ヲ取ラシメ、又常磐分隊長海軍大尉野村吉三郎ヲ外波中佐來著マテ領事館ニ置キ、左ノ如ク大本營ニ打電セリ、

「グロゾウオイ」ハ如何ナル行動ニ出ツルヤモ計ラレス、今少シ其ノ行動ヲ確認スル迄吳淞ニハ單ニ水雷艇ヲ入港セシメ、軍艦ハグツラフ附近ニ在リテ内外ニ對シ警戒ス、外波中佐著迄士官一名ヲ領事館ニ派シ、水雷艇及ヒグツラフ電信局ニ依リ通信連絡ヲ保持ス、電報ハグツラフ及ヒ領事館ヘ發送頼ム、第二艦隊司令長官ニハ常ニ移送セラレタシ、

而テ今夜ハラツゲツト群島ノ南方ニ假泊シ、翌朝「I」地點ニ歸リ、浪速ヲシテ

新高ニ代リテ哨艦タラシム、午前九時瓜生司令官ハ軍令部長ヨリ左ノ電報ヲ受領セリ、

貴官ハ勉メテ碇泊地ヲ清國領海以外ニ選定シ、極メテ必要ナル場合ニ至ラサレハ吳淞又ハ上海ニ艦艇ヲ止メサルヲ可トス、

右電報ニ依リ、同司令官ハ水雷艇ノ吳淞派遣ヲモ止ムルコト、セシカ、既ニシテ午後四時四十分ニ至ルヤ、鵜吳淞ヨリ歸來シ、其ノ齋セル報告ニ依リ、同司令官ハ六時左ノ口達命令ヲ發セリ、

一、遁入露艦出港期限明二十三日正午迄トシ出港セサレハ即時武装解除スヘキ旨照會セリト云フ

二、上海ヲ出發スヘキ潮時ハ今夜ハ午後八時明朝ナレハ九時ナリト云フ依テ今夜ハ左ノ如ク行動ス

水雷艇二隻ハ東沙附近水道ヲ監視シ、明天明後「S」地點（編者曰クエリオット島ノ北方約八海里）

附近ニ來リ本隊ニ合スヘシ

本隊ハ午後七時「N」地點（編者曰クエリオット島ノ北端ノ約東方五海里）ノ南方ニ假泊シ、明日未明拔

錨「S」地點附近ニ至リ漂泊ス

哨艦ハ現行ノ通り各艦艇ハ特ニ警戒ヲ嚴ニスヘシ

次テ今夜ハ浪速ヲ「Q」地點ニ假泊セシメ、水雷艇ニハ南水道ヲ警戒セシメ、常磐、新高ハ北東方ニ航シ、二十三日午前六時頃「A」メルスト列岩附近ニ歸リ、新高ヲ浪速ト交代セシメテ「S」地點ニ派シ、常磐ハ「I」地點ニ假泊シ、正午訓令ヲ發シテ水雷艇隊ノ行動ヲ改メ、爾後同艇隊ハ毎夕大戔山島ノ傍ニ至リテ假泊シ、午後十時ヨリ同所ヲ發シテ南水道東沙附近ニ至リ警戒シ、天明後「I」地點ニ至リテ艦隊ニ合スヘキコト、シ、常磐、浪速ハ午後六時ヨリ出發シ、「N」地點「E」リ、オット島ノ北端ノ東方約五海里ニ假泊シ、二十四日午前六時浪速ヲ留メ、常磐ハ「I」地點ニ歸リ、夕刻ヨリ浪速、新高ニ合シテ同夜ハ「T」地點「ラゲツト」群島ノ南方ニ假泊セシカ、午後九時三十分野村大尉ヨリ左ノ電報アリ、清國政府ハ露國軍艦ノ出港期限ヲ二十八日正午マテ延期シタルヲ以テ、吾カ公使ハ清國政府カ前約ヲ顧ミス事態容易ナラサルヲ認メ、我カ利益ヲ保護スヘキ適宜ノ處置ヲ取ル可キ時機來リタリト電報シタリ、英國領

事ハ露國軍艦露國驅逐艦ノ修理ヲ中止セシメス、

二十五日午前六時浪速、新高ヲ留メ、常磐ハ「I」地點ニ歸リシカ、午前九時二十四分野村大尉ヨリ露艦武裝ヲ解クヘキノ情報アリシヲ以テ、午後一時五分瓜生司令官ハ露艦ノ軍艦旗ハ既ニ撤去セルヤ、又武裝解除ニ著手セルヤヲ間合セ、七時出港シテ「E」地點ニ移リシカ、二十六日午前零時野村大尉ヨリ左ノ返電到著セリ、

「アスコリド」ハ軍艦旗將旗ヲ撤シ、修理工事ヲ續行ス、「グロゾウオイ」ハ軍艦旗ヲ撤シ、水雷頭部ヲ陸揚シツ、アリ、武裝解除ニ著手セシコトハ未タ公文ノ通知ニ接セス、

同五時浪速、新高ヲ留メテ、常磐ハ大戔山島附近ニ歸リ、同夜ハ前夜ノ如キ行動ヲ取り、二十七日午前七時四十分總艦「E」リ、オット島ノ約南西三海里「J」地點ニ至リ、浪速ヲ同島ノ北方ニ派シ、水雷艇ヲ大戔山島ニ配シ、同夜ハ其ノ儘假泊セシカ、二十八日午前十一時野村大尉ヨリ左ノ電報到達セリ、

道臺ハ武裝解除ハ二十九日ヨリ著手シ、二日間ニテ終ル豫定ナル旨稅關

長ヨリ報告アリシト云ヘリ、二艦共變リナシ、アスコリドハ修理ヲ續行ス、同七時常磐浪速新高ハ「I」地點ニ移リ、翌二十九日午前五時出發シテ「S」地點ニ歸リ、新高ヲ「I」地點ニ派セシカ、午後三時二十分新ニ領事館ニ來著セル外波中佐ヨリ、正午發ナル左ノ電報到著セリ、

一、清國政府ハ兵員ヲ抑留スルノ外總テ我カ要求ニ應センコトヲ申込メリ、我カ公使ハ兵員ヲ上海ニ抑留スルノ困難ナルヲ承知シ、外務省ニ問合セ中、

一、グロゾツオイ武装解除ヲ始ム、

之ニ依テ瓜生司令官ハ特命アル迄、艦隊ハ現在錨地ニ常泊シ、十二海里ニ對スル汽力ヲ保ツコト、新高ハ何分ノ命アルマテ現在派遣地ニアルコト等ヲ命シ、次テ翌三十日午後新高ヲ招還セシカ、此ノ間尙外波中佐ヨリ情報アリ、而テ三十一日午後一時瓜生司令官ハ外波中佐ニ向ケ、今ヤ露艦ハ武装解除ニ著手シ、殘ル所ハ細項ノ問題ニ過キスシテ、而モ急速斷乎タル決著ヲ見ル能ハサルモノ、如クナルヲ以テ、尙艦隊ノ一勢力ヲ此ノ有事ノ際ニ當リ、空

シク當方面ニ存在セシムルハ策ノ得タルモノニアラス、故ニ意見ヲ具シテ大本營ノ指令ヲ仰カントス、貴意如何ト、之ニ對シテ午後九時二十五分ニ至リ、外波中佐ヨリ意見御上申ハ適切ノ時機ト認ム、領事モ亦同意ナリ、但引揚前麾下艦艇ニシテ入港シ得ヘキモノハ、總テ吳淞ニ入港セシメ、一應我カ威カヲ示スノ有益ナルヲ認ムル旨ヲ返電シ來レリ、次テ九月一日午前六時十分瓜生司令官ハ、通信用トシテ雲雀ヲ吳淞ニ入港セシム、之ヲ上海沖到著以後ニ於ル第二回ノ水雷艇派遣ト爲ス、而テ八時外波中佐ニ向ケ、麾下艦艇ヲ吳淞ニ入ル、ハ、固ヨリ有益タルニ相違ナキモ、武装解除ニ決シタル後ハ、他方面ノ備ヘニ重キヲ置カサルヘカラサルカ故ニ、吳淞入港ヲ止メ、單ニ雲雀ノミヲ通信ノ爲メ派遣シ、二日午前九時出發シテ朝鮮海峽ニ歸港ノ豫定ナリト告ケ、九時三十分浪速ヲ留メ、常磐新高ハ大賤山島附近ニ移リ、午後一時瓜生司令官ハ、伊東軍令部長ニ左ノ如ク發電ス、

露艦ハ武装解除ニ決シ既ニ旗章ヲ撤シ、又武装解除ニ著手セル今日ニ於テ、殘ル所ノ問題ハ幾何ノ程度ニ武装解除ヲ實行セシメ、該戰鬥員ヲ處置

セシムルカノ細項ニ過キスシテ、而モ急速斷乎タル決著ヲ見ル能ハサル
 モノ、如シ、就テハ本職ハ一先ツ艦隊ヲ當方面ヨリ引揚ケ得ルノ時機ニ
 非スヤト思考ス、然シ尙本隊ヲ當方面ニ止メ置クノ必要アルモノナレハ、
 炭水補充等ノ都合モアリ、此ノ段意見ヲ具シ御指令ヲ乞フ、尙當方面引揚
 前入港シ得ヘキ艦艇ヲ吳淞ニ入港セシメ度トノ領事及ヒ外波中佐ノ希
 望ナルモ、今日ノ場合最早其ノ要ヲ認ムルヨリモ、他方面ニ對スル警戒ヲ
 重視スルヲ以テ斷リ置ケリ、

同六時常磐、新高更ニ錨地ヲ變セシカ、二日午後四時三十五分外波中佐、井原
 書記生、瓜生司令官ヲ訪ヒ、露艦ノ情況ヲ告クル所アリ、次テ三日午前零時三
 十分伊東軍令部長ヨリ、浪速ヲ對州海峽警備ニ復歸セシムヘキノ命アリ、六
 時艦隊ハ「I」地點ニ歸リ、瓜生司令官ハ午後七時四十五分浪速ヲ竹敷ニ向ケ
 出發セシメシカ、六日午後五時ニ至リ伊東軍令部長ヨリ、午前十一時四十五
 分發ニテ左ノ命令到達セリ、

旅順口ノ敵艦隊ハ依然港内ニ蟄伏スルモ尙港外ノ掃海ヲ斷念セサルモ

ノ、如ク、浦鹽艦隊ニ就テハ其ノ後聞ク所ナシ、ダイヤーナハ尙柴棍ニア
 リテ武装解除ニ決定ス、バルチツク艦隊未タ東航ノ途ニ上ラサルモ、彼ハ
 益、諸準備ヲ勵行シツ、アルノ報アリ、我カ聯合艦隊ハ依然旅順口封鎖ヲ
 強行シ、第二戰隊ハ朝鮮海峽ニアリ、而テ我カ驅逐艦ノ數隻ハダニ一及
 ヒ佐世保ニアリテ艦底塗替、機關修理ニ著手シ、第九水雷艇隊ハ旅順口方
 面ニ前進ス、貴官ハ便宜麾下艦艇ヲ率非其ノ地ヲ發シ朝鮮海峽ニ復歸ス
 ヘシ、但爲シ得ル限リ我カ艦艇ノ上海方面ヲ去リタルコトヲ祕密ニ保ツ
 ヲ要ス、

是ニ於テ瓜生司令官ハ午後七時常磐、新高雲雀、鶉ヲ率非テ、尾崎ニ向ヒ出發
 シ、八日午前六時四十五分同所ニ歸著セリ、

第五目 柴棍ニ於ル「ダイヤーナ」ノ抑留

露國巡洋艦「ダイヤーナ」ハ八月十日海戰ニ於テ甲板及ヒ水線下ニ各一彈ヲ
 受ケ、將校一名卒三名ノ戰死者及ヒ二十三名ノ負傷者ヲ出シ、日沒比僚艦ア
 スコリド「ノーツ非ク」ト殆ト同時ニ戰線ヲ脱シ、單獨全速力ニテ夜ニ乘シ先

ツ山東高角ノ方ニ遁レ、途中數次我カ艦艇ヲ認メタリト云フ、而テ山東高角
 ノ陰ニ入ルニ及ヒテ更ニ南方ニ變針シ、上海附近ヲ過キテ後、始テ速力ヲ緩
 メ遙ニ南走シ、廣州灣ニテ石炭ヲ搭載セントセシモ、少量ヲ得ルニ過キサリ
 シヲ以テ、更ニホンガイ （ポールクルベ
 11ト同所ナリ）ニ寄港シ、之ヲ搭載シタル後、二十四日佛
 領柴棍ニ入港セリ、其ノ情報東京ニ到達シタルヲ以テ、帝國政府ハ佛國政府
 ニ交渉シタル結果、終ニ九月十日其ノ軍艦旗ヲ撤シ、武裝ヲ解除シ、乗員ハ佛
 國領土内ニ收留セラル、ニ決セリ （ザイヤーナ和留願末ハル
 テ第九部國際事件ニ護ル）